

此時ニ當リテハ列藩金銀札ヲ勿論銀札ト雖モ老願濟ニ至テハ樽ニ之ヲ封内ニ發行スルヲ禁ズ然レ雖此等禁戒ハ殆ンド有名無實ニシテ各大藩中藩東北地方ヲ除クノ外封内ニ在リテハ享保以降其發行スル處ノ藩札ハ月ヲ逐ヒテ増加スルモ減ズルナク四國九州中國地方及ビ北陸ノ加能越前越中地方ノ如キハ各地藩封内限リ通用ノ藩札ヲ以テ其通貨ト爲シ是等地方ノ人民ハ或ル一ノ部類ヲ除クノ外唯ダ藩札アルヲ知リテ未ダ曾テ小判ノ何物タルヲ知ラザルノミナラズ金銀貨ヲモ亦生涯用ユルナキモノ多キニ居レリ

此ノ如ク一方ニ於テハ金銀寶貨ノ品位錯亂シ輕重混雜シテ良貨幣ハ彌惡貨幣ノ爲メニ排斥驅逐セラレ他ノ一方ニ於テハ各藩雜駁ノ藩札各々其封内ニ行ハレテ他領ニハ通用セズ而シテ此紛紊ハ舊政府ノ中世ヨリ已ニ胚胎シテ其端ヲ發シ爾來天保以後歲々逐フテ彌々其弊害ノ速力ヲ増加シタルヲ以テ舊政府ノ末路ニ及ビテハ其通貨ノ形勢雜駁紛紊案言フニ忍ビザルノ現象ヲ呈スルニ至リタリ
全年十月月行司ヨリ兩替商ニ向テ緡錢其他ノ中ニ鑄錢ノ交レルアレバ容赦ナク之ヲ選除シテ受取先へ差戻シ或ハ又相場所へ差出スベキ旨ヲ以テセリコレ正錢ト鑄錢ノ區別ヲ截然ト立テシメムト欲スルヨリ爰ニ出ダタルナリ

口 達

先達テ於東御役所被仰渡候者ニ似寄候銚惡錢等選除且算不足等無之様正路之取引致旨御達置候得バ一統承知之事ニ付追々選除候惡錢相場所へ持參ノ仁モ有之候得仁多人数ノ内ニハ選除候惡錢得意先へ差戻シ候義モ相選出候義斟酌致亦ハ不吟味ノ仁モ有之趣相聞候甚ダ以テ心得違ノ事ニ候右ハ金正銀惡錢ノ差別紛數錢モ可有之哉ニ付キ心得違出來候義ニ候間以來選除候義ハ金銀是改同様ニ相心得近來似寄ノ惡錢取交リ候ヨリ以前ニ見來候錢ノ外紛數惡錢却テ選除可被申候耻無斟酌夫々受取候先へ差戻シ可申候様ト先達申達置候通り手許選出シ實惡錢有之候ハ、早々相場所へ御差出可被成事

右之通申達候間各組合中へ不洩様早々御通達可被成候以上
天保七申年十月
今日御行司衆ヨリ本文ノ通御達有之候間御承知ノ上御調印被下早々御願路廻リ留
ヨリ月行司方へ御戻シ可被下候

月行司

日和佐屋三之助

然ルニ同八年ニ五兩金及一分銀ヲ創鑄セリ所謂古一分銀ナルモノニシテ此年ヨリ安政元年ニ至ル迄十八年間ノ鑄造額ニ千九百七十二万九千百兩ニ上リ又小判一分判金貨及ビ丁銀豆板銀ヲ鑄レリ其鑄造額ハ天保小判及一分判金貨ハ此年ヨリ安政五年ニ至ル迄二十二年間ニ八百十二万四千五百五十兩大判千八百八十七枚又二十二年間ニ改鑄セラレタル丁銀豆板銀即チ保字銀額ハ凡十八万二千八百八貫目ナリシト云フ此ヲ舊政府貨幣變革ノ第八回トス

同十一年十一月古金引替ニ附キ例ノ如ク歩増ヲ爲シテ引取ル可キ旨ヲ令シ以テ須臾モ貯藏スル事勿ラシメントセリ

一古金引替方之儀先年相觸候趣モ有之候處其後年數相立候得テ未引替殘有之哉ニ相聞如何事ニ候此後引替差出候モラハ奉保以上ノ古金百兩ニ付代リ新金百九拾兩元之字有之古金ハ同斷ニ付百參拾兩乾之字有之古金ハ同斷ニ付百兩其餘元文以來

一吹直ニ相觸候分ハ兼テ相觸候通矣等手當相渡候筈ニ候間聊モ不貯置後藤三衛門役所并江戸京大阪其外在差引替御用相勤候モノ共之内へ差出早々引替可申候此上

猶又貯置候趣於相聞ハ糺之上急度及沙汰候儀モ可有之條其旨相心得候様御料ハ御御代官私領ハ領主地頭ヨリ入念可被申付候

古金銀引替ニ附テハ是迄幾回トナシ命スル處ナリタレモ其政令ヲ行ハルベク見ザルヨリ同十三年八月三日ニ至リ凡テ古金銀并ニ從來停止品ヲ所持セルモノハ一々其員數ヲ列記シテ差出スベキ事ヲ以テシ且ツ世人ノ重寶トシテ貯藏スルノ謬見ヲ打破シテ金錢ハ世上通用ヲ以テ寶ト爲スガ故ニ若シ之ヲ圍置クニ於テハ一己ノ寶トハ見做ス事ヲ得ベケレドモ天下ノ寶ニハ相成ラズ云々ト諭示セル如キハ理少過ギタル上意ノ程具ニ畏シトヨリ謂フベケレ

一文政度以來金銀吹直被仰付候處當時保字金銀一分朱銀貳朱金等ヲ以專ラ世上通用ニ被成置候右ニ附テハ文政度之文字金銀草字貳分判ニ朱銀一朱銀此度不殘通用被仰出候間其旨相心得凡古金銀是迄之停止之品トモ所持致候者ハ多少トモ右體之員數銘々ヨリ書付其筋ハ可指出候數度引替之儀相觸候得共今以引替殘リ之分不少候ハ畢竟金銀持圖候餘力有之者其品位宜ト存候方ヲ寶ト致シ隱置候故ニ候哉人情ニ於テ無謂事ニハ候得共心得違ニテ候金銀ハ世上通用ヲ以テ寶ト致シ候事故品位何程宜敷金銀ズリトモ既ニ停止之止ハ持圖ト候モ一己之寶ト致シ候迄ニテ世上一

同之寶ニハ不相成候公儀御製作世上之寶タル品ナ一己之私ヲ以テ寶ト致シ持圖ヒ懸置候ハ心得違ニテ觸出之趣ヲ背キ罪科輕サル儀ニ有之

右之通可被相觸候

右被仰渡候趣支配所村々廻狀ヲ以觸渡請印取候迄ニテハ一紙之御趣意不相辨モノ共モ有之通用停止之金銀持圖置不書出及露顯御咎被仰付支配之越度ニモ相成リ嚴重之御沙汰ニモ至リ候テハ不相濟儀ニ候間御諭之趣能々可相辨候様厚ク可被取計候且持圖候員數有之儘書付ヲ以申立候得バ引替方之儀申渡候手續ニ有之尤持圖候節ニハ無之當用ノ爲致所持候分ハ兩替屋へ指出引替候儀ハ不苦事ニ付別紙名前者共へ引替方申渡置候間勝手次第引替不苦候條其旨末々之者共迄モ行届候様可被取計候

金引替所

本町一丁目後藤三右衛門役所。駿河町三井組爲替御用取扱所。本兩替町十人組爲替御用取扱所。本草屋町三谷三九郎。室町三丁目竹原屋文右衛門。上槇町泉屋甚兵衛。金吹町播磨屋新右衛門。田所町井筒屋善次郎

上方筋引替所

京都新町六角下ル町。大阪高麗橋三丁目。三井組御用取扱所

京都兩替町御池下ル町。大阪平野町二丁目。十人組右同斷

右之外上方筋引替所之儀ハ追々申渡候積リニ付右申渡相濟次第追テ可及沙汰候

其レト同時ニ錢相場ノ下落ハ全ク相場ノ不同ト且ツ他領内ニテノ鑄錢ノ浸入シ來レル

ヨリ之ガ影響ヲ蒙ルニ在リトシ堅ク其ヲ取締ルベキ令ヲ下セリ

一連年錢相場下直ニテ諸國直段モ相響キ下々致難儀其上問屋組合停止後ハ相場不同

ニテ所ニ依リ取引釣錢等區々ニ相成候趣相聞候間以來金壹兩ニ付錢六貫五百文替

之積ヲ以可致賣買候且仙臺角錢石卷錢其外諸國ヨリ錢相廻候儀一切可爲無用候若

相背族於有之右錢取上嚴重ノ咎可申付候

全十四年六月ノ觸書ニ依レバ丁銀ノ包ニ往々員數ニ缺損アルヨリ爾後上包ニハ必ず仕所姓名ヲ記シテ包先ニ於テ其責任ヲ帶バシムル事ト爲サシヌ之レニ因テ兩替商ヨリモ請書ヲ差出シタリ

丁銀包兩替之節欠立候趣如何事ニ付向後ハ包候兩替屋其町所名前急度相記シ都而無

銘之包銀通用致間舖萬一懸改欠立候ハ、包ノ名前ヲ以可申上吟味之上嚴重ニ可及沙

汰旨兩替屋渡世之者共ハ不洩様可申聞候

右之通町中へ相觸候間常是包之外ハ銀包候者町所名前記無之分ハ通用不致候

六月

右之通從江戶被仰下候條此旨三郷町中可觸知者也

石見

兩替

寅七月

遠江

總年寄

右御觸書之趣承知仕候以上

寅七月七日

兩替屋 錢屋 佐兵衛

舊記ヲ案ズルニ天保十四年癸卯八月十七日舊政府ノ調査ニ據レバ此日世上通用ノ寶貨五兩判天保小判一分判一朱金天保大判一分銀ノ六種ヲ合計シテ凡ソ千五百十五万三千八百二兩此ノ他古金銀(當時法制上ニ於テ)ノ世上ニ存スルモノ古金銀凡ソ九百五十三万八千九百八十五兩古銀貨凡ソ二百五十二万八千五百九十七兩余並古豆板凡ソ廿三万七千九百九十五貫四百目余ニ居リ

本邦引用スル處ノ舊記貨幣祕錄ニ當時貨政紊乱ノ弊ヲ記シテ曰ク

金銀吹替ニ付キテノ出目納(出目納トハ政府ノ所納ニ入セラル、義ナリ)ナ文政年度以來御益納ト唱ヘ來レリ是レ小人ノ上下ヲ欺罔スルノ僻事ナリ其品位ヲ貶シ其輕重ヲ損シ其數ヲ細クシテ之ヲ益ト云フベケンヤ假令バ一石ノ米ホ一斗宛一口ニ分ケ其各口ニ稅糖ヲ九斗宛加ヘテ一口各一石宛ニ充タシメ之ヲ九分ノ益アリト云フガ如シ況ンヤ屢々改鑄スレバ其度毎ニ吹欠ト稱シテ消耗セラレル、モノ鮮カラズ其實損アリテ益アルコトナシ故ニ元文以前ハ益納ト唱ヘシコトヲ聞カズ今左ニ天保三年ヨリ全十三年迄十一ヶ年ノ間各歲出目納乃チ益納ノ名ヲ以テ政府ニ納メタル金員ヲ列載ス

天保三年	三九四、二〇〇兩餘	天保四年	五四〇、〇〇〇兩餘
全 五年	四七〇、五九六全	全 六年	六〇〇、〇〇〇全
全 七年	四九九、八四四全	全 八年	六二九、二六三全
全 九年一、〇七五、九五〇全		全 十年	六九四、七四五全
全 十一年	九九七、〇〇〇全	全 十二年一、一五五、〇〇〇全	
全 十三年	五〇一、四四五全		

右十一ヶ年通計

七、五五八、〇四三兩餘

十二ヶ年平均每一ヶ年分益納

六八七〇九四兩餘

右ニ記スル處ヲ以テ見レバ當時實價改鑄ノ益金ナルモノ亦巨額ト滑フベシ然レモ此益納ナルモノハ正經的ノモノニアラズシテ全ク朝三暮四ノ術數ニ出デ前度ノ貨品ヲ劣惡ニシテ以テ稱呼上ノ貨數ヲ増シタルモノニ過ギズ貨制ノ紊亂益々甚シキニ至レルモ亦偶然ニアラザルヲ知ルベキナリ

同年八月十二日町年寄ヨリ去十三年中令アリ以テ金銀ノ通用ヲ停止セラル、處アリタレモ其中ニモ特ニ一朱銀ノ如キハ遍ク世上ニ流通セルガ故ニ今猝ニ之ガ引替ヲ迫ルニ於テハ或ハ恐慌ノ起スノ虞ナシトモ謂フベカラズ故ニ宜シク兩替商其他身元アル町人等ニ於テ此間ノ消息ヲ諒承シ以テ徐ロニ新金銀ニ引替ヘ遣スベキ事ヲ以テセリ依而兩替仲間ノ重ナルモノ連署シテ此ガ請書ヲ差出シタリ

覺

此度文字金銀草字二歩判貳朱銀一朱銀等通用停止相成候ニ附テハ右觸面之通所持之者ハ多少共員數銘々ヨリ書出候儀ハ勿論之事ニテ於奉行所猶又嚴重之糺方可致儀ニ候得レ右之内一朱銀之儀ハ當時專致通用候ニ付而ハ身薄キモノ持合ノ分追而引替方之儀相達候迄其儘ニ相成居候而ハ取續方等ニ拘候分モ可有之哉ニ付右様之者ハ其町

之年寄ハ不及申於其方共モ能々致世話所柄ニ寄兼而積金有之町々ハ其内ヨリ引替遣シ置候共又ハ身元宜兩替屋其外町人杯ヨリ及談引替貫遣シ候而書出方名前之儀ハ相對次第致シ何レニモ身薄ノ者取續方等不差支様取計可遣候右之段差心得町々年寄共ハ無落度可申論事

右御觸書之趣銘々儘ニ承知仕候且又借家ノ者ハハ夫々其家主ヨリモ不洩様入念相觸可申候爲其銘々印形仍而如件

天保十四年寅八月十二日

- 京屋甚三郎 榎並屋五兵衛 大坂屋七兵衛 鹽屋庄助 錢屋佐兵衛 平野屋佐兵衛
- 衛 錢屋市兵衛 三宅屋文三郎 石灰町作次郎 丸屋佐兵衛 平野屋利兵衛 丹波屋平兵衛

年寄

大和屋源次郎殿

同月廿日ニ至リ世間或ハ一分銀モ一朱銀ト同様ニ通用停止ノ運命近キニアラント猥リニ臆測ヲ逞フシ類々兩替商ノ手ヲ煩スモノ多キヲ慮テ乃チ此觸書ヲ下シヌ依之總年寄

ヨリ更ニ一般ニ向テ布告スル處アリタリ

此度一朱銀等通用停止相成候ニ付而ハ一分銀モ同様停止相成可キ様ト右不取留浮説致シ候モノ有之ヨリ所々兩替屋へ專ラ一分銀引替ニ被越混雜致シ候由相聞へ如何之至ニ候右様之儀ハ無之事ニ付其旨ヲ存是迄之通通用差滯申間敷段町々へ得ト可申論候事

右之通此方共迄被仰出候間混雜無之様早々可被申論事

八月十九日酉ノ中刻

南組 總年寄

尙ホコレト同時ニ一朱銀所持ノ員數ヲ記載シテ差出スベク令セリコレ其毫モ貯藏スル處ナカランメンガ爲メナレバナリ

一朱銀町々之所持之高早々取調半紙ニツ折ニ相認貳通リツ、可被差出事

同年十月去十三年八月令セシ旨ヲ繼承シテ古金銀ノ引替ヲ迫リ其引替所ヲ指定スルモノ左ノ如シ

文政年度文字金銀平字ニ步判ニ朱銀一朱銀等此度不殘通用停止被仰出候ニ付所持之者之員數書附々其筋へ可差出旨之御觸面ニ付酪々之國持ハ員數有之候儘書付ヲ以申立候得ル引替方之儀相達候手續有之候へ國持候筋無之當用之爲メ所持致シ候分ハ

引替候而モ不苦候且一朱銀之儀モ當表引替所左ノ通り

高麗橋三丁目

爲替三井組

御用取扱所

平野町貳丁目

爲替十人組

御用取扱所

銅山御用達

住友甚兵衛

豐後町兩替店

今橋二丁目

鴻池善右衛門

玉水町

加島屋久右衛門

大川町

加島屋作兵衛

内平野町

米屋平太郎

和泉町

鴻池屋新十郎

今橋二丁目

鴻池屋善五郎

吉野屋町

辰己屋彌吉

立賣堀四丁目

近江屋休兵衛

安土町二丁目

炭屋安兵衛

今橋一丁目

平野屋五兵衛

玉水町

島屋市兵衛

今橋二丁目

鴻池屋庄兵衛

平野町二丁目

米屋喜兵衛

過書町

天王寺屋忠次郎

北久太郎町三丁目

近江屋半左衛門

右之者共方ニ而引替爲取扱候間右之内勝手ノ場所差出引替可申尤一朱銀ニ不限前書
 金銀之分トモ所持ノ員數書出候高之内無餘儀譯ニ而追而引替所へ差出引替候儀有之
 間敷共難申候間右様之類ハ其金銀高并引替所名前共相認其筋へ申立候得バ書上高之
 内引替通用致候而モ是又不苦候間當用ノ爲メ所持ノ分ハ早々引替可申候其餘圍持ノ
 之分ハ最前厚御觸面之御趣意相辨へ聊不隱置所持之員數有之儘可書出候

一 武家其外共町人へ相對ニ而申付前書名前之モノ共方へ差出爲引替候儀ハ勝手次第ニ候

一 前條ノ通引替方申渡候上ハ假令當用ノ爲メ所持之分斗ニ候共夫々身元之厚薄ニ依リ當用之多少モ有之引替一時ニ落合混雜不致爲メ當分之處ハ日々人數并ニ引替高ナモ大凡取極取扱候様引替人共へ申渡候間ニ統右之趣三郷町中不洩様可觸知モノ也

天保十四年寅十月

若 狹

遠 江

南 組 總 年 寄

其レト同時ニ羈旅中ニ在ルモノ、引替へ方法ニ就テ指定スル處アリタリ此レ他行ニ托シテ其手續ニ着手セザルノ徒アラン事ヲ慮リテノ周到ナル用意ナリトス

文政度之文字金銀草字ニ分判貳朱銀一朱銀等不殘通用停止被仰出銘々持圖候員數有之儘ニ書出候様御觸有之候處遠國宿場等へ相掛リ候旅人杯右御觸不存以前出立致シ此度通用停止之金銀爲當用持參リ拂方等差支候趣モ相聞候右ハ停止之金銀ニ候トモ持圖ノ筋ニ無之當用ノ爲メ所持致シ候分ハ其場所々々ニテ請取不苦事ニ有之拂ニ受取候モノ其最寄兩替致候モノ、方ニ而差出シ引替候共或ハ年貢等ニ相納候ハ勝手次第之事ニ有之年貢等ニ被取立候分ハ御勘定所へ斷次第早速引替可相渡候得トモ是又

別紙名前之諸之方ニ而引替候共不苦事ニ候

天保十四年寅十月

若 狹

南 組 總 年 寄

金銀引替所 三谷三九郎 後藤三右衛門役所

本津屋町 井筒屋善次郎

田所町 銀座

金銀引替所 三井組爲替御用取扱所

駿河町 十人組爲替御用取扱所

上横町 泉屋甚兵衛

神田旅籠町

上方筋金銀引替所

石川屋庄治郎

京都新町木角下ル町

三井組

太坂高麗橋三丁目

爲替御用取扱所

京都兩替町御池上ル町

十人組

大坂平野町二丁目

爲替御用取扱所

同年十月十五日一朱銀引替ニ附キ其混雜ヲ防グ方法トシテ豫メ木札ヲ渡シ置キ順次其
 運ビニ爲サシムル事ヲ以テセリ斯ク爲スニ於テハ獨リ雜沓ヲ制止スルノ手段タルニ止
 ラズ亦其引替ニ餘議ナカラシムルモノ存スレバナリ
 壹朱銀引替ニ付木札五枚ヅ、町毎ニ相渡候右一枚ヲ五兩以下ノ積ヲ以明十六日ヨリ
 日々五日之間引替可被越五日之内之前日又五枚宛五日分追々相渡幾度モ右之通之仕法
 ニテ引替相成候様ニ候間其旨被申聞引替ニ被越候モノカサツ無之様相心得引替所不
 及混雜候様有之度候條年寄ヨリ申達可被差遣候
 但町々之方ハ鴻池善右衛門外十四人方ニテ引替可申候町々之外端々從總會所御觸
 事等相違候場所之分ハ員數差出候上ニテ引替所之名前心得方等可申達候

天保十四年十月十五日

同年同月廿一日再ビ前者ヲ繰返シテ引替ヲ迫リ且ツ一朱銀ノ如キハ其數量多キヲ以テ
 遠國ニシテ引替所へ持運ブニ不便感ズル者ニハ其道程ト金高トニ應ジ相當ノ手當ヲ
 取ラスベキ事ヲ以テ之ガ履行ヲ計ルモノ例ノ如シ依之總年寄ヨリ一般ニ布告スル處ア
 リタリ

古金銀眞字貳分判古貳朱銀ニ引替所之儀當寅十月迄被差置候段去丑年相觸候處今以
 引替殘モ有之且此度文政度之文字金銀眞字貳朱銀壹朱銀共不殘通用停止被仰
 出候ニ付引替所之儀猶又來卯十月迄被差置候間其旨相心得持圖候分ハ員數書出シ引
 替方之儀ハ其筋ヨリノ差圖ヲ請可申候此度停止之金銀ハ是迄持圖居候筋ニ無之當用
 之爲取遣リ致シ居候分取寄兩替致シ候モノ之方ニテ引替兩替ニ取候モノハ取集次第
 取寄引替所へ差出來卯十月ヲ限リ急度引替可申候右ニ付而ハ古文字金銀文政度之文
 字金銀眞字三分判新古貳朱銀之儀ハ是迄之通御手當可被下候
 一壹朱銀之儀金高多ク所持致シ最寄ニテ兩替差支直ニ引替所へ差出シ又ハ遠國在々
 ノモノ兩替致シ取集置引替所へ差出シ候分ハ持越候入用モ可相掛儀ニ付差出シ候者
 ノ住所ヨリ銀座并其最寄引替所へ道法五里以上相隔リ候者ノハ里數遠近并ニ金高

ニ應シ爲諸入用御手當被下候間御料ハ御代官私領領主地頭ニテ右手當相願候ハ取
調江戸銀座へ申立候様可致候尤當人又ハ其身寄之者ヨリ直ニ銀座へ願出候テモ不苦
候

但非常備ハ爲領主地頭ニテ圍持候分并領分知行之者所持之ニ朱銀領主地頭ニテ取集
メ差出シ候分共本文割合之通り諸入用可被下候
右之趣御料ハ其之處奉行御代官私領ハ領主地頭ヨリ入念可被申附候

寅十月

右之通從江戸表被仰付候ニ付最寄致兩替候モ聊不危踏候以モ引替差支ナキ様取扱
可遣候右ニ付大阪兩替屋共取集候分引替所ハ差出方手等等之儀ハ十人兩替屋共委細
申渡置候間其旨可存候

一右ハ來卯十月ヲ限リ引替候等ニ候上ハ一朱銀引替差出候銘々先申出多人數込合
引替所并兩替屋ニ混雜爲致申間敷候夫々心妙引替可申ハ勿論所之者共ニ於テモ心夫
付可取扱候
右之趣三郷町中不洩様可觸知者也

寅十月

遠江

然ルモコレ同時ニ又一朱銀引替所獨リ兩替商ハニニ委ヌルニ就テハ勢ヒ事務ノ濫
滯ヲ免レザレバ別ニ鴻池善右衛門外十四人方ハ分擔セシムル事ヲ以テセリ其引替ニ慮
テ起スモノ實ニ到レリ

壹朱銀之儀引替札一枚五兩以下之積ヲ以町々へ相渡候處此度來卯十月迄引替所御差
置相成リ兩替屋ニテ引替可申旨被仰出候然ル處兩替屋許リニテハ引替難行届可有之
ニ付猶又引替キ札相渡候間一枚三兩以下宛ノ積リヲ以テ鴻池善右衛門外十四人方へ
引替被越其外之儀ハ此間相達候通可被心得候

但引替札五日分宛相渡日限前日ニ組合之内下代へ相渡候積
全年十一月將サニ通用ヲ停止セラルベキ一朱銀ノ引替ヲ申出ヅルモノ夥多ニシテ隨テ
兩替ニモ差支生ズルヨリ乃チ一ノ便法ヲ設ケ其切實ハ破格ヲ以テ取引スル下
トシ且大阪一圓ニ限リ當分素人同土當座ノ取遣ハ差支ナキ旨ヲ以テセリ

此度御用停止被仰出候金銀持圓候筋ニ無之當用ヲ爲メ取遣シ致シ居候分ハ最寄兩替

致候宿方ニテ引替兩替ニ取寄セ取集次第最寄引替所へ差出來卯十月ヲ限リ急度引替可申旨等之儀御觸渡有之候處此節諸國ヨリ多分之一朱銀引替ニ出進ミ兩替ニ取候儀モ差支候趣相聞此姿ニテハ追々年末ニ至リ金銀取引多端ノ時節ニ差向此上不輕易差支ヲ生可申筋ニ付一朱銀切實之儀兼テノ取極等ニ不泥別格ノ心得ヲ以取引致シ何レニモ兩替候義差支無之様可致旨等之儀兩替屋共へ申渡候付テハ追々及沙汰候迄町々素人同士ニ而モ當地限リ當用之爲一朱銀取遣致シ候儀勝手次第之事ニ候

天保十四年寅十一月

右之通三郷丁中へ不洩様可申通事

斯クテ其翌十二月再ビ引替ニ就キ便宜法ヲ設ケ乃チ大阪ニ於テ引替ニ差支ヲ生ズル時ハ江戸取引先等へ相廻シ同所ニ於テ引替へ然シテ後其向へ相渡スベク爲替ヲ取組ムモ亦々差支ナキヲ以テセリ要スルニ迅カニコレガ結了ヲ告ゲン事ヲ庶幾フノ外ナシ

口達

通用停止金銀引替之儀ハ追々出進別而一朱銀多分ニテ兩替屋共取集候分引替所へ差出候而モ一時ニ金高之引替差支候趣相聞候ニ付テハ兼テ出入致シ候諸家江戸屋數へ正金差下候儀有之節ハ一朱銀ニ而江戸取引先等へ相廻シ同所ニ於テ一分銀ト引替之

上其向へ相渡候積リヲ以爲替取組候而モ不苦旨當十月兩替屋共へ申渡置候處以來右之者共へ不限素人ニ而江戸取引先等へ同様差下同所ニ於テ引替之上辨用致シ候義勝手次第勿論一朱銀ニ限リ候事ニモ無之文字金又ハ貳朱銀ニ差下同様取斗候而モ是又不苦候間兩替屋并素人一同其旨ヲ存江戸取引先之者ト相對次第可致候

右之通り三郷町中へ可申通候事

○

天保十四年寅十二月
此時ニ當リテヤ錢相場ハ漸ク低落シコレニ反シテ諸物價ハ頓ミニ騰貴ヲ現ハシケルヨリ世上一般ノ不景氣ヲ告ゲケルニザサルカラニ兩替商ノ重ナルモノ互ニ諮議スル處アルテ之ガ原因ヲ撲滅センガ爲メニ乃チ錢ノ買入ヲ爲シ以テ需要ト供給トノ平衡ヲ保タシメントセリコレ畢竟私利ヲ營ムニアラズシテ專ラ公利公益ヲ慮ルヨリ出デシモノナレバトテ爰ニ褒辭ヲ左ノ人々ニ下シタリ

兩替屋之内

錢屋佐一郎代判

作藏外十一人總代

錢屋宗兵衛

布屋善兵衛

加島屋作次郎代判

孫一外貳人總代

鴻池屋重太郎

代判左七郎

谷屋清兵衛外拾八人總代

山本屋伊右衛門

境屋治郎兵衛

丹波屋忠兵衛

舛屋利助外十五人總代

天王寺屋儀助

綿屋太兵衛

島羽屋善兵衛

竹門彦太郎代判

孫兵衛外六人總代

鏡屋彌兵衛

灰屋淳右衛門

平野屋吉右衛門外廿二人總代

平野屋彦兵衛

川口屋新右衛門

金馬屋茂三郎

米屋伊太郎代判

又兵衛外五人總代

米屋分兵衛

米屋太兵衛

此度諸色直段ハ勿論工手間其外手傳日雇賃錢等ニ至迄都テ貳割以上引下之儀相觸候
ニ付テハ錢相場下直ニテハ別而身輕キモノ共取續方差支候趣相觸候ニ付相場引立之
爲メ錢御買上相成リ猶又十人兩替屋其外之者モ引立方之儀申諭町中へ口達觸ヲモ差
出候次第其方共厚相辨追申合買持錢等致シ錢相場引立方之儀專ラ駈引致シ候趣相

開落別寄持之儀其附將同譽置候買表證等並之儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段
候之儀購買上味與之儀及十人兩替屋其儀之儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段
ニ付マハ儀味證可証ニマハ儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段
儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段立式之儀事之儀其式之儀計數段

炭屋 安兵衛
炭屋 彦五郎
又其儀米屋長兵衛

兩替屋之内

今橋下丁目

鴻池屋 善右衛門

同所下丁目

平野屋 五兵衛

同新町

平野屋 仁兵衛

代劉 權兵衛

内平野町三丁目

米屋 平太助

代判 半左衛門

船町 代判 兵衛

加島屋 作五郎

豊後町

泉屋 甚治郎

南久木郎町三丁目

高野屋 傳兵衛

其方共儀近來錢相場下直ニテ自ラ諸色高價ニ到リ別而身輕キモ共致難儀候趣相聞
候ニ付右相場引立之儀追々申諭之趣意厚相辨録々多分之儀高損益ニ不拘買入候而已
ナラズ外兩替屋并素人共ヘモ申談錢相場引旁掛引之義專骨折候段寄持之儀ニ付一同
譽置銀一枚ツ、差遣候

兩替屋之内

今橋下丁目

天王寺屋五兵衛

高麗橋三丁目

三井元之助

代判由兵衛

平野町一丁目

海部屋新兵衛

高麗橋一丁目

南八島田八郎右衛門

代判吉兵衛

上本町

油屋善兵衛

代判新兵衛

同新半左衛門

湊屋治兵衛

南久寶寺町四丁目

大川 犬黒屋伊太郎

代判吉兵衛

丸川町

池屋與三郎

代判定兵衛

平野町三丁目

炭屋方兵衛

南鑄屋町

吉野屋久左衛門

南笠屋町

本陣國分屋吉兵衛

我島町

傳法屋卯左衛門

本町三丁目

炭屋源藏

宗右工門町

國分屋 藤兵衛

淡路町三丁目 新助

好島大黒屋 新助

本町東丁目 新兵衛

平野屋 新兵衛

代理判 卯兵衛

北濱三丁目

平野屋 半九郎

其方共儀近來錢相場下直ニテ自ラ踏色高價到リ別而身輕キモノ共難澁致シ候趣相聞候ニ付右相場引立方之儀十人兩替屋共へ追々申渡候趣意其方共儀モ厚聞請右之者共ニ差續損益ニ不係銘々買入錢ニ致シ相場引立方之儀専心掛候段寄特ニ付譽置候

玉水町

加島屋 久右工門

大川町

加島屋 作兵衛

代判 伊兵衛

吉野屋町

辰巳屋 彌次

代判 列省 兵衛

今橋三丁目

池屋 善五郎

玉水町

瀧屋 市兵衛

梶木町

草屋 宗十郎

高麗橋三丁目

井八郎 右衛門

平野町二丁目

炭木屋 万太郎

尼崎町壹丁目
 玉水町
 加島屋十郎兵衛
 過書町
 天王寺屋忠治郎
 肥後島町
 堂島新地中壹丁目
 播磨屋仁兵衛
 江戸堀四丁目
 傳法屋五郎左衛門
 宇和島町
 雜喉屋三郎兵衛
 尼崎町壹丁目

金錢延商賣之内

三十六人總代

備後町貳丁目

海部屋善七

其方共前段十人兩替屋共へ申諭之次第厚聞受右之モノ共へ隨順之上損益ニ不損銘々
 買入錢ニ致シ引立方之儀專心掛候段奇特ニ付一同譽置候
 右之通申渡候條一同可致承知候

同十五卯年三月十日東御役所へ引替方十四人十人方五軒并住友甚兵衛御召被出被仰渡
 之寫

金銀貸附利足其外雜費等之儀ニ附キ最寄觸渡候趣ヲ銘々承知之事ニ而右觸面之趣相
 守候心得ニ可有之ハ勿論之所未行届事共モ有之夫ハ外之儀ニ而モ無之元女附茶屋當
 時旅籠屋共之内金銀寄合所杯ト唱別紙名面之向ハ分而夫々出入等致シ銘々取扱置金
 銀等ニ諸家來招候趣相聞へ候右全遊興之筋ニ而無益ノ雜費モ相懸リ風俗ノ妨ニ相
 成ル而已不成觸面可背候次第相當リ候此度旅籠屋差免候ハ旅宿泊之爲ニ而右様ノ出

會ニ可致場所ニハ無之尤モ是迄其方トモ承知ノ事ニ而商賣替致候モノヲコソ世話イ
タシ可遺義ニ可有之被存候トモ都而元茶屋之内寄合所杯ト唱出入イタシ候者共へ金
銀等貸遣シ厚世話致旅籠屋取建遣シ別宅同様ニ心得罷在之モノモ有之様相聞候甚以
心得違之事ニ而銘々別宅所持致罷在候モ畢竟居宅手狹等ニ而諸家家來出會等差支不
申様之爲ニ可有之處無其儀者ニ所持致居候別宅ハ全無益之設ケ奢侈一遍廉ニ相當リ
候ニ付取上ケニ相成リ候トモ致方ナキ事ニテ其方共御用筋ヲモ相勤重立候者共ニ候
へバ別シテ御趣意ノ旨相辨不申候而ハ不相濟出入等致候者共ハ可成丈正路ノ渡世ヲ
營ミ候様世話致シ遣候以後心得違無之様可致候此度申聞候趣不相守候モノモ有之候
ハ急度申附候義モ可有之候間其節後悔不致様可致候

コレ畢竟近時ノ所謂待合茶屋ノ類ニシテ其魔窟へ好シテ出入スルモノニ貸金ヲ爲ス如
キハ恰モ風紀ノ紊乱ニ加功シ及ビ冗費ヲ獎勵スルト何ゾ異ナル處ナランヤ故ニ此令ア
ルハ固ヨリ其所ナリ

同年四月總年寄ニ命ヲ傳へ大阪ニ於ケル素封家ノ多クハ兩替商ヲ重ニ渡世ト爲ス有様
ナルガ商賣ハ獨リ兩替ノミニ限ルベクモアラザレバ今少シ眼孔ヲ濶大ニシ一層公利公
益ニ資スルモノヲ擇ブベキヲ以テセリ思フニ此令アル所以ノモノハ徒ニ金銀ノ貸出ヲ

爲ストモ畢竟公利公益ノ点ニ於テ何等ノ貢獻スル處ナキヲ暗々裡ニ戒メタルモノナラ
ン歟

當表富有之町人共ハ多少兩替致渡世金銀ヲ貸出シ又ハ右ヲ口入致シ候ヨリ外身過無
之者モ以來相應之商賣相營ミ其余暇ヲ以テ金銀貸附又ハ口入業可致旨去寅六月相觸
候ニ付追々商賣相始候儀ニ可有之候得片右富有之者共ハ兩替斗ニ無之何成共有用之
品一ト廉之商相始諸國荷元ヨリ便宜シキ品勝手次第ニ引受其餘無商賣之者共ニ猶
更身分相應之商相始メ可相成丈ケ手廣ニ渡世可致候尤此後新規ニ商賣相始候モノハ
其段一鄉限リ相會所へ可申出候

天保十五卯四月

若狹

南組

佐渡

總年寄

其同月十六日ニハ錢相場ノ下落ヲ挽回セシメントテ銀ト錢トノ賣買相場ヲ規定シ及ブ
丈ケ諸物價ノ騰貴ヲ防ガントシ依テ令スル處アリタリ依之兩替商ノ重ナルモノ連署シ
テ町年寄ニ宛テ此ガ請書ヲ差出シタリ

口達

近來上方筋錢相場下直ニ而專ラ諸色ニ小賣直段ニモ拘リ身輕ノモノ難義致シ候趣ニ

付以來錢一貫文ニ付銀拾匁内之相場ヲ以テ賣買致間敷尤拾匁以上之相場相立候義ハ不苦旨此度觸渡候趣難有相辨別而錢商ヒ渡世之者ハ右ニ鈞合諸色直段彌引下實意ニ渡世可致ハ勿論兼テ御趣意之趣厚相心得町役人ドモニ於テモ精々世話可致候自然等開ニ相心得候モノ有之ハ急度可申附候間右之趣三郷町中端々迄不洩様可申聞置候事

天保十五年卯四月十六日

右御觸書之趣銘々髓ニ承知仕候且又借屋之者共ハ夫々其家主ヨリ不洩様入念相觸可申候爲其印形依而如件

- 京屋甚三郎 大阪屋七兵衛 錢屋佐兵衛 榎並屋五良兵衛 盤屋庄作 平野屋作
- 吉 錢屋市兵衛 石灰屋作次郎 平野屋利兵衛 三宅屋文三郎 丸屋作兵衛 丹
- 波屋宇兵衛

年寄

大和屋源次郎殿

同年五月廿三日令シテ兩替商ノ仲間組合ナル名義ヲ停止シ總稱ヲ兩替屋ト唱フル事トモシメヌ依之若シ銀錢等ノ重ナル通貨ヲシテ各自其相場ニ異同アラシメンニハ諸般ノモノニ影響スル處アレバ宜シク從來ノ如ク十人兩替ニ於テ取締ルベキ旨ヲ以テス

去寅三月間屋唱方等之儀ニ付御觸渡有之節賣買筋之儀先唯今迄之通可相心得旨申渡置候口々之内大阪表兩替屋之義ハ本兩替商兩替屋錢屋方三組ニ相別商賣仕來候處以來右仲間組合ハ彌以差止總体兩替屋ト相唱可申候尤モ銀錢相庭之義ハ融通第一之品ニテ自体上方之儀ハ專銀通用之場所ニ付右相場異同有之自儘之取引ニ相成候而ハ万價ニ拘不輕易義ニ付取斗方之義ハ唯今迄之通居置候間一統此旨ヲ存此後新規兩替屋相始候者ハ奉行所へ可申出ハ勿論右相場所之儀ハ是迄之通十人兩替屋共差配致シ不正之取計無之様取締可申候

卯五月

若狹

南組

佐渡

總年寄

此時ニ當リ國幣漸ク空乏ヲ告グルヨリ所謂御用金ナルモノヲ仰付ケラレ同時ニ其理由ヲ附シテ三郷町中へ令セリ依之之ヲ觀レバ御用金ハ全ク國恩ニ報ズル爲メニ提供スベキモノニテ其他ニ於テ別ニ意味ヲ含ムナキヲ諭示セリ同政府ノ牽強附會ヲ逞フスル概子此類ナリ

口達

此度大坂兵庫西宮堺表等之身元宜シキモノドモへ御用金被仰付候處右人數之内ニハ如何ニモ御主意ヲ重シ格別出精致シ分限ヨリモ相増出金致度存合候モノ有之候而モ以來諸家へノ用達金又ハ商賣筋取引或ハ入金等之類前々ヨリ凡割合申合置候類之廉へ相響此後自余割合之出金高可相増哉ト存量又ハ他之出金高之手本ニ相成外々之者ヨリ難澁可被申掛杯ト斟酌イタシ候者モ有之哉ニ相聞以之外之事ニ候此度御用金之義ハ左様之譯柄ニ拘候筋ニ者毛頭無之最前モ直ニ申論候通

御新政之

御徳道ヲ奉助事ニ而貳百年余昇平ノ御徳澤ニ浴シ安逸ニ暮シ御國恩ヲ難有存銘々力一盃ニ御用金可差出答ニ而都而自余取引之見競ニ致候者甚以心得違ヒノ至リニ候間右休之義無之様可致
一此度御用金申附候人數之外ニモ御國恩之難有存候者同事之義ニ付如此明時ナラデハ冥加ヲ辨へ候義相顯不申事ヲ殘念ニ存候モノモ可有之哉ニ付假令右人數ニ相洩居候トモ寄持之志有之上納金致度存候者ハ聊カ不及遠慮銘々封書ヲ以可申出候
一右御用金之儀前條ニモ申論候通銘々力ヲ盡シ納之義ハ正金ニ限ラズ手形ニテ相納候而モ不苦尤モ調達之仕義ニ寄り當年ヨリ三ヶ年ニ割合相納候テモ是又不苦事ニ候

然ル上ハ銘々調達致シ易ク差向金銀融通等ニ差障候筋更ニ無之處何角之浮説申觸レ右ニ拘泥之當然入用ニモ無之兼而預ケ金銀或兩替屋等へノ入込金銀等過急ニ取立又ハ米切手入替藥種類並合取組諸品仕入等差扣候モノ有之候而ハ重々心得違ニ候條一統此旨ヲ存金銀取引萬事不差支様可致自然一己之利欲ニ拘リ如何之取斗致シ候モノ有之由相聞候ハ、早速召捕吟味之上嚴鋪可申附候
右之趣三郷町中端々迄へモ不洩様可申通事

天保十五年卯七月

尙同年九月ニ至リ重テ前者ニ附テ言フ處アリタリ蓋シ素封家(大抵兩替商)ノ或者ハ往々御用金ヲ調達スル事ヲ以テ寧ロ名譽トシ及ビ將來自家ニ取リテノ得策ナリト信ズル傾キアルヲ以テ即チ此令アル所以要スルニ其意御用金ヲ憑憑スルニ外ナラズ

今日通達町々年寄西中ノ口ニ於テ御用掛惣年寄金谷實太郎様左之通被仰渡候御用金被仰付候ハ先月廿五日限ニ而新ニ御呼出無之旨達置候然ル處御呼出無之以前ニ御用金御差加へ之義願出又ハ上金申出候モノ此節日々罷出候處右呼出シ洩又ハ身元左様ニモ無之候得共御國恩ヲ存御用金ニ加ハリ度申立候義及遠慮御呼出ニ相成候ヲ相待居候者モ有之由右者前以御取調相濟有之者之外者此節罷出候様達ハ無之候間

若相洩候而ハ殘念ニ存且金高申出候而モ其上増方等致候義及懸念候而モ有之哉銘々志之限リニ申立候義ニ候右様ノ懸念不及此方共へ向平面差出候様可致候御呼出相洩候ヲ見合外聞等ヲ憚リ差扣候者本意無之最早追々御調濟ニ付御用金差出度又ハ平附ヲ以申出候様各々ヨリ可被申達候折角冥加ヲ存差出度志候モノ其儘差扣候而者期越ニ相成リ申立ノ期ヲ過シ候へハ存意空舖相成リ殘念ノ至リ候斯様申立出來候事ハ不容易義候條不遂本意候モノ無之様厚取計可申事

卯九月

御用掛リ

總年寄

嘉永二年十一月廿四日ノ町觸レニ依レハ當時錢ノ拂底ヲ告ケ來レルヲ以テ其ノ融通ヲ計ラント乃チ天保年間ニ於ケル相場ニ復サシメ以テ是ガ賣買ハ獨リ兩替商ノ專務ト爲サシメントセリ

一此節市中錢拂底ニテ兩替屋共賣錢差支候趣相聞候ニ付金一兩ハ六貫五百文之定相場立置候儀ニハ候得共當分ノ内天保相場ニ復シ打錢之儀モ以前之通相心得可致賣買候尤當時有來兩替屋之外ニテ錢賣買令停止候然ル上ハ兩替屋共利徳ニ迷ヒ一時ニ相場格別引上候儀致間敷候但日々相場之高下可申出候

同六年十一月廿七日ノ町觸レハ更ニ南銀一朱銀ヲ鑄造シテ之ヲ遍ク世ニ流通セシメントシ依而令スル處アリタリ

一此度世上通用之爲南銀上銀ヲ以一朱銀吹立被仰付候間右一朱銀十六ヲ以金一兩之積リ尤銀錢共兩替一分銀同様ノ割合ニ相心得取交通用可致右南銀一朱銀之儀金ト同様翌寅年正月廿四日ヨリ通用始ル

安政元年七月本兩替商へノ口達ニ依レバ丁銀封印ニハ其金銀ニ住所及ビ姓名ヲ記スハ勿論尙ホ其量目ヲモ嚴密ニ取調ブベキ旨ヲ以テス

一此度丁銀封銀ノ義御觸渡シ被爲在候ニ付キテハ本兩換包銀町所名前相記シ候義ハ元ヨリ尙取渡ノ義ハ追テ沙汰ニ及迄ハ是迄ノ通掛目入念取渡可被致候尙亦改銀ノ義モ定法通取調可被致候義ハ勿論ノ事ニ候得共去文政三辰年不同ノ改銀取渡被致候ニ付相達置候假尙々掛目入念正路之取渡致候様掛ケ改致候手代ノ者へ急度可申置候自然定法相背仁有之候得ハ不及沙汰定法通取計可致候事

寅七月

但別段口上ニテ被申聞候ハ右封包銀ノ義格別御嚴重ニ被仰渡候義御座候得共萬々御心得違無之様尤御手代店中へモ御申聞置被成候様被申付候

同二年十月十四日令シテ一分銀ノ僅カニ廢滅セルモノ、如キハ毫モ差障リナク流通セシムベキヲ以テセリ惟フニ當時之ガ引替ニ不當ノ歩合ヲ取り依テ以テ私利ヲ營ムノ徒アルヨリ勢ヒ之ガ流通ヲ阻碍スルノ弊害ヲ匡正セントスルニ出デタルモノ、如シ

一此節一分銀手摺之分通用相滯相對ヲ以引方歩合等請取引替之趣ニ候處一己之私ヲ以歩合等請取引替候ハ心得違不將之至ニ付全ク手摺極印不相見分ハ一朱銀ニ引替遣候燒候分ハ是迄之通定法之歩合引方ヲ以是又引替可遣候間銀産へ差出引替可申候以後少々之手摺危陷通用差支候様ナル心得違不致無滯通用可致候尤上納金無差支包方可致旨銀座へモ申渡候少々之手摺迄彼是ト申歩合等受引替候者ニ於テハ吟味之上急度答可申付モノ也

此時ニ當ツテ通用金拂下ケノ令アリ依テ十人兩替商ハ謹ンデ之レガ請書ヲ差出シタリ口達

昨九日東御役所於御前被仰渡候赴左之通被仰渡御受證文ノ事

十人兩替屋共

此度通用銀追々御拂下有之候間兩替屋共一統へ申聞尤御拂代金ノ義ハ二朱銀一步銀ノ内ニテ取交リ都合次第相納候事ニ付此旨可存事

右之通被仰渡候一同承知奉畏候依テ受證文差上申處如件

十人兩替屋

米屋長兵衛

外四名

(月並運判證書相納候下書但シ片折紙ノ類ニテ相納ノ候事尤モ銘々早々開印相納候事)

尙又月行司ヨリ仲間同土金錢ノ賣買ハ凡テ現金銀ニテ其日限りノ授受ト爲ス事等ヲ本兩替仲間へ申達シタリコレ其往々相場役手代等ニ不正ノ徒アリテ相互ノ間ニ迷惑ヲカクルノ憂アルヲ匡濟センガ爲メナリ

覺

一毎日金錢賣買ノ儀前々ヨリ仲間申定ノ通彌現金現銀ヲ以テ其日限ニ受取渡可仕候不實ケ間敷賣買一切仕間敷候尤モ毎日賣買致候金錢於相場所双方ヨリ帳面ニ付可申候

一相場役手代紛敷者差出申間敷候

右之通致承知手代共へモ爲申聞候自然組合中ニ不心得ノ仁有之候ハ、早速月行司

相斷可申候爲其判形如件

年號月日(每月六日)

申

東久太郎町組月行司

何屋某印

並一統連印

本兩替仲間

御司御店中

之レヨリ先キ天保ノ貨制ハ其行ハル、事凡廿年ニシテ安政ノ初年又一變セリ之ヲ舊政府貨制變更ノ第九回トス蓋シ此時ノ改鑄ノ原因ハ亦舊政府財政ノ困難國用ノ缺乏ヲ彌縫センガ爲メノ術數ニ出デタル言ヲ俟タズ然レモ其困難ニ一層加功セシメシ所以ノモノハ實ニ嘉永六年癸丑米國使節軍艦ノ江戸灣ニ入りタルノ一舉ニ在リ其ハ舊政府ハ去寛永十八年ノ禁令以來支那和蘭兩國ノ有限船舶ノ長崎ニ來往互市ヲ營ムノ外其他ノ異國人ハ一切來航通商スルヲ禁ズルモノ凡ソ二百余歲ノ久シキニ亘リタリシヲ以テ國內無事上下交々悠安ニ紐レ軍備ノ弛廢セルヤ久シ然ルニ且米國使節軍艦ノ江戸灣ニ入ルヤ上下恟々其堵ニ安ンゼズ乃チ之ガ軍備改修ニ着手セントスルモ國幣給セズシテ

如何トモ謹備ナシ此ニ於テ乎寶貨ヲ改鑄スルノ外目前急テ濟フヘキ工夫アラザル以テ安政元年以來先ツ舊銀貨ヲ以テ新一朱銀ヲ鑄造發行シ斯テ其二年十二月廿三日ニハ新古金銀引換ヲ令シ割増ヲ以テ之ヲ購索スルニ至レリ

一古金銀眞字ニ分判古二朱銀文政之金銀眞字ニ分判二朱銀古一朱銀トモ通用停止之分當卯十月迄引替候様去寅年相觸候得共未ダ引替殘モ多分有之ニ付引替等之儀猶又來辰十月迄是迄之通差置候條諸事先達相觸候通相心得期月限リ引替可申候

一五兩判之儀當卯十月限通用停止之旨去寅十月相觸候處未引替殘多分有之候ニ付來辰十月迄是迄之通差置候其後ハ彌以通用可爲停止候間所持之者ハ早々差出引替可申候

一古金銀引替差出方之儀先年ヨリ度々相觸レ是迄増分御手當等モ被下追々引替差出候向モ有之候得共未ダ引替殘有之候ニ付此後引替差出候者ヘバ道程ノ遠近ニ不拘猶又步増割合右之通慶長金百兩ニ付代リ金貳百七兩武藏判同斷ニ付代リ金右同斷元祿金同斷ニ付代リ金百四十三兩乾字金同斷ニ付代リ金百兩享保金同斷ニ付代リ金貳百十參兩元文金同斷ニ付代リ金百廿兩文政同斷ニ付代リ金百四兩貳分眞字貳分判同斷ニ付代リ金右同斷五兩判同斷ニ付代リ金右同斷元文銀十貫目ニ付代リ銀

十三貫目九百三十目文政銀同斷ニ付代リ銀十貫六百九十目古貳朱銀百兩ニ代リ銀百八兩新貳朱同斷ニ付代リ銀百一兩

然レ其割増ノ不當ナルヲ以テ此引換ノ令ニ應ズルモノ甚ダ稀ナリキ何トナレバ此時ノ割増ハ慶長享保小判一分判古金百兩ニ對スル割増ハ僅カニ通貨百七兩ニシテ之ヲ其古金ノ實價ニ比スレバ寡キ事十八割余ニ當レガ故ナリ
同三年兩替仲間ノ申定書ヲ其筋へ上達ニ及ビヌ此規定ノ完全ナルハ言フ迄モナキ事ニテ依之行司ヨリ直ニ此レガ聞届ケノ復命ヲ下セリ

仲間申定書

一兩替仲間取引ノ義ハ預リ金計御座候テ銀子預リ無之候所へ銀子ノ振手形相廻リ候故預金直付申遣シ銀子ニ引直シ候得バ仔細モ無御座候得先方ノ勝手ニ依金子直入不仕銀子振替相渡シ吳候様申居候得共右振出シ銀子ニ日歩銀相掛ケ申候亦者他國在方ノ取引先キヨリ金錢差越相場ノ増直段ヲ以テ賣拂申來候分ハ直立引合兼直入出來不申内銀子ノ振手形前段ノ通り相廻リ候得共預リ銀無之候トモ相渡シ置申候右振手形差戻シ候テハ先方手支ニモ相成候付前文賣拂申來候迄ハ金子預リ申候義ニ御座候間右預リ居候金子ヲ見込銀手形相渡シ居申候右全金錢引當相成候全様

三御座候得共右等ノ義モ不仕候テハ日用ニ差支申候尤當所銀通用トハ乍申近年多分金取引ニ付前文之通り見込ヲ以金銀取引差支ザル様致融通無滯取渡仕居候仕來ニ御座候事

一 日歩銀ノ義ハ通取引出入御座候砌ハ銀子一貫匁ニ付キ三五分迄ノ取引仕來御座候取引出入無之殘銀置居ニ相成リ候月八月一分ノ利息ニ相直申候亦候出入有之候月ハ三五分ノ取引ニ直シ申候其後出入無之候ハ、何ヶ月相立候トモ月一步ノ利足ニ御座候尤通帳勘定仕度毎日歩銀直ニ可被下相渡等ノ處勝手ニ依通帳へ相記候得バ全ク兩替方振替ニ相成候ニ付元銀ニ相立仕來ニ御座候

一 取引通手尻貸ニ相成リ候ハ、月々日歩銀通帳へ付ケ出シ勘定メ仕候後入銀等モ無之候節ハ前月ノメ高銀ニ相立候亦候日歩銀付シ通メ仕候ハ、右殘銀元銀ニ相立候取引先ニ不案内ノ仁モ有之候利ニ利相掛候様被申立候得先一應ハ其意ニモ相當リ候得先元來融通第一ノ金銀取渡ノ通帳ニ御座候故日歩銀通帳へ相記シ申候得バ正銀相渡候モ同様ノ振合御座候間利子利受取候義ハ一切無御座候且取引先利ニ相成候様被存候ハ、別段日歩銀正銀ニテ持參被致候ハ、仔細モ無御座候哉ニ奉存候事

右之通仲間一統前々ヨリ仕來リ御座候此段乍恐以書付御斷奉申上候以上

安政三丙辰年六月 十八兩替屋共

御奉行所

右之通り御聞濟ノ上以後被爲成御取極候間心得違無之様正路ノ取引可被致候事

辰六月

行司

同六年五月廿五日再ビ貨制ノ變更ヲ爲セリ依テ令ス之ヲ舊政府貨制變更ノ第十回ト爲ス

- 一世上通用ノ爲此度ニ朱銀吹立仰付ラレ候間右貳朱銀八ツヲ以金一兩ノ積リ一分銀
- 一朱銀ハ追テ吹直シ仰出サルベク候夫迄ハ取交銀錢トモ兩替無滯通用致スベキ事
- 一保字判一分判ノ儀ハ追テ停止仰セ出サルベシ夫迄ハ保字小判一兩一分判一分
- 一朱ノ積リヲ以テ取交通用致サスベキ事
- 一外國交易御開ニ付テハ彼國々金銀其儘通用可致候其金銀ハ銀ト量目ヲ以テ取替致候答ニ候條此度吹立被仰付候新小判一分判ニ朱銀目方割合ニ應ジ無指支取引可致候

○

斯ク安政ノ改鑄ヲ促シタルニハ前述ノ原因ト又他ノ原因ノ存スルアリキ前ニモ言ヘル如ク米國使節軍艦ヲ來リテ我レト通商ノ盟約ヲ結バンコトヲ請フヤ舊政府ハ安政五年ナ期シテ其條約ニ調印スベキ旨ヲ米國使節ニ豫約シ開港互市ノ期己ニ近キニ在ルヲ以テ其影響ハ金銀市價ノ比例ニ及ビタルニ在リ是ヨリ先キ天保八年以來嘉永迄内國金銀ノ市價ハ金一ト銀五内外ニ往來セシモ安政元年ニ至リテ其市價一變シテ凡ソ金一ト銀十〇一四ト爲レリ斯ク金銀ノ價位變動ヲ内國市場ニ現出セル所以ハ他ナシ外國市場ニ於テハ己ニ二百八十年前ヨリ金一ト銀十回内外ノ比例ヲ以テ換用セラレ其後又金一ヲ以テ銀十五強ニ對當セラレ、チ常トス故ニ吾國開港互市ノ日ニ至レバ前件金銀價格ノ比例ハ直ニ變動ヲ受ケテ世界自然ノ風潮ニ順フヘキハ固ヨリ數ノ最モ親易キモノナリ是レ開港互市ノ期己ニ近クニ當リテ金銀ノ市價其比例先ヅ變動シテ改鑄ヲ促セシ所以ナリ然レモ安政元年ヨリ同五年迄ニ於テ舊政府が改鑄セシ所ノ金貨モ小判二分判及ビ新一朱銀等ハ其品位ノ天保金銀ヨリモ劣リ而シテ其金ト銀トノ法價ノ比例并ニ銅錢ニ對スル銀ノ法價ノ比例ハ不倫ニシテ銅錢ニ對スレバ銀ノ法價ハ甚ダ貴キニ過ギ又銀ニ對スレバ金貨ノ法價ハ太タ低下ニテアリシ是レ其開港ノ後ニ至リテ實際大ニ吾國ノ不利ヲ醸シタル所以ト一大原因ニシテ爰ニ至リテ又貨制ノ一大變更ヲ要セシ所以ナリ

同五月八日兩替商ニ令シテ小判賣買ニ就キ取締ル處アリタリコレ蓋シ近來金小判ノ拂底ヲ告ゲハルヨリ乃チ賣買ヲ禁ズル所以ノモノハ是ガ相場ノ低落ヲ來タラシメ以テ其結果世上ニ給供ヲ充實ナラシメントセルニテアリタリ

被仰渡御受證文之事

十八兩替屋共

一當表ノ義銀通用專ラノ場所所有之所近來銀及拂底金ノ方ハ小判ノ外ニモ金品相場増金通用重ニ相成候ニ隨小判ハ別テノ義金ノ方モ是亦拂底直段モ追々引立諸向差支候趣ニ相聞候此上融通合ニ拘リ候義モ有之候テハ以テノ外ノ義ニ付キ其段厚相心得兩替屋共儀追テハ格別當分ノ所小判賣買見合百兩ノ内外品有合金共五兩差受候積ヲ以テ致取替何レニテモ金直段引下ケ候様精々勸辨取計可申候
右ノ通申渡候條夫々仲間者一統へ不洩様早々可通候

右被仰渡ノ趣承知奉畏候依テ御受證文差上ケ申所如件

安政六未年五月八日

十八兩替屋共

御奉行所

右之通唯今西從御役所被召出於御前被爲仰付候尙亦心得方左ニ一統可被得御意候

一近來金相場高直段并切賃多分ニ相成リ諸向差支候趣ニ付キテハ夫是差合ミ金相場引下ケノ爲百兩ニ付有會金廿五兩差受通用相場奉願候處尤ニ被爲聞召此度御免被爲仰付候間厚ク難有奉存候取引差滞様相互ニ申合相場引下方且ハ正路賣買可被致候尤明九日ヨリ差受通用相場ニ被致立合若心得違ノ仁有之候ハ定法通無用捨取計可致其節後悔被致間敷候此段急度相達置候事

未五月八日

右御達ノ趣一同承知仕依テ連印如件

南久太郎町組

近江屋卯八郎印

外二人印

斯クテ其十日ニハ再ビ口達ヲ以テ小判金ヲ長崎筋へ下ス事ヲ兩替商ニ向テ停止セシメタリ

一小判金諸方へ引方多分無之様ニ此程相達置候所尙亦昨九日西從御役所被仰渡左ニ

一先頃ヨリ切貨多分相成候義ハ小判金長崎筋へ多分引方ニ相成候様粗相聞へ候ニ以
來右商体筋ヨリ小判金望ノ者有之候得者當分ノ所堅ク相斷リ可申達テ望申候ハハ
可申出尙其筋柄ニ依リ當從御役員彼地御役所へ直チニ引合被爲有候旨被仰渡候間
此段相達候事

右被仰渡候趣堅相守可申若シ心得違一己ノ利慾ニ迷ヒ相背候仁有之候ハハ無用捨
定法通取計可申事

安政六年未五月十日

行 司

右御達趣承知仕組合中不洩様通達仕候以上

行 司 平野屋總治

又其廿日ニハ重テ前者ト同シ意味ノモノヲ以テ令セリ依之十人兩替商ヨリ其請書ヲ差
出シタリ

被仰渡御受證文之事

十人兩替屋共

一當表銀相場下落ニ及金直段追々高直ニ相成リ別テ小判金拂底ノ由他國へ引方多端
ニ可有之間追テ銀相場平準ノ期迄小判金ニ限り他國他所へ不賣渡様差略ノ取計可

致候尤右ニ事寄奸商ノ取計致間敷候

右之通申渡候條夫レ仲間ノ者一統へ不洩様早々可申候

右仰渡ノ趣承知奉畏候依テ御受證文差上申所如件

安政六年未五月十日

十人兩替屋共

御奉行所

同日尙左ノ令ヲ仲間一統へ下シヌ其如何ニ正金銀ノ拂底ニ就テ之ガ挽回ニ焦心苦慮セ
ルカヲ見ヨ

右ノ通唯今東從御役所被爲召出於御前被爲仰付候尙亦爲念心得方左ノ御一統へ可被
得其意候

一正金銀拂底ノ折柄小判金諸方へ引方多分有之彌以テ相場高直ニ相成候ニ付本文ノ
次第從御役所被仰付候義ハ深ク御賢察モ被爲有候義ニ付以後他國他所へ小判金賣
渡候義ハ不相成候此上小判金拂底ニ成行切貨多分相成候テ者諸商人并兩換仲間如
何体ノ差支混雜出來可申哉モ難計候間此度ノ御趣意難有存厚勘辨融通第一ト心得
賣買手狹ニ不相成様外金品ヲ以テ差略掛引可被致候若一己ノ利慾ニ迷ヒ申達ノ義

違背ノ任有之候得者定法通用捨取計可候其節後悔被致間敷候此段急度相達候事
未五月二十日

右御達ノ趣一統承知仕依テ印如件

南久太郎町組

近江屋卯八郎

外二名連印

然ルニ其廿六日ニ八月行司ヨリ左ノ口達ヲ爲シヌ乃チ正金銀ノ相場ヲ引下ケ其拂底ヲ
挽回セシメシガ爲メニ辱ナクモ公儀ヨリ此度御用金繰下ケノ恩典ニ接セシカハ其難有
キ上意ヲ奉体シテ此ガ相場ノ引下ケニ日夜鞠躬盡瘁セザルベカラザルト云フニ在リ政
府ノ愈ヨ出テ、愈ヨ切ナル情態想像スルニ餘アリ

口達

一近年正金銀拂底金相場格別高直ニ就キテハ引下ケ方嚴重ニ度々被仰出候得共兎角
下落ノ場ニモ不至候ニ付キ種々嘆願奉申上候所昨年ノ御例ニモ不相成義ニ候得
當時ノ地合御汲谷被爲有出格ノ恩召ヲ以當暮御下渡ニ相成候御用金御繰上ケ來

五日御下渡被爲成下候御旨被仰渡候尤正銀ノ義ハ仲間融通且ハ相場引下ケノ爲メ
兩替方へ御下渡ニ相成リ候右等ハ不容易義ニ候得正金相場高直ニ付キ諸取引ニ差
支候趣厚被爲有御隣察御下渡ニ相成候御事ニ候間一統仁惠ノ程難有奉承服土地融
通相殺金相場引下ケ專一ニ相心得御趣意貫通致候様精々掛引致可事

未五月廿六日

行司

右御達ノ趣一統難有奉承服候早々不洩様可申通候以上

南久太郎町組

行司 平野屋惣次郎印

外二名印

全年六月二日新銀ノ通用期日ヲ發表シ并ニ古金銀ノ引替ニ就テ令セリ
一此度吹立仰付ラレ候新小判一分判二朱銀共六月朔日ヨリ通用致スベク候尤モ有來
金銀取交受取方兩替トモ無滯通用致スベク候
一保字小判一分判ハ新小判一分判並ニ二分判二朱金取交引替候等ニ候條別紙名前ノ
者方へ追々差出シ引替可申事武家其外町人ニテ相對申付右名前ノ者方へ差出引替

サセ候儀モ勝手次第ノ事

一新小判一分判同二朱銀追テ吹直シ仰付ラルベク候間夫迄ハ取交銀錢トモ兩替無滯
通用致スベキ事兩替ニ附キ切貨ノ儀諸金銀同様ノ趣相心得取替可致事

此時ニ當リテ狡慧ナル外國人ハ我貨制ノ紊乱シテ統紀ナキヲ見テ此レ奇貨乘ズベシト
爲シ洋銀一箇ヲ我一分銀三箇ニ換ヘ一分銀三箇ヲ小判一枚ニ或ハ二分判二箇ニ或ハ二
朱判八箇ニ換フルノ割合ヲ以テ盛ニ我金貨ヲ購買シテ此ヲ輸出スル而已ナラズ又香
港其他便宜地方ニ於テ洋銀ヲ溶解シテ我一分銀ヲ摸造シテ之ヲ賣シ來リテ我金貨ニ換
ヘ去ル者頗々踵ヲ接シ我國ノ金貨ハ滔々流出シテ其底止スル處ヲ知ラザルノ状態ニ立
至リケルガ故ニ苟モ貨制ヲ一變シテ以テ之ヲ制スルニアラザルヨリハ數歲ヲ出テズシ
テ我國有限ノ金貨ハ將サニ耗盡セントスルノ勢ニ至リタリ締盟各國公使ヨリノ忠告モ
アリ且舊政府ニ於テモ亦タ漸ク開港互市ノ影響ヨリ内國金銀ノ市價大ニ變動シ政府ノ
現行貨制ハ金一銀十強ナルモ民間就中開港場ノ市價ハ金一銀十五強ニ當レルヲ以テ其
害日チ逐フテ大甚シキヲ覺ユル處アリ乃チ一方ニ向ヒテハ開港場ノ奉行ニ命ジテ小判
輸出ノ熾ナルヲ防グベキ方法ヲ立テシメ他ノ一方ニ向ヒテハ首トシテ銀貨一分ノ品質
ヲ貶シテ洋銀ト同質ノ銀ヲ以テ新タニ一分銀ヲ鑄テ之ヲ發行ス此新一分銀ハ安政五年

以前鑄ル處ノ一分銀ニ比スレバ其銀貨劣惡ナルヲ以テ世之ヲニ呼ビテ下口銀ト云ヘリ
此下口銀ノ鑄造發行ハ此年ヨリ始リテ明治元年ニ終ル其間鑄造發行額ハ凡ソ二千八百
四十八万九百兩トシテ之ヲ今ノ新貨ニ換算スレバ三千六百廿七万五千三百八十一圓八
十二錢七厘ナリ

(本文下口銀乃チ新一分銀四箇ヲ以テ一兩トス此一ハ今ノ新貨壹圓廿四錢六八ニ當
ル)

同年七月三日ニハ更ニ割増法ニ依リテ引替ヲ督勵セリ政府ノ苦心慘憺タル以テ想見ス
ルニ耐エタリ

一古金引替差出方之儀今度一步判吹立并保存小判一步判歩増通用被仰出候ニ付此後
引替差出候者ヘハ道法遠國ニ拘ラズ御手當相増割合左之通り

- 一慶長金二分判代リ金百兩ニ付貳百五拾八兩。一元祿金百七拾八兩。一乾金百參
- 拾五兩。一享保金貳百六拾六兩。一元文金百五拾兩。一貞字ニ步判文政金百參
- 拾兩。一五兩判五兩

右之通増歩御手當被下引替人御手當之儀ハ是迄之通り都テ百兩ニ付金壹分宛被下候
間聊モ不貯置江戶京大阪其外諸國引替御用相勤候者ノ内ハ差出候ハ、引替可申候若

此上貯置候者有之候ハ、紀之上急度可及沙汰候間御料ハ御代官入念申付候事
全年八月十三日前既ニ説明セル如ク爰ニ始テ洋銀ト同位ノ銀ヲ以テ新タニ一分銀ヲ鑄
造シ依テ令スル處アリ

一此度洋銀同位之銀ヲ以一分銀吹替被仰付候間在來一分銀取交可致通用候
超エテ其翌九月六日新タニ鐵小錢ヲ鑄以テ銅小錢ニ引換ヘントセリ依テ其引替方ノ標
準ヲ示セリ

一此度鐵小錢吹立仰付ヲレ銅小錢ノ分追々引替候積リ右引替方銅小錢一貫文ニ替リ
百文錢取交一貫五百五十文右ノ内一貫五百文ハ持主五十文ハ兩替屋ヘ下サレ候積
リ右引替ノ儀ハ兩替共ニテ買集メ金座役所ヘ差出候筈ニ候

同年十二月令シテ外國金銀ハ本邦ノ金銀ト其量目ノ割合ニ應ジテ礙滯スル處ナク通用
スベキハ勿論今度洋銀同位ノ銀ヲ以テ新タニ鑄造セル一分銀モ亦此レニ準ズル事ヲ以
テス

一外國銀目方七匁以上ノ一分銀三分通用ノ積リ於銀座極印打渡シ候間無滯金銀取
交通用可致候尤モ銀錢所持ノ者ハ銀座ヘ差出シ極印請可申候

一外國金銀其儘通用被仰出金ハ金銀ハ銀ト量目ヲ以テ取遣致シ候筈ニ付新小判一分判

三朱銀目方ノ割合ニ應ジ可致通用旨最前相觸置候處今般洋銀同位之銀ヲ以一分銀
吹増被仰出候間外國銀ト一分銀ト量目掛合之上取引可致候

一洋銀之儀御年貢金其外諸向上納金之内ニ取交候ハ勿論皆洋銀ニテモ勝手次第上納
可致候尤世上通用之儀彌以テ國々迄モ無滯可致通用候

萬延元年庚申正月廿日外金銀ト通貨ノ鈎合ノ平衡ヲ保タシメシメ其歩合ヲ規定シ以テ
相互礙滯ナク流通セシムル事ヲ以テセリ

一外國交易ニ付貨幣之鈎合不宜候間追テ改鑄被仰付候迄左之通り通用可致候尤引替
之儀ハ追テ可及沙汰候

一保字小判一兩ニ附金三兩一分ニ朱保字一分判金三分ニ朱正字小判一兩ニ付金貳兩
二分三朱正字一分判金二朱三分

一右之通相心得來ル二月朔日ヨリ外金銀取交兩替無滯通用可致事
同年閏三月十八日新タニ大判ヲ鑄造シ割増ヲ以テ右大判ト引替ヲ勵行セシメタリ

一此度大判吹立被仰付候是迄之大判ト引替尙四月十日ヨリ兩替屋共ヘ可相渡候間獻
上并被下物ハ右同日ヨリ可用事但新大判一枚ハ金二十五兩之積リ兩替之者共歩金
多ク不可取候事

一是迄之大判一枚ニ附新大判一枚へ増歩三十兩相添へ引替遣候間聊モ不貯置差出引替可申事

一只今迄通用之大判ハ當四月十日ヨリ通用停止之事

斯クテ又四月四日ニ至リ更ニ新二分判新二朱判金貨ヲ鑄テ之ヲ發行セリ依テ令ス此新二分新二朱金ハ此年ヨリ其鑄造ヲ始メテ明治二年ニ至ル迄其發行額凡ソ五千三百廿四万五百七十六兩此新貨五千九百三万五千九百七十二圓四十一錢九厘ニ及ベリ

此度吹立被仰付候新小判一分判貳分判二朱金共四月十日ヨリ通用可致候尤有來金銀取交渡方兩替共無滯通用可致候

一保字正字小判一分判并貳分判二朱金共新小判一分判貳步判二朱金ト引替候筈ニ候條引替御用相勤候者共へ差出引替可申候事

一武家其外共町人へ相對ニテ申付引替御用相勤候者方へ差出爲引替候儀モ勝手次第候事新小判一分判貳分判貳朱金并兩替ニ付切實之儀前々之通り相心得取替可致候保字金正字金步増被仰出割合ヲ以此度新小判一分判吹立貳步判貳朱金共吹替被仰出候ニ付新小判一分判壹兩六十目之積リ貳分判貳朱金之儀モ同様相心得兩替無滯通用可致候正字小判一分判是迄之通り貳分判貳朱金ト保字金同様追テ停止可被

仰付夫迄之間取交通用タルベク候

今試ニ小判一分金貨及二分判二朱判金貨及ビ一分銀(所謂下口銀)ノ去安政六年改正ノ實價ヲ其以前ニ比較スレバ其差違實ニ左ノ如キモノアリ

各種ノ評價壹兩ヲ新貨ニ比價シタル價格

安政五年以前
通用セシモノ

安政六年以後改鑄發行セラレ
通用セシモノ

小判	參圓五〇〇、五壹	壹圓參〇〇、四參〇
二分判	壹圓九〇〇、〇六	壹圓〇八八、八〇〇
一分判	參圓五〇〇、五一	壹圓參〇〇、四參〇
二朱判	貳圓一九〇、六〇	壹圓〇八八、八〇〇
一分判	壹圓參八八、〇〇	壹圓貳四六、八〇〇
二朱判	壹圓六五六、〇〇	壹圓壹八四、〇〇〇

斯ノ如ク舊政府ハ一時ノ急ヲ濟ハンガ爲メニ大ニ貨幣ヲ變更シ又金貨ノ輸出ヲ防ガント試ミタリト雖モ其施爲スル處ノモノ徒ラニ姑息彌縫ノ手段ニ止リテ根本ヨリ之ヲ匡正スルノ規模ナカリシヲ以テ安政六年以後ノ改鑄政零ハ一モ實際ニ向テ救治ノ其結果ヲ奏スル事能ハズ啻ニ其結果ヲ奏セサルノミナラズ政府ハ濫リニ貨制ヲ劣惡ニシ其紛

擾亦加へタルが爲メ内三向ニテ全國ノ物價ハ混亂シ人民貧疾苦シ其極彌々内國ノ疲弊ヲ助長シ外ニ向ツテ各開港場就中橫濱長崎ヨリ金貨ノ流出スルコト益々止然不故以テ善長タル金銀貨ハ皆跡ヲ市場ヨリ遠方各藩々ニ於テ益々其藩札ヲ増發シ元治慶應ノ際ニ至リテ我國貨制ノ紊亂實ニ極ニリ芝の舊政府貨政衰頽ノ末期ト爲ス同年四月十五日ニ層步増チ加ヘテ再ビ古金ノ引替ヘテ獎勵セリ政府ノ汲々トシテ新金ヲ流通セシムルニ意ヲ致スヤ切ナリ

一今般保字正字小判二分判步増通用被仰出候ニ付此後引替差出候者ハ道法遠近ニ不拘御手當相増候割合左之通り

- 一慶長金武藏判金百兩ニ付金五百四十八兩元祿金同上ニ付金參百七十八兩乾字金同上ニ付金百四十七兩享保金同上ニ付金五百六十五兩元文金同上ニ付金三百六十二兩眞字二分判文政金同上ニ付金三百四十二兩測字二分判同上ニ付金三百三十三兩五兩判同上ニ付金三百七十三兩

右之通步増御手當被下之候間聊モ貯置ス江戶京大阪之外諸國引替御用相勤候者共之内被差出早々引替可申且引替御手當之儀ハ是迄百兩ニ付金三分宛被下候處増分之分相増候ニ付テ入用相嵩候儀ニテ以後却テ百兩ニ金一兩宛被下候間引替請取候

様可致若此上貯置候モノ於有之ハ糺之上急度可及沙汰候間御料ハ御代官私領ハ領主地頭ニテ其旨相心得入念可申付候

同年五月十二日先年令セシ外國ノ銀錢ニカ、レル令テ取消シ自今其時々ノ相場ヲ以テ取引ヲ爲スベキ旨ヲ令セリコレ其流通ニ礙滞ナカラシムガ爲メニ斯ク錯雜ナル手數ヲ省キタルカレベシ

一外國銀錢目方七匁以上之方一分銀三分通用之積リ於銀座極印相渡候間無滯通用可致尤銀錢所持致居候モノハ銀座へ差出極印請可申旨去ル未年十二月相觸置候處通用不辨之趣ニ相聞候間向後右銀錢量目輕重極印有無ニ不拘丁銀之振合ニ準シ相場場ヲ以取遣可致尤不相當之相場相立申間敷候

同年十二月十一日更ニ又精鐵錢ナルモノヲ新鑄ス依テ其通用ヲ發表スル處アリタリ

一世上通用之爲銀座ニ於テ精鐵錢吹立方被仰付ニ付右精鐵錢一文ニテ並錢四文之代リ相用來十七日ヨリ在來之眞鍮錢取交通用可致兩替等百文錢眞鍮錢一文錢同様相心得可申候右之通り相心得國々ニ至迄無差支様可令通用者也

元治元年甲子五月廿四日去萬延年間ニ令セシ如ク増割ヲ以テ右金銀ノ引換ヲ迫ルニ至リタリ

古金銀引替差出方之儀先年ヨリ度々相觸是迄増歩御手當等モ被下追々引替差出候向
モ有之候得モ未引替殘有之候ニ附此後引替差出候者ハ猶又相増候割合左之通

一文政銀拾貫目ニ付 代銀拾九貫匁

一文政銀同斷ニ付 代銀拾五貫匁

一保字銀同斷ニ付 代銀拾一貫匁

一古貳朱銀百兩ニ付 代銀百六拾匁

一文政ニ朱銀同斷ニ付 代金百拾五匁

右之通増歩御手當被下候間聊モ不貯置銀座并江戸京大阪其外諸國引替御用相勤候モ
ノ共之内へ差出早々引替可申候若此上貯置候者於有之ハ糺ノ上急度可及沙汰候間御
領ハ御代官私領ハ領主地頭ニ而其旨相心得入念可被申附候

五月

右之趣相觸候間可被得其意候

右之通從江戸被仰下候條此旨三郷町中可觸知モノ也

丑五月

駿河

三郷

大隅

總年寄

其レト同時ニ錢ノ拂底ハ全ク銅錢トノ不平衡タル相場ヨリ來タシタルモノト爲シ乃チ
此ガ匡救策ヲ講ジ兩替商業ヲシテ自今私利ノ爲メニ不正ノ取引ヲ爲ス事勿ラシメタリ
近來諸國トモ錢拂底差支候由右ハ銅直段ニ相成銅錢トノ鈞合不宜故ト相聞候間眞鍮
錢文久錢銅小錢トモ夫々天然之相場ニ任セ一枚ニ付相應之步増通用可致候間百文錢
鐵錢之儀ハ是迄之通ニ候間何モ無差支通用可致右ハ世上融通之御趣意ニ候條其旨可
相心得萬一兩替屋共等利徳之爲不都合之取引致スニ於テハ可爲曲事候但銅小錢ノ内
耳白錢ハ引替可相成候間兩替屋共方へ可差出代リ之義ハ相當ノ相場ヲ以可相渡候間
不貯置差出可申候

五月

右之通御料ハ御代官私領ハ領主地頭ヨリ不洩様早々可被相觸候

慶應元年乙丑閏六月十四日乃チ前旨ヲ繼承シ爰ニ至テ其步増ヲ發表スルニ至ル
近來諸國トモ錢拂底差支候由右ハ銅直段高直ニ相成リ銅錢トノ鈞合不宜故ト相聞候
間眞鍮錢文久錢銅小錢トモ夫々天然之相場ニ任セ一枚ニ付相應之步増通用可致旨最
前觸渡置候通之儀有之候右ニ付當表步増通用左之通

一真鍮四文錢

一枚ニ付
歩増トモ

拾二文

一文久四文錢

同

八文

一銅小錢

同

四文

右之通候九百文錢鐵錢之儀ハ是迄之通候間何モ無差支通用可致候且右体銅錢之融通相付テハ自然錢相場直事寄無謂諸色直段引上ダ申間敷候若不正路之致取計候者有之候ハ、急度及有沙汰候

但銅小錢ノ内文錢耳白之儀ハ引替可相成候間兩替屋共方へ可差出右代リ之儀ハ文錢ハ七文耳白錢ハ六文可相渡間不貯置差出可申候
右之趣三郷町中未々迄不洩様可申達事

丑六月

同年七月七日令シテ安政年度改鑄セル新小判二分判等ヲ或浮説ニ惑ハサレテ貯藏スルモノアルヲ嚴ニ取締ル處アリタリコレ人心只管古金銀ヲ尙フニ至リテハ新銀金ノ流通ハ何ヲ以テ期スベキ乃チ此令アルハ蓋シ亦止ムヲ得サルモノアレバナリ
此節當地於市中安政年度吹立被仰付候新小判并二分判等五歩又ハ一倍位之増歩ニ以通用之儀可被仰出哉之趣申觸候由ニ付諸取引等ニ付右小判二分判等ハ不拂出貯置或

不相當之切賃ヲ以右金品買集候者モ有之右ニ付自然ト通用金不融通ニ而金相場モ相進候趣相聞如何之事ニ候素ヨリ右体之儀被仰出候ハ敢テ無之儀ニ候處無謂浮説ヲ唱右様之及所業候而ハ諸取引ニ差支以外之事ニ付此後モ右浮説申觸欲情ニ耽リ前同様ノ及所業候者有之候へハ無容赦召捕へ嚴重ノ答可申附候
右之通三郷町中へ不洩様口達ニ以早々可申通事

丑七月

尙同月廿五日ニ至リテハ一層増歩ヲ加へ且ツ別ニ手當等ノ獎勵ヲ附シテ引替ヲ迅速ナラシメムトセリ政府ノ焦心苦慮スルモノ爰ニ至ツテ極レリト謂フベシ
古金銀引替方之儀去ル申年増歩御手當被下候間聊モ不貯置引替御用相勤候モノ共ノ内へ差出早々引替可申且引替人御手當之儀モ百兩ニ付金ニ朱宛被下候處以後都テ百兩ニ付金一兩宛被下候間引替抄取候様可致旨相觸候處今以世上引替殘之分モ多分ニ付此度保字金正字金右貳朱達之分モ引替人御手當之儀ハ右達同様百兩ニ付金一兩宛被下尤古金銀引替方遠國又者手達之場所ハ道中持運諸入用可相掛儀ニ付道中往返入用トシテ道法五里餘隔リ候場所ヨリ五百兩以上引替差出シ候節金百兩ニ付一里一匁宛之割合ヲ以御手當被下追而ハ國々へ引替所モ可被付候得ル中國九州上方筋最寄ハ

京都大阪表引替御用相勤候モノ之内へ差出シ江戸近國與羽最寄ヨリ差出シ候者江戸引替御用相勤候モノ共之内并本町一丁目御達役所へ直ニ差出其餘國々之儀ハ江戸京大阪引替所最寄ノ之都合宜敷方へ勝手次第差出可申候且引替人ドモハ一ヶ月金一万兩一手ニ而引替差出候モノハ是迄被下候御手當之外金五拾兩ツ、増御手當被下一万兩以上差出立右割合ヲ以金百兩ニ付二分ツ、増御手當被下候ニ付國々ニ於テ取集方世話イダシ候モノモ前書引替人共被下候通御手當被下候間引替方抄取候様可致候若此上貯置候モノ有之於テハ糺ノ上急度可及沙汰旨御料ハ御代官私領ハ領主地頭ヨリ其旨相心得候様可申附候

七月

右之通相觸候間可被得其意候

右之通從江戸被仰下候條此旨三郷町中可觸知モノ也

丑七月

元七

三卿

大隅

總年寄

同二年寅十二月紀州藩ニ許スニ或區域ト期間トナ限リ銀札通用ヲ以テス依之其引替方ノ兩替商ヲ示定スルモノ在ノ如シ

紀伊殿ヨリ御願之趣モ有之候ニ付和州河州泉州攝州國中へ銀札取交通用之儀當寅年ヨリ拾ヶ年之間御許容相成リ右引替方大阪町人右之名前之モノ引受取扱同所高麗橋參丁目へ引替度建設人共相話候間其旨相心得通用無差支様可致候
三井八郎右衛門 山中善右衛門 長田作兵衛 米屋平右衛門 平野屋五兵衛 鴻池屋善五郎 辰己屋久左衛門 加島屋作次郎 米屋喜兵衛 笹屋勘左衛門

右之通依御下知相觸候條此旨三郷町中可觸知モノ也

寅十二月

日向

三國

大隅

總年寄

同三年八月十八日此度新タニ兵庫ニ於テ商社ヲ設立シ同時ニ金札ヲ發行セルニ附キ其詳細ハ前ニ記セリ其通用方ニ附キ令スル處アリタリ

一此度兵庫御開港商社御取開相成リ候ニ付而ハ融通ノ爲メ此節ヨリ金札當分之内通用被仰出候ニ付都而通用同様ニ相心得御年貢其外諸公納物ニ相用候而モ不苦候間

五畿内近國共無差支通用可致候尤右札正金ニ引替候儀ハ商社會所并ニ商社頭取其外御用達共方々於テ引替候等ニ有之右引替ニ付而ハ步割減方等一切無之候間不取締無之様正路ニ取引可致候事

右之趣御料ハ御代官御預リ所私領ハ領主地頭ヨリ不洩様可被相觸候
右之趣牧野越中守殿被達候條此旨三郷町中可觸知モノ也

伊勢

三郷

大隅

總年寄

斯クテ其十一月朔日ニハ金札ノ種類ヲ示シテ徧ク世上ニ通用セシメントセリ

此度金貨融通ノ爲メ當分之内通用被仰出候金札之儀金百兩金五拾兩金拾兩金壹兩金
二步金一步之札御施行相成候間五畿内近國共當十一月朔日ヨリ有來金銀取交無滯通用可致事

右之趣御料私領共不洩様可被相觸候右之通從京都表被仰下候條此旨三郷中可觸知モノ也

伊勢

同年十月廿七日齋紀州藩ノ銀札通用ニ就キ合スル處於此タレモ尙其普及セザルノ憾

ミアルヨリ乃チ北組總代ヨリシテ左ノ通達ヲ兩替仲間ニ向テ爲ス事ト爲リタリ

昨廿六日北組總代武林榮左衛門殿左ノ通被願出候

紀州御屋敷銀札專ヲ通用相成リ今一段之處行届兼候ニ付三郷町々ハ頼入度趣ニ而近日之内重役人南方朝次郎ト申ス仁町毎ニ通銀札持參被致候間組合町々ハ前廣ニ右之段傳達被成下様被願出候付則仕法書差添御達申上候間望之人精々御世話被成遣尤銀高之儀ハ仕法書ニ記シ候拾貫目ニ限リ不申聊ニ而モ不苦由ニ御座候何分通用向抄取候様於町々御周旋被成度候遣此段御承知ニ候ハ御調印被成下早々右御順達可被下候品丁ヨリ御戻シ可被成下候以上

慶應三年卯十月廿七日

通達當番

西高津町

同三年十一月廿七日兵庫商社ヨリノ金札ヲ正貨同様流通セシムベキヲ重テ令シ尙金札ノ引替所ヲ示定ス

此度金札御施行ニ付追々商社ノモノ共ヨリ散札可致就而ハ兼テ御觸渡シ通實貨同様正金銀取交通用可致者勿論之義ニ付兩替屋共ハ猶更手廣ニ取引兩替等之儀却而實貨同様取引可致候

右之通兩替屋共へ申渡候間御觸之通相心得却而無差支様通用可致候且右金札引替所
之儀左之通

- 山中善右衛門
- 廣岡久右衛門
- 長田作兵衛
- 殿村平右衛門
- 和田久左衛門
- 高木五兵衛
- 平瀬龜之助
- 石崎喜兵衛
- 白山彦五郎
- 淺田市兵衛
- 森本權之助
- 中村庄兵衛
- 白山安兵衛

右二十人之者共出張引替所

島町貳丁目

金札引替所

- 井上市兵衛
- 長田作兵衛
- 堀口重兵衛
- 殿村伊太郎
- 今堀長吉郎
- 長田作五郎
- 松永伊兵衛

右之通商社ノモノ共出張引替所取建候間正金ニ引替度モノハ右出張所へ罷越引替可
致右ニ付重頭之取斗イタス間敷候尤手遠ニテ引替不便利之者ハ右山中善右衛門外拾
九人居宅ニ於テモ相對次第手廣ニ取引可致候間此旨可相心得候

右之越三郷町中寄所ニ請負地未々迄モ不洩様可申通事

卯十一月

其又廿三日ニハ此ガ通用ノ期限ヲ示シ其期間中ニ引替ヲ結了スベキヲ以テ令セリ

一 今般金銀貨融通之爲五畿内近國當分ノ内通用被仰出候金札之儀當卯年ヨリ來ル午年十一月迄中三ヶ年之間正金銀取交通用之筈ニ付右ヲ限リ正金ト引替可相渡候右之趣五畿内近國御料私領事社領共不洩様可相勤候

右之通從京都表被仰下候條此旨三郷町中可觸知者也

一 三郷町中致住居候大鑿木挽杵職之義ニ付而者前々相觸候候義モ有之候處近頃猥ニ相成候趣ニ付向後仲間札請右職業致候ベク候

右之通三郷町中不洩様可觸知者也

卯十一月 伊勢

右之通被仰出候間町内未々迄不洩様入念可被相觸候

慶應三年卯十一月廿三日

前ニモ既ニ記ス如ク安政年間金貨銀貨ノ比例不倫ノ弊害ニ就テハ去ル安政六年己未十一月廿四日夫以テ米國公使タウンセン、ハルリスガ當時ノ執政間部下總守脇阪淡路守ヘ忠告セル處アリタル程ニテ濫雜ナル貨幣又紛紊ナル藩札ハ鎖國治安ノ世ニ於ケルモ尙且ツ其弊ニ耐ヘズ況ンヤ安政以還ノ時期ニ於テ外ハ海港ヲ開キテ海外萬國ト相對峙

シ以テ通商互市ヲ營マザルヲ得ズ内ハ我國民ノ生計産業ヲ始メトシテ兵備商業萬般ノ組織ヲ大ニ改革シ以テ宇内日新ノ氣運ニ應ゼザルヲ得ザルヲヤ故ニ文久慶應ノ際吾國通貨ノ改正ハ實ニ一日ヲ緩フスベカラザルノ急務ヲ爲シ而シテ締盟各國ノ公使等ハ吾舊政府ニ向ヒテ通貨ノ大弊ヲ論及シ其制度ノ改正ヲ要求シ舊政府モ亦其貨制紊乱ノ積弊ニ苦ミ竟ニ之ヲ改正セザルヲ得ザルニ至レリ是ニ於テ乎慶應二年丙庚五月十三日夫以テ英佛蘭米四國トノ改稅約書第六條ニ掲グルニ我國貨幣ヲ改正スベキノ豫約ヲ以テシタリサレバ此盟約ニ對シテモ宜シク迅カニ其約ヲ履行セザルベカラザルハ固ヨリノ事ナリシカド當時舊政府ハ積衰空亡ノ際百事凡テ意ノ如ク爲ラズ僅ニ姑息ノ策ヲ講ジテ目前ヲ彌縫スルニ止リ其通貨改正ノ約條ハ徒ニ宣言耳ニ屬シ遂ニ實行スル能ハズシテ其亡ブルニ及ビタルハ返スルモ遺憾ノ事ドモナリ

以上ハ舊政府時代ニ於ケル通貨ノ形勢ナリ請フ是ヨリ明治初年ノ貨幣改正ノ事歴ニ及ブベシ

我政府貨幣改正ノ發端ハ明治初年ニ在リ當時我政府ハ内外多難ニシテ國帑ノ空乏ヲ極ムルニモ拘ハラズ銳意舊弊ヲ除キ以テ國事ヲ改良セン事ヲ圖ルニ際シ貨制改正ノ事モ亦敢テ其準備ヲ怠ラズ慶應四年戊辰二月參與兼會計事務掛三岡八郎今ノ子爵由利公平

小原二兵衛、兩人ニ命ズルニ寶貨改鑄ノコトヲ以テシ三月七日又久世治作ヲシテ貨幣改鑄取調ノ事務ヲ擔任セシメ貨幣分拆所ヲ京都ニ條金座中ニ設ケ首トシテ我國慶長以還各期鑄造セシ所ノ古金銀貨及ビ安政以來當時ニ至ル迄通用スル處ノ金銀貨幣各種ヲ分拆シ之ト同時ニ歐米各國ノ貨幣五十余种ヲ分拆シテ其品位量目ノ精粗優劣ヲ審査セシム治作乃チ其分拆ノ結果ヲ記シ内外古近寶貨ノ眞價比較ヲ精算列載シテ金譜一卷ヲ作リテ以テ太政官ニ上呈ス是ニ於テ政府ハ彌々我國從來通用スル金銀貨幣ノ品位量目ハ粗濫紛紊ヲ極メ之ヲ歐米各國普通ノ制ニ比スレバ劣惡モ亦太甚シク決シテ萬國對峙通商ノ世界ニ行ハル可カラザルヲ知リ斷然舊制ヲ改革シテ更ニ萬國ノ長制ト我國ノ慣例トヲ折衷シテ以テ畫一純正ノ貨幣ヲ新鑄ス可キトヲ議決セリ此レ實ニ慶應四年戊辰四月ナリ

此レヨリ先キ二月十日維新ノ變革ニ依リ貨制上ニモ亦ターノ革命アルベシト人心恟々トシテ寧ンゼザルノ虞アルヨリ乃チ一ノ令ヲ下シタリ

金銀取引并爲替取組等之義御變革之折柄ニ付危殆候向モ有之哉ニ相聞以之外之事ニ候

御新政之儀ハ万事條理相立候様等ハ御主意ニ候間自今別而無掛念是迄之通取引可致

候方一心得違ヒノモノモ候ハ、御取糺ノ上

御沙汰之品モ可有之候事

右之通於京都御沙汰ニ相成候處於當地ハ別而金銀融通專一之事ニ付右御主意厚相心得可申萬一心得違之者於有之者屹度其筋可相糺候間相達候様

醍醐大納言殿被仰聞候間大阪三郷町中へ不洩様可申渡事

小 松 帶 刀

後 藤 象 二 郎

木 戶 準 一 郎

右之通被仰出候間町内末々迄不洩様可被申達候以上

辰二月九日

南 組

惣 年 寄

而シテ其又廿八日ニハ古金銀ノ通用モ以前ノ如ク差障ナク爲スベキ旨ヲ以テ令シタリ

古金銀是迄通用之停止候處御一新之御場合未タ御手モ不爲届追而ハ仰出モ有之候得

正當分地下相場ヲ以無差支可致通用候尤御新政之折柄万一心得違致シ窮ニ隱置候者

於有之ハ嚴重ニ沙汰可有之候此旨未々迄不洩様可觸知者也

二月

別紙之通醍醐大納言殿被仰出候間大阪三郷町々迄不洩様可觸知者也

二月廿八日

裁判所 總年寄中

同年三月廿四日銅錢ノ輸出ヲ嚴ニ取締ル處アリタリコレ其當時銅錢ニ拂底ヲ告ゲ、ルヨリ乃チ是ガ令ヲ發セシ所以ナリ

頃日外國人へ銅錢ヲ賣渡市中銅錢之融通不自由相成小買物等ニ至リ下一統難澁致シ候段相聞不可然候依之爾來外國人へ銅錢賣買致候儀不相成候條密商相働候モノ於有之者當人ハ曲事勿論無用於捨可取揚候條嚴重可相心得事

三月

別紙之通醍醐大納言殿被

仰出候間大阪三郷町々へ不洩様可觸知者也

三月

裁判所 總年寄

此時ニ當リ三步洋銀ヲ偏ク世ニ融通セシメントスル處アリ依而令ゼリ之レ蓋シ諸外國トノ交誼漸ク開始セラレタルヲ以テ勢ヒ洋銀ノ輸入セラル、ハ固ヨリニテ乃チ此ヲ國

内一般ニ流通ヲ計ルハ亦實ニ止ムヲ得ザルノ事タリ

今般洋銀三步通融通被仰出候ニ附而ハ市中兩替屋共御趣意ニ基融通不致テハ不相濟事ニ候間尙又兩替屋中へ嚴重ニ可申渡候左之三井元之助方へ爲見本洋銀相下候旨大阪市中町々應町役一枚宛引替町内末々迄モ呼出此洋銀三步通融通被仰出候間三步取引可致段細々可相示候就而ハ專一兩替職之者共爾來通用ニ差受取引可致候左之外金仕替ニ準候切實相請候儀ハ不苦候得凡過分之打銀等相受取夫ヨリ市中三步之相場相破候様成立候而ハ不可然事候間屹度可及沙汰候條心得違之モノ無之様嚴重可相心得事

慶應四年三月

裁判所

全月廿六日令シテ嚮ニ銅錢ニ就テ取締ル處アリタルガ今又此ガ通用割合ヲ示シ以テ濫リニ海外へ輸出セシムルヲ勿ラシム

銅錢之義當時各國相場御斟酌之上自今一文ヲ以鑿六文ニ通用被仰出候事
右ハ是迄其位當テ不得以動爲奸商共異邦へ致輸出候義モ有之速海内ニ布告被仰出候事

太政官

別紙通從京都申來候段醍醐大納言殿被仰出候間大阪三郷町へ不洩様可觸物也

三月廿五日

裁判所判

總年寄中

同年四月紀州銀札引替ノ場所ヲ示定スルモノ左ノ如シ

紀州銀札引替之儀高麗橋三丁目引換所役人共者引拂以來ハ同所ニ於テ

三井八郎右衛門

殿村平右衛門

山中善右衛門

長田作兵衛

高木五兵衛

鴻池屋善五郎

和田久左衛門

長田作次郎

石崎喜兵衛

笹屋勘右衛門

右之モノ共手代之内ニテ爲取扱是迄之通聊無滯引替可仕旨申出候間右銀札引替被差

止候節所持之モノ共迷惑可仕候間早々無變引替可申候此段相觸候事

四月

別紙兩通被仰出候間大阪三郷町々不洩様可觸知モノ也

四月

裁判所

總年寄

此レト殆ンド同時ニ重テ嚮ニ令セシ旨ヲ繰返シテ三步洋銀ノ流通ヲ圓滑ナラシメント
シ其令スルモノ一層懇切ヲ極メタリ

今般外國御交際ニ付而ハ洋銀一枚ニ附金三步ノ當ヲ以テ受遣ヒ可致旨被仰出候ニ附
最前相觸置候處未ダ人ニ目馴レシ者少キ故歟三步融通相滯不當之切實相立候由相聞
重疊御主意相戻リ候事ニ候元來洋銀一枚ヲ三步ニ被定候者權衡目方相當之イタシ候
故之儀ニ候得バ下々難澁迷惑ノ筋ニテ決シテ無之筈ニ候間以來上ヨリ出候金子ハ洋
銀取交御下ニ相成候ニ附市在之諸運上等モ同様取受上納イタシ下々相對ノ取引モ聊
カ無疑念以來切實等取不申事出來之心得ニ而相當之所ヲ以正路ニ取引可致者也

辰閏四月

裁判所

別紙之通被仰出候間大阪三郷町々へ不洩様可觸知者也

明治初年ニ於ケル我國貨制紛紊ノ概況ヲ釋スルニ舊政府ノ末路財用窮乏ヲ告グ其急ヲ
濟ハンガ爲メ劣惡ナル二分判金及一分判銀多ク鑄造シ諸大藩モ亦漸ク私ニ貨幣ヲ
鑄ル者アリ明治維新ノ初政府未ダ列藩ノ私鑄ヲ禁ズル能ハザリ際ニ東北叛藩及他ノ
諸大藩各其領地ニ於テ金貨二分判一分判及銀貨二分判等鑄造シテ以テ軍費ヲ充ツル
者往々之ヲ可堪ニ於テ贗偽貨幣就中贗金二分判及世註ニ流布スルモノ頗ル増加シ江戶
大阪京都等始略市街市兩替商ヲ出入スルニ二分判ハ凡ソ十餘種多キニ至リ而シテ
其半中此八種鑄造未ルヲ以テ一般ノ民少疾苦ハ勝餘名狀及カテ守可キ故自同年
閏四月廿五箇日刻ヲ以テ左ノ欄書身下ニ於テ可堪ニ當リ以テ之ヲ禁ズル旨官報出
近來惡金多ク迷惑滋候者不少ニ付御用兩替ヲ始其不埒之取扱無之様可致候事
故ニ之ヲ禁ズル旨官報ニ惡金味法ヲ以テ之ヲ禁ズル旨官報出

一 黒石又諸黒基石之石ニ擦リツケ精製硝酸溶液ニバ黄金者殘リ銀銅鉛ハ消ユルナ
眼測又硝酸溶液ニ滴液用ニ此ニ石ニ擦リツケ精製硝酸溶液ニバ黄金者殘リ銀銅鉛ハ消ユルナ
硫磺拾六文目 水拾倍
水トアツ六拾五文目 水上拾倍

右邊製品保護器ニ入ル銀紙及銅紙等能奏冷僻色洋爲此邊身貳百四十三文目ノ水ニ溶

解不燃水

別紙之通被仰出係間休隊三郷町迄へ不洩様可觸知者也

辰後四月 裁判所 總年寄中

サレド尙此ヲ以テ其弊害ヲ防グニ足ルハクモアラズ依而八月廿九日嚴命ヲ諸藩ニ下
シテ貨幣價僞ノ所爲ヲ警視セシム

然レモ此嚴命ハ實際ニ其効力ヲ見ルニ難クシテ價僞濫惡ノ貨幣ハ益々都會ニ湊集セリ
蓋シ政府明治元年四月ヨリ江戶金座ニ於テ同五月ヨリ大阪長堀金座ニ於テ劣位ノ二
分判一分判一朱判ヲ鑄造開始シ其翌二年二月迄ノ間ニ江戶大阪兩地ニ於テ鑄造發行セ
ラレタルモノ金二分判參百六拾七萬九千六百四拾參兩貳分銀一分判百六萬六千八百參
拾參兩貳分銀一朱判百拾貳萬四千四百兩ノ多キニ至レリ當時政府自ラ劣位ノ貨幣ヲ鑄造
發行スル既ニ此ノ如シ諸大藩ノ私鑄ヲ禁ズル嚴命ノ實際ニ其効用ヲ見ザリシハ亦怪
ムニ足ラザルナリ

斯クテ其由同時平衡面貨幣ノ公定價格ヲ發表セリ此ニ依リテ以テ其通貨ノ性質ハ一
目米下ニ歸納終極時價金シ

大政 三 廿年內對策ニ對照時價金シ

御一新三付字内貨幣之定價御吟味之上古今通用金銀銅錢等別紙之通被仰出候間支組
未々迄不漏様可相觸者也

應應四辰年閏四月

大政官

一慶長金

小判 百兩目方四百七十六匁

壹步判 金四百〇壹匁貳貳六
内 銀七拾四匁七七四

此通貨九百〇五兩壹步貳朱換

一武藏判

右同斷

一乾字金

百兩目方貳百五拾目

内 金貳百拾匁〇七參
銀參拾九匁貳七

此通貨四百七拾五兩貳步換

一元祿金

小判 金貳百七拾參匁〇六參

壹步判 貳朱銀 貳百〇貳匁九參七

此通貨六百參拾五兩三朱換

一享保字金

小判 百兩目方四百七拾六匁

壹步判 内 金四百拾參匁〇九六六
銀六拾貳匁九參四

此通貨九百參拾兩壹步貳朱換

一古文字金

小判 百兩目方參百五拾目

壹步判 内 金貳百參拾目
銀百貳拾目

此通貨五百貳拾八兩貳步貳朱換

一眞字貳步判

百兩三付目方三百五拾目

内 金百九拾七匁四參五
銀百五拾貳匁四六五

此通貨四百六拾兩換

一文政金銀四百六拾兩銀

壹步判金兩兩方參百五拾目

百兩右通斷二百五拾目

一壹朱金銀 百兩目方六百目

此通貨貳百兩目方參百五拾目

此通貨貳百兩目方參百五拾目

一草字貳步判 百兩目方參百五拾目

一古貳朱金 銀百七拾壹分參

此通貨四百兩兩貳步換朱銀

一古貳朱金 銀百兩目方參百五拾目

此通貨貳百兩目方參百五拾目

一五兩判銀貳百兩兩目方參百五拾目

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

一保字金 壹步判 兩兩目方參百五拾目

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

一寶永銀 參百九拾六兩貳步壹朱換

一正字金 天銀百文銀一錢二分四釐

一安政貳步判 兩兩目方參百五拾目

一寶永銀 參百九拾六兩貳步壹朱換

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

一安政貳步判 兩兩目方參百五拾目

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

一寶永銀 參百九拾六兩貳步壹朱換

一元祿大判 兩兩目方四拾四分壹分

一寶永銀 參百九拾六兩貳步壹朱換

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

一享保大判 兩兩目方四拾四分壹分

此通貨參百兩兩目方參百五拾目

金參拾四匁六分
銀七匁九分
銅壹匁六分

此通貨七拾八兩壹步換

一慶長大判 一枚目方四拾四匁壹分

內 右同斷

一新大判 一枚目方三拾目

內 金拾壹匁
銀拾六匁
銅參匁

此通貨廿六兩貳步壹朱換

一寶永鑄錢

但當通用拾貳文代リ廿四文

天保百文錢一枚ニ付四枚ヲ以換

一寶永銅錢

但當通用六文代リ拾二文

同斷ニ付八枚ヲ以換

一文久銅錢

但當通用八文代リ拾六文

同斷ニ付六枚ヲ以換

但天保百文錢ハ是迄之如ク通用

同年四月參與光岡八郎ノ建議ニ依リ不換金札ヲ發行シ以テ之ヲ列藩ニ貸與シ十三ヶ年
賦ニ割附ケテ返濟セシムルノ法ヲ設ケリ依テ令ス

皇政更始之折柄富國之基礎被爲建度衆議ヲ盡シ一時之權法ヲ以金札御制製造被仰出
世上一同之困窮ヲ救助被遊度思食ニ付當辰年ヨリ來辰年迄十三ヶ年之間皇國一圓通
用可有之候御仕法ハ左ノ通相心得可申者也

但通用日限之儀ハ追而可被仰出候事

一金札御製造之上列藩石高ニ應シ万石ニ付一万兩宛拜借被仰付候間其筋ヘ可願出候
事

一返納方之儀ハ必ズ其金札ニ以每年暮其金高ヨリ一割宛差出來辰年迄十三ヶ年ニ而
上納濟切之事

一列藩拜借之金札富國基礎被爲立度御趣意ヲ奉體認是ヲ以產物等精々取建其國益ヲ

引起シ候様可致候

但其藩々役場ニ於テ猥リニ遣込候儀ハ決シテ不相成候事

一京攝及近郷之商賣拜借願上度者ハ金札役所ニ可願出金高等ハ取扱ヒ産物高ニ應ジ御貸渡相成候事

一諸國裁判所始メ諸侯領地内農商之者共拜借等申出候得バ其身元厚薄之見込ヲ以金高貸渡産業相立候様可致遣尤返納之儀ハ年々相當之元利爲差出候事

但僻邑僻陬ト雖モ金札取扱候向ハ京攝商賣之振合ヲ以取計可致事

一拜借金高之内年割上納之札ハ於會計局裁捨可申事

但正月ヨリ七月迄ニ拜借之分ハ其暮一割上納七月ヨリ十二月迄拜借之分ハ五分割上納可致事

一右ハ御趣意ヲ以即今之不融通ヲ御補ヒ爲遊御仁恤之思召ニ候間心得違有之間敷候尤金札ヲ以貸渡金札ヲ以返納ノ御仕法ニ付引替ハ一切無之候事

閏四月

別紙之通被仰出候間大阪三郷町中ニ不洩様可觸知者也

慶應四年辰四月

裁判所 總年寄中

同月新二步判并ニ一朱銀ノ拂底ハ其原由スル處世上ノ浮説ヲ輕信シテ之ヲ買占ムルモノアルヨリ起レリト爲シ依而之ガ諭示ヲ爲セリ

此頃新二步判并一朱銀步増可被仰出様ト無跡形儀流言致候者有之右ヲ信用致シ兩替屋へ入金致有之右金銀ヲ引取り又ハ買廻シ候ニ付通用金拂底ニ相成リ銀相場一時引上以外之事ニ付右休歩増之儀ハ決而無之義ニ有之間其旨相心得右金銀通用不差滯様可致候

右之趣三郷町中へ不洩様早々可相觸モノ也

慶應四年辰壬四月

裁判所 總年寄中へ

同年辰六月九日令シテ嚮ニ貨制ノ定價ニ附キ偏ク世上ニ發表スル處アリシガ往々此レニ疑惑ヲ抱クノ徒勘ナカラザルヲ以テ爰ニ重テ諭告ニ及ビタリ

此度宇内貨幣之定價御吟味之上通用被

仰出候處諸上納ニ不相定哉トモ相心得且又私利ヲ營ミ多分打貨等相取候趣ニ相聞以外之事ニ候右定價被仰出候上ハ右金銀錢等ハ勿論洋銀等モ御定通り無疑念取交通用可致候尤太政官諸上納并御拂等モ總而御定之通御取扱相成候間其旨可相心得候萬

一異議申立候モノ於有之者屹度可御沙汰候事

五月

其又十二日ニハ今回銀手形ニ代フニ金手形ヲ以スルニ至リタレ此レガ爲メニ弊カニ周章狼狽シテ兩替商ニ其引替ヲ迫ル如キハ甚タ謂レナキ事ナレバ得ト上意ノ程ヲ含味スベキ旨ヲ令セリ

此度丁銀豆板銀御廢止ニ付而者は迄在來之銀子手形一時ニ引替不申候而ハ如何成行哉ト疑惑イタシ候者モ有之兩替共へ差廻候趣ニ候得レ右様相成自然兩替屋共不手廻之義有之閉店等致シ候節ハ却而在來ノ銀手形反古同様相成候道理ニテ市中一統難澁ニ立至リ可申全此度被仰出之御趣意等相辨ザルヨリ右様心得違之モノモ可有之是迄ノ銀立手形者當月九日仕舞之相場ヲ以金手形ニ認置サセ候様可致候近日ヨリ金札通用ニ相成候上ハ別而融通モ開ク義ニ付當分ノ程ウロタヘ猥リニ兩替屋共へ指廻候様之儀無之様可致事

五月

同時ニ又銀目廢止ノ爲メニ或ハ市場ノ恐慌ヲ惹起スノ虞アルヲ以テ即チ其善後策ヲ講ズルモノ左ノ如シ當時貨制變革ノ際其令雨ノ如キモ亦タ深ク怪ムベキニ足ラズ

此度通用銀停止被

仰出候後ハ日々銀相場相立不申ヨリ下々諸色直段定メ兼其外種々差支之次第有之哉ニ相聞候間當分當月九日仕舞之銀相場ヲ以物價取極取引差支無之様可致候尤差寄之處假ニ右之通申渡候順而廢候様可相達候間是迄之銀立直段之品々相成丈々早々金立ニ直シ可申米相場之義者以來右ニ付何兩何歩何朱何文ト立可申其餘諸品右ニ準ジ候様可致事

慶應四年五月

其翌六月朔日ニハ新製ノ金札ヲ流布セシムベキ主旨ニ依リ今回新設ノ商法會所ヨリ一般ノ商人ニ之ヲ貸與スル事ヲ令セリ乃チ商法會所ナルモノ、創立セラレタルモノ其因ナクシバアラザルヲ知ルベシ

近來西洋各國御通商被

仰出候ニ附而ハ御國內商法之義是迄固陋之弊習計改メ諸商業手廣ニ可致趣通候御趣意ヲ以當地過書町商法會所御取建相成候處諸商人共融通ノ爲相應ノ引當ヲ以新製之金札御貸下相成候間致拜借度モノ商法會所へ願出可申モノ也

辰五月

此月重テ銀目廢止ノ善後策ニ就テ前旨ヲ繰返シテ令セリ其如何ニ一朝ニシテ古來ヨリノ慣習ヲ改ムルノ困難ナルカヲ觀ヨ

先般御觸達相成候通り銀目廢止被仰出候ニ付是迄銀目取引之者其年月日之相場ニ相致候様被仰出候處右ニ而ハ市中ノ者共不便利之趣相聞候尤モ借貸元來双方相對ヲ以融通致シ居候事故向後ハ御觸面ニ不拘相對相場ヲ以迅カニ金名手形ニ相致取引致シ可申候其中理非難決之筋有之候節ハ當役所へ可申出者也

辰五月

別紙兩通之通被仰出候間大阪三卿町申へ不洩様早々可觸モノ也

慶應四年辰五月

大阪府 總年寄 氏

尙其翌六月ニハ一層嚴重ナル令ヲ以テ之ガ反省ヲ促セリ

今日八ツ時通達町年寄被相呼左之通被爲仰渡候

今般金札御製造ハ天下公行產物融通之御趣向モ有之諸藩ニ於テモ右高ニ應ジ借用被仰付候段過日御沙汰之通りニ候勿論下々ニ於テ取引者正金同様日用普通之貨幣ニ有之候處往々不心得之モノ有之御製造之御旨趣ニ背キ依テ金札ヲ以正金ト兩替セシメ

姦商其機ニ乘打貨ヲ相貪リ候哉ニ相聞無謂事ニ候向後御取糺之上無相違ニ於テハ双方トモ乾度御答被仰付候條爲心得申達候事

慶應四年六月

右之通り被仰出候間大阪三卿町中未々迄不洩様早々可觸知モノ也

六月卅一日

大阪府 總年寄 氏

全月廿四日政府ハ積衰空乏ノ餘ヲ承ケ爰ニ漸ク維新ノ大業ヲ爲シタルヲ以テ内外ノ費用多端國帑給セズ頗ル困迫ノ境ニ陥リ又故ヲ以テ舊政府ノ慣用手段ヲ襲ヒ乃チ偏ク大阪府下一圓ニ令シテ御用金ト同意味ナル金穀ノ獻納ヲ迫ルニ至リ故ヲ以テ當時兩替商ノ上意ヲ奉体シテ其要求ニ應ゼシモノ其數甚タ少ナカラズ

皇運新ニ復シ國是漸ク定リ萬機御親裁ニ出デ百事將サニ備ラントス其時ニ當テ獨リ備エザルモノハ金穀也右ハ全ク徳川慶喜政權奉還之節國家之用度併セテ返上勿論タルベキノ所其儀未タ相運バザル内春來ノ始末ニ立到リ

朝廷無取入シテ出ス處ノ御費用不一方依レリ況ンヤ頃日征討之兵士家ヲ棄テ身ヲ殺シ一途報國之折柄萬一軍費給セズ兵食足ラザル時ハ奮進勦絶之銳氣ヲ挫キ

皇威是ガ爲ニ純ヒ平治之功業速ニ立ザル時ハ億兆ノ黎庶久シク塗炭ノ苦ヲ受ケント
恐多ク日夜 御宸憂被遊就而者内外百官之輩ハ申迄モ無之普天率土臣民聖旨ヲ奉承
シ

朝恩ヲ感戴シ畢生ノ報効此時ニアリト覺悟シ兵力アルモノハ其力ヲ以テシ貨財アル
者ハ其財ヲ以テシ上下救之カヲ合セ四海平定之功ヲ御扶植可致事ニ付銘々一人之私
ヲ捨テ天下之大事ヲ以有餘不足ヲ補フノ天理ヲ基キ各其分ニ應ジ金穀御用相勤御奉
公筋ヲ遂ゲテコソ即チ兵士之身ヲ殺シテ

辰六月

大政官

朝廷ニ盡スト同ジク下タル物ノ定分ニ候間此旨篤ト可相心得者也

右之通被仰出候間大阪町中端々迄モ不洩様可觸知モノ也

辰六月廿三日

大阪府

總年寄 中

同七月金札ノ通用ニ就キ其誤解ヲ來タシテ以テ上意ニ背戻スルナキヲ重テ嚴命セリ

此度通用被仰出候金札之儀ハ正金子同様有之候處下々之者共心得違正金ト致區別ニ
割三割減付取引致シ錢之儀モ纒金壹兩代之内ニテ正金ニテハ五百六百元余相減取引
致シ賣物之儀モ同様ニ候右故金札ハ漸位低相成

御趣意ニ相振致以外之事ニ候向後右体之取引致候モノ有之ニ而ハ無用捨召捕可及

吟味候

右之趣三郷町中端々迄不洩様可相觸者也

慶應四年辰七月

大阪府

總年寄

同七月廿七日將サニ停止セラルベキ銀貨ノ引替へ手續ニ就テ其向フ處ヲ指導スル處アリ
タリ

通用停止之一銀豆板銀共御改製之新金銀ヲ以御買取可相成旨兼テ御布告之御趣意モ
有之處未御改製場合ニ不立到候間所持ノ者ハ先可差出候右代リ金之義者銀位相當之
價ヲ以新金ニ而追々御下ダ可相成尤右代金御下有之候迄難澁之者ハ金札御下ダ被
置候而モ又ハ金札ニ而ハ御買上相成候凡銘々届ニ任可申候右之趣相心得來ル廿五日
迄ニ員數并ニ届之次第等會計官へ可申置候

右之通被仰出候間大阪三郷町々へ不洩様可觸知モノ也

辰七月廿日

大阪府

總年寄

尙又其ト全時ニ金札ノ通用ニ附テ再ビ前言ヲ繰返スノ止ムヲ得ザル事ト爲レリ蓋シ
發行當時ノ令トシテハ亦免ルベカラザルモノトス

此度通用被仰出候金札之義ハ厚御趣意モ有之兼々布全シ附候處其後心得違之者有之
 金札正金之差別致シ候趣相聞候間右様之義無之様猶又乾度觸渡置候處頃日ニ到リ候
 而モ矢張御趣意柄兎角不相用趣相聞候物テ下民是迄不相用義ハ自然疑惑可有之哉
 下深キ難惑ヲ以再度迄モ相諭候而モ不相用最早心得違トモ難申全重キ御趣意不相用
 不正ノ致方ニ附此後相背候モノ是迄ハ少シモ寛假モ難致急度曲事申附自今金札通用
 方ニ附兎ヤ角相場合等申立候モノ有之候ハ何國何レノモノニ而モ町所名前書付直
 ニ大阪府可訴出候
 右之通ニ附此上相背候モノ有之候ハバ町役人迄モ可爲越度候條精々相改御趣意ニ相
 基候様支配下之者可相諭候事
 右之通大阪三郷町中端々迄不洩様可觸知モノ也
 慶應四年辰七月廿三日
 大阪府
 總年寄 庄 へ

全年八月三日步増ヲ以テ右一步銀ノ買上ゲテ分ズ之レ尙新金ノ流通ヲ普及セシメムト
 スルニ外ナラザルヲ知ルニ足ラン
 此度右一步銀御入用有之候間百兩ニ付百七兩之步増ニ付御買上相成候間所持之モノ
 來月五日迄三十人兩替屋共之内へ可差出候尤代リ金ハ通用金ヲ以即刻御下渡可相

成候

但本文限日後入手致シ候分ハ其度毎ニ可差出候
 一有増歩之義ハ此度御買上金銀之義ニ而彼我之取引者是迄之通可相心得候
 右之通三郷町中へ不洩様可觸知モノ也
 辰七月廿九日申下刻
 大阪府
 總年寄 共 へ

斯クテ其六日丁銀豆板銀ヲ蓄藏セルモノヲシテ悉ク貨幣司へ差出サシムル事ヲ命ゼリ
 其諸種ノ古金銀ノ引替ヲシテ餘ス處ナカラシムルモノ斯ノ如シ
 今六日達町丁代總會所へ被召出左之通

丁銀豆板銀所持高等立有之分貨幣司へ差出シ可申候尤代價於同所退刻御下ゲ渡可相
 成候
 右之趣三郷町中へ通達可致候事

會計官
 總年寄 庄 へ
 同月十八日又錢相場ニ過度ノ高低ヲ來タシテ細民ヲ苦マシムル事ナカラシメシ事ヲ以
 テシ同時ニ錢兩替ノ場所モ或一定ノ所ニ規定シ其以外ニ於テ嚴ニ賣買シ得ベカラザル
 旨ヲ命ゼリ

近來錢相場過分之高下之賣買不同相成リ小前ノモノ難澁不少兩替屋正一身之利欲ニ迷ヒ相場ヲ狂シ姦曲之所業致シ候モノ有之候而ハ御國體ニ關係致シ不容易義ニ付此度高麗橋一丁目京屋與兵衛へ錢兩替御用被仰相場之義日々差圖可致候間銘々右相場ニ隨ヒ不同無之様取扱可申候尤是迄島錢相場杯ト唱候義ハ一切不相成候萬一於外場所内々相場相立姦曲之所業致候者相聞候得バ嚴重之可及沙汰候間心得違無之様可致候

右之趣三郷町中不洩様早々可相觸知モノ也

慶應四年辰八月十八日

大阪府

町御目附御役各改

監察役

平山熊太郎様

井上 獻吾様

超エテ其翌九月五日十人兩替屋ヨリ發行セシ融通小札ノ通用ヲ禁ズル處アリ依テ令ス先頃市中爲融通當八月限り十人兩替屋共錢代金小札通用御免ニ相成リ候處此頃ニ至リ僞手形有之小前ノ者混雜難澁致候旨相聞以ノ外之義取糺御所置可有之筈ニ付今日ヨリ來七日迄限り所持之者北濱壹丁目十人兩替屋共寄所へ持參候ハ、引換可遣候事

右之趣三郷町中不洩様至急ニ可相觸者也

應應四年辰九月五日

大阪府

總年寄 氏へ

全年十一月廿二日令シテ銀目廢止以前ニ係レル諸品ノ取引及借用銀返濟等ニ附テノ方法ヲ規定スル處アリタリ此レ其相場ノ不平均ヲ來タシテ人々ノ恐惱ヲ招クノ虞アルヨリシテ爰ニ及ビシナリ

銀目御廢止以前品代取引或者借用銀返濟等ニ付衆人之見込相認先月十五日ヲ限り最寄目安箱ニ可差入旨先達而及布告候ハ廣ク衆議ヲ爲盡公平至當之取極致候趣意ニ有之候處右書面之内左之見込多分ニ有之事情可然相聞候ニ付向後御廢止以前之取引ハ左ノ通取極候間屹度相心得違亂不可有之事

一御廢止以前之取引ハ貸附月或ハ品代賣渡月々相場ト仕舞相庭ヲ以平均相場タルベキ事

一去寅年以前之貸附取引等ハ何年前タリトモ總而去ル寅年早春之取引相場ニ被準候事

但去ル寅年ヨリ當辰五月九日迄月々平均相場見合ノ爲メ別紙ヲ以テ相示之事

右之通三郷丁中不洩様早々可相觸モノ也

長十一月

大阪府

總年寄

三百十八

其平均相場ト云ヘルモノハ乃チ左ノ如シ

寅正月中平均相場

金壹兩ニ付銀百貳匁四分八厘四毛五弗

錢壹文ニ附銀拾四匁壹分五厘壹毛六弗

二月中同斷

百壹匁五分貳厘九毛六弗

拾四匁參分四毛壹弗

三月中同斷

百壹匁六分四厘八毛壹弗

拾參匁八分八厘參弗

四月中同斷

百四匁八分五毛貳弗

拾參匁九分八厘六毛五弗

五月中同斷

百參匁四分四厘七毛壹弗

拾參匁壹分六厘壹毛八弗

六月中同斷

百拾八匁八分參毛五弗

拾四匁參分九厘

七月中同斷

百廿八匁八分參毛五弗

拾五匁四分七厘九毛六弗

八月中同斷

百參拾貳匁一分一厘二毛八弗

拾五匁七分六厘七毛六弗

九月中同斷

百拾四匁貳分參厘六毛

拾四匁七分九厘參毛九弗

十月中同斷

百拾七分參分貳厘七毛參弗

拾四分六分六厘

十一月中同斷

百貳拾五分六分九厘五毛

拾五分參厘四毛七弗

十二月中同斷

百廿九分六分八厘

拾五分參分六厘八毛

卯正月中同斷

百參拾壹分五分九厘五毛六弗

拾四分五分壹厘貳毛六弗

二月中同斷

百廿壹分九分貳厘

拾四分五分壹厘貳毛六弗

三月中同斷

百廿參分四分七厘五毛參弗

拾四分四分六厘四毛貳弗

四月中同斷

百廿七分壹分五厘七毛參弗

拾四分六分五厘參毛參弗

五月中同斷

百廿四分五分貳厘七毛壹弗

拾四分壹分壹厘七毛壹弗

六月中同斷

百廿二分八厘貳毛五弗

拾參分五分參厘壹毛七弗

七月中同斷

百廿五分八分六厘參弗

拾四分壹分四厘四弗

八月中同斷

百貳拾六分參分八厘壹毛參弗

拾參分九分九厘

九月中同斷

百廿八分五分八厘貳毛八弗

拾四分貳分壹厘六毛四弗

十月中同斷

百廿九分四分參厘參弗

拾四分貳分九厘參毛

十一月中同斷

百參拾四分七分七厘五毛

拾四分六分

十二月中同斷

百五拾八分三分壹厘九毛六弗

拾六分五分貳厘八毛參弗

辰正月中同斷

百九拾貳分參分參毛參弗

拾八分參分參厘貳毛

拾九分五分五厘七毛七弗

百八分八分五毛參弗

拾九分五分五厘七毛七弗

三月中同斷

百六拾四分七分六厘五毛貳弗

拾貳分壹分五厘五毛五弗

四月中同斷

百九拾貳分七分四厘八毛參弗

拾八分九分六厘五毛五弗

壬四月中同斷

貳百貳分壹分五厘五毛九弗

拾八分九分參厘九毛參弗

五月朔ヨリ八日迄七分同斷

貳百廿八分一厘七毛一弗

拾八匁四分參厘貳毛八弗

同月九日仕舞相場

貳百拾九匁四分九厘

拾七匁四分八厘

右之通

然ルニ其十二月四日ノ觸書ニ依レハ嚮ニ示セル平均相場ノ表中後日其誤謬ノ点ヲ發見シタリシカバ乃チ之ヲ修正スベキ旨ヲ以テセリ尙ホ其レト同時ニ其月ニ於ケル相場表ヲ示シタリ

十一月晦日御申渡

銀目御廢止以前品代并借用銀返濟取引等ニ附此程及布告候節爲見合去寅年ヨリノ平均相場十八兩替方ニ爲取調相添置候内當三月中平均相場 金一兩ニ付 銀百六拾四匁七分六厘五毛貳弗ト有之候處右ハ算違ニ而全平均金壹兩ニ付キ 銀百九拾八匁八分斗リ

如斯相成候旨之書付目安箱へ差入候モノ有之候付再取調候處兩替方返者有之候得尼建容之相場高ニモ不引當至當候 金壹兩ニ付

銀貳百六匁一厘二毛

右之通相成候間三月中相場書相添此旨知ラスルモノ也

右之趣三郷町中へ不洩様可相觸モノ也

十一月

大阪府

總年寄尼へ

三月

朔日 銀金 (貳百九匁八分一厘二十匁七分八厘)

二日 同 (貳百拾匁貳分五厘廿一匁)

三日 休日

四日 同 (貳百六匁七分廿八匁八分九厘)

五日 同 (貳百四匁廿八匁三分八厘)

六日 同 (貳百六匁五分廿八匁三分八厘)

七日 同 (貳百六匁一分廿八匁二分)

八日	同	(貳百四匁九分五厘)
九日	同	(貳百六匁三分五厘)
十日	同	(貳百四匁八分)
十一日	同	(貳百五匁五分九厘)
十二日	同	(貳百七匁二分一厘)
十三日	同	(貳百九匁二分)
十四日	同	(貳百九匁五分一厘)
十五日	同	(貳百六匁五分五厘)
十六日	同	(貳百貳匁八厘)
十七日	同	(貳百九匁壹厘)
十八日	同	(貳百九匁一分)
十九日	同	(貳百拾匁五分一厘)
二十日	同	(貳百拾一匁二分五厘)
廿一日	同	(貳百八匁八分八厘)
廿二日	同	(貳百九匁七分六厘)

廿三日	同	(貳百九匁九分)
廿四日	同	(貳百五匁二分)
廿五日	同	(貳百四匁二分六厘)
廿六日	同	(貳百四匁二分五厘)
廿七日	同	(百九匁九分三厘)
廿八日	同	(百九匁九分三分一厘)
廿九日	同	(百九匁八分三分)
晦日	同	(百九匁四分一厘)

其翌十二月再ビ前者ヲ繰返シテ銀目廢止以前ト以後トノ年均相場ヲ立テシメノ事ヲ以テス

銀目御廢止以前取引等之義ニ付先達而及布告候筋モ有之處處寅年以前之箇條今以確ト會得不致違モ有之哉ニ相聞候ニ付再ビ左之通り相示候間心得違有之間敷候事

一御廢止以前之取引ハ貸附月或ハ品代賣渡シ月之相場ト仕舞相場ヲ以平均之相場タル可キ事

一去ル寅年以前之貸附取引等ハ何年前タルトモ總而去ル寅年早春ノ取引相場ニ被準

候事

右者古來ヨリノ借滯等紛ト申立候而ハ混雜ノ際限無之ニ付寅年ヲ以古借之期限トシ其以前之貸附之何年ナリトモ總而寅年早春之取引ニ被擧則寅年正月之相場仕舞相場下打合セ平均致スベクモ也

長十二月

大阪府

總年寄所へ

明治二年二月五日ニ至リ始テ太政官中ニ新タニ造幣局ヲ置カレ此際太政官ヨリ造幣局へ達セラレタル大意ハ左ノ如シ

從來舊政府ハ屢々貨幣ヲ改鑄セシニ奸吏詐偽ヲ逞フシ其改鑄毎ニ益ス貨幣ヲシテ粗惡ヲ加ヘシメ爲ニ物價沸騰ノ基ヲ開ク耳ナラズ大ニ人心ヲ害シ風俗ヲ敗レリ今般新貨幣ヲ鑄造スルニ就テハ王政一新主仁ノ朝旨ヲ奉體シ嚴密注意從前奸吏ノ惡弊ヲ戒メ精金ヲ以テ新貨ヲ鑄造シ品量正當以テ人心風俗ヲシテ敦厚ニ趣カシムルヲ期セヨ依此觀之當時新貨鑄造ノ主旨ハ舊政府元祿以來積年貨制紊乱ノ弊害ヲ一洗シテ以テ我國通用寶貨ヲシテ純正畫一ニ歸セシムルニ在リタルヤ明カナリ而シテ更ニ其歲五月二十八日太政官ノ布告ニ曰ク

(上略) 今回天下ノ侯伯ヲ召サレ會議ノ上前途會計ノ基礎ヲ定メラレ當冬ヨリ新貨幣ヲ造シ來ル壬申年迄ニ金札ヲ兌換スベシ (下略)

此布告ニ據レバ當時政府ガ深ク從來貨制紊乱ノ積弊ニ懲リテ貨幣ノ改良ニ熱心ナリシヲ亦想見スルニ耐ヘタリ既ニシテ同年十二月始テ造幣機械ノ運轉ヲ試ミ翌三年庚午九月九日ニ至リテ機械ノ裝置略ホ整ヒ技師其他ノ職員モ亦備ハル乃チ試業習練ノ爲メニ先ヅ銅貨ヲ製シ同年十月十四日ヨリ試ニ銀貨ヲ鑄造スルニ頗良結果ヲ見ル此ニ於テカ翌年辛未二月ヲ以テ新貨鑄造實行ノ期ト爲シ其品位量目ヲ決定シタリ

大阪造幣寮ニ於テ古金銀改鑄致候處豈料ラン地金非常ニ輻湊シ晝夜運轉之餘リ機械ヲ損シ候ニ付金地金之分ハ矢張受取改鑄可致候得共銀地金ノ分ハ當分其機械修理相調フ迄ハ一切受取改鑄不致候此段相達候事

十月廿五日

太政官

以テ鑄造ノ盛ンナリシヲ觀ルベシ
尙ホ此レト殆ンド同時ニ新貨幣ト金札トノ區別ナク同ジ價值ヲ以テ通用スベキ旨ヲ以テ令セリ此蓋シ創鑄ノ當時ニ於テハ止ムヲ得ザルモノナリトス

此時ニ當リテ新貨ノ種類ハ銀貨五種金貨三種及銅貨二種ニテ其中壹圓銀貨ヲ以テ之ガ本位ト爲ス乃チ左ニ其名稱ヲ擧グレバ

銀貨 壹圓 (本位)
貳拾錢
伍拾錢

金貨 伍拾圓
貳圓半

銅貨 壹錢
半錢

(備考) 此二圓半金貨ハ未鑄造セラレザルニ先チテ
廢セラレ更ニ二圓金貨及一圓金貨ヲ鑄造ス
ルト爲レリ

而シテ吾國貨制改正ノ最樞要點タル金銀新貨ノ品位量目ニ關スル制規ハ政府ノ叮嚀審議ヲ經テ去三年十一月一度決定セラレタリト雖モ幾クモナクシテ其翌四年四月更ニ此制規ヲ改正シ銀貨本位ノ制ヲ棄テ、金貨本位ノ制ヲ取ル事ニ確定セリ
新貨幣追々御發行相成候ニ付テハ新貨條例之通相心得取交通用可致旨及布令候處新貨ヲ以テ金札ト引替候節兎角多分之差相立不都合之次第モ有之哉ニ相聞心得違之事
三候自今屹度壹圓壹兩之當ヲ以新貨金札取交聊無差支通用可致事

辛未十一月

太政官

同年十二月ニ至リ延手形ニテ金品ヲ取引ヲ爲スヲ禁ズ此レ蓋シ往々不渡リヲ生ジ相互

ノ煩累ヲ來タスノ恐アルヨリシテ斯ク簡便ナル融通機關ハ杜絶セラレ、ノ止ムヲ得ザル事ト爲リタリ

論 告

凡賣買取引之未代金滯リ品物取込レ手形金不渡等之事件起リ相對熟濟整ハズ遂ニ公訴ニ及ブテ深ク察スルニ多クハ其初約定ノ疎漏ニ依ル事ナリ就中銘々ヨリ兩換屋宛振并延手形等ニテ品物金錢之取引致ニハ全ク一時之融通ニテモシ我思フ如ク金融調ヒ難キ節ハ毎モ其手形不渡ニ相成リ双方爭論ヲ生ズルハ必然ノ理ニテ甚ダ謂レナキ事ナレバ固ク廢絶致スベキハ勿論ナレド數十年來ノ風習ニテ惡シキ弊トハ心付ズシテ斯ク專ラニ行ハレ候事ナラン事ナ一時ニ差止メ候ヘバ亦下方難澁ニモ相成リ不忍義ニ付先ツ當分延手形ノミ相止メナリタリ入金之度毎ニ兩替屋ヨリ手引取直其手形ヲ以テ賣買可致モシヤム事ヲ得ザレバ銘々ヨリ兩替屋宛テ振手形ヲ用ユルモ不苦候ヘドモ來申正月ヨリ斷然改正可致ニ付萬事正路ニ基キ信義ヲ失ハザルヤウ懇切ニ取引致スベシサスレバ自然ト下方之融通モ能ク爲リ商業ノ差支モナク上ノ手數モ省キ候理ナレバ能ク、此意ヲ勘辨致シ可申來正月ニ至リ此論告ニ戻リ疎漏之取引致シ如何様難澁ニ迫リ訴出候ハ一切採用ヒ不申候間兼々屹度心得居リ可申モノ也

右之趣市中ハ大中少寄里村ハ庄屋年寄頭百姓共ヨリ無遺漏一同へ懇々教諭可致候事

明治四年辛未十二月

大阪府

同月十四日貢租金等ハ其儘上納セシメ苟且ニモ各種ノ貨幣ト引換フル事勿カラシメタリ然ラザレバ其結果トシテ此ガ相場ニ異同ヲ生ズルノ恐アレバナリ

諸府縣ヨリ致上達候貢租金等於東京竊ニ各種ノ貨幣ト引換候向有之趣相聞如何之事ニ候畢竟右様不都合之取計致候ヨリ下方疑惑ヲ生ジ各種ノ貨幣ニ差等ヲ建テ自ラ融通之差響ニモ相成候條以來屹度右様ノ取扱致ス間敷總テ下方上納之儘上達可致若萬一心得違之向有之ニ於テハ嚴重之御沙汰可有之候條此旨相達候事

辛未十二月

太政官

既ニシテ廢藩ノ令ハ下レリサルカラニ人心只管其革命ニ危惧ヲ抱キ或ハ容易ナラザル途説ヲ逞ウシ以テ經濟界ヲ擾亂セントセリ故ヲ以テ乃チ左ノ令アル所以ナリ
先般廢藩ノ御布令有之候ニ付テハ舊負債返濟之道全ク絶滅致候様相心得色々浮説ヲ唱候輩有之哉ニ付此様ニ乘ジ種々奸計ヲ設ケ私利ヲ專ニセン事ヲ圖リ候様ニ至リ候テハ以之外之事ニ候賞度之義ハ上下一般未曾有之御改革ニテ深キ御趣意モ被爲在候次第ニ付一同厚相心得人心ヲ疑惑セシメ候様之儀無之重大之御場合ニ付追テ何分之

御處分有之候迄謹テ可相待モノ也

右之通り布令スルモノ也

明治四年辛未十二月

大阪府

同月廿二日令シテ今度造幣寮ニ於テ古金銀預リ證券ナルモノヲ發行スルニ附テノ規則ヲ公ニセリ此レ蓋シ古金銀ヲシテ全然其迹ヲ絶タシメ獨リ新貨ヲシテ世ニ普及セシメントスルヨリシテノ手段ナリトス

今般造幣寮ニ於テ古金銀預リ證券ヲ發行シ此ヲ流融通使用セシメ追テ定期ヲ以テ新貨ニ交換セシムベキニ付來十二月十五日ヨリ古金銀所持之者ハ望次第造幣寮へ申立左ノ規則ニ準ジ地金ヲ納メ證券受取候様可致事

辛未十一月

太政官

古金銀納入證券渡方規則

第一則

古金銀又者混合之地金塊ヲ造幣寮へ納メ造幣頭之預リ證券ヲ得ント欲スル者ハ地金ヲ持參シテ其趣ヲ出納掛長官へ申立ツベシ
古金銀又ハ地金塊之高ハ成貨ニシテ凡千圓以上タラバ此ヲ受取ルベシ

但シ舊貨之類タラバ既ニ公布セル通貨ニ從ヒ混合之地金塊タラバ其純分之凡積ヲ以テ假ニ其高ヲ見積ルベシ

古金銀又ハ地金塊之受取方ハ造幣規則第一條之日時通りタルベシ尤其日之受取多寡ハ造幣寮ニ於テ工事ノ都合ニ依リテ之ヲ取極ムベシ

第二則

右古金銀又ハ地金塊ハ納人立會ニテ其品數及量目ヲ改メ出納掛長官之ヲ預リ假リ受取書ヲ納人ニ渡シ置キ試験溶解所ニ於テ試験分析ヲ爲シ其純分ヲ詳明ニシテ後預リ證券ヲ渡スベキ手續ヲ爲スベシ試験溶解并分析之時間ハ遅ク共九日ヲ以テ限ルベシ尤造幣頭承認之分析表ヲ添テ其納人へ渡スベシ
溶解之工事ニ於テ若シ量目溶減スレバ其減分ハ納人之受持タルベシ

第三則

試験溶解并分析之上其金之品量詳明ナレバ出納掛長官ハ其品量ニ應ジテ全量ノ中ヨリ定則之試験分析料精製料鑄造料及證券發行之費用ヲ引去リ其殘量ヲ以テ新貨之高ヲ算出シ預リ證券渡方之令狀ヲ認メ之ヲ納人ニ渡シ前ニ渡セシ假受取書ヲ返收スベシ若シ地金納人右ノ試験分析料充分ナラズトシテ預リ證券ヲ受取ル事ヲ望マザレバ

其地金ハ溶解ノ儘之ヲ返却シ試験分析料ノミヲ納メシムベシ混合地金ノ銀分ハ拾六ナ以テ金壹ニ替ユベシ
試験分析料ハ金銀共千ニ付壹精製料現今分析所ニ於テ定リタル割合鑄造料ハ百ニ付壹證券發行之費用ハ千ニ付五ナルベシ

第四則

地金納人ハ出納掛長官ヨリ渡セシ令狀ヲ以テ證券掛へ申出令狀ト引替ニ其高丈ケノ預リ證券ヲ受取ルベシ
此證券掛ハ大阪ニ在ル爲替座三井組并同所ノ爲替方ニ於テ取扱ハシムベシ

第五則

此預リ證券之金高名稱ハ金五圓金拾圓金貳拾圓金五拾圓ノ四種タルベシ

第六則

此預リ證券ハ所持人之都合ニ依リ賣買勝手タルニ付引替期限前ニテモ無差支之ヲ通用スベシ
但シ取引之節ハ預リ證券之番號ト其取引先之姓名トハ互ニ心覺ノ爲ニ書留置クベシ

第七則

此預り證券ハ發行ノ日ヨリ二十四ヶ月ヲ以テ通用ノ定限トシテ都テ新貨ヲ以テ之ヲ引換ユベシ尤發行ノ日ヨリ六ヶ月以後タラバ持參次第何時ニテモ左之場所ニ於テ之ヲ新貨ニ交換スベシ

東京爲替座三井組
大阪爲替方

但シ其節ノ都合ニ依リ橫濱神戸ニ在ル爲替座及西京爲替方ニテモ之ヲ引替ユベシ

第八則

此預り證券ハ引替之期限即チ發行ノ日ヨリ六ヶ月以後後ハ大藏省ヘ可差出諸稅上納金等ニモ無差支之ヲ用ユル事ヲ得ベシ

但シ海關ノ諸稅ニハ之ヲ受取ラズ

第九則

此預り證券ヲ贋造スル者贋造セント謀ル者又ハ贋造ヲ助クル者又ハ贋造ナルヲ知リテ通用セシムル者ハ何等ノ人ヲ論ゼズ國法ニ從フテ之ヲ嚴科ニ處スベシ
右之通り規則相定メ候事

辛未十一月

大藏省

右之通被仰出候事

辛未十二月

大阪府

全月廿八日新貨幣ト金札并ニ舊銅貨トノ比準ヲ規定セリ依之見ルモ既記ノ如ク金貨壹圓ヲ以テ本位トセルハ明カナリ

舊銅貨之儀去辰年定價被仰出候處今般新貨幣御發行ニ付各種比較高量之上當分左之通り品位被相定候條其旨相心得新貨幣并金札共取交聊無差支通用可致事

辛未十二月

太政官

新貨幣并ニ金札之比較

- 新貨壹圓
- 新貨五拾錢
- 新貨貳拾五錢
- 新貨拾貳錢半
- 新貨六錢貳厘五

- 金札壹兩ニ當ル
- 金札貳步ニ當ル
- 金札壹步ニ當ル
- 金札貳朱ニ當ル
- 金札壹朱ニ當ル

舊銅貨品位

拾枚ヲ以テ八錢トス
 百貳拾五枚ヲ以テ壹圓ニ換ル六拾二枚ト貳厘錢二枚ヲ以テ
 五拾錢ニ換ル三拾一枚ト貳厘錢一枚ヲ以テ貳拾五錢ニ換ル
 但拾貳錢半六錢貳厘五毛右ノ割合タルベシ

以下同斷

貳厘 通 寬□永 十枚ヲ以テ貳錢ト
 四文錢ナリ
 五百枚ヲ以テ壹圓ニ換ル二百五拾枚ヲ以テ五拾
 錢ニ換ル百貳拾五枚ヲ以テ貳拾五錢ニ換ル

壹厘 永 文□久 十枚ヲ以テ壹錢半
 トス波錢ニテ元四
 六百六拾七枚ヲ以テ壹圓ニ換ル三百卅四枚ヲ以
 テ五拾錢ニ換ル
 百六拾七枚ヲ以テ貳拾五錢ニ換ル

壹厘 通 寬□永 拾枚ヲ以テ壹錢ト
 千枚ヲ以テ壹圓ニ換ル
 五百枚ヲ以テ五拾錢ニ換ル
 貳百五拾枚ヲ以テ貳拾五錢ニ換ル

耳白或ハ其外ニモ元壹文錢アリ

右ハ新貨幣本位ノ金貨ト定位ノ銅貨トノ比例ニ依テ定ムルガ故ニ一種又ハ數種ヲ併
 セ用ルトモ一口ノ取遣リ壹圓ノ高ヲ限リ用ユベシ
 但壹圓ノ高ヲ越ユレバ是ヲ拒ムノ權アルベシ尤相互ノ便宜ニ依テ取遣リスル時ハ
 右制限ニ不拘勝手タルベシ
 右之通り相定候事
 右之通り被仰出候事

太 政 官

大 阪 府

辛未十二月

而シテ政府ガ貨制改正ノ事由ヲ其締盟各外國ノ公使ニ報告セル中ノ一節乃チ新貨幣通
 用制限ニ就テモ言ヘルアリ

本位金貨幣(即貳拾圓、拾圓、五圓、貳圓、壹圓)ノ中ノ壹圓金ヲ以テ原貨ト定メ各種トモ何ノ拂方ニモ之ヲ用
 ヒ其高ニ制限アル事ナシ

本位トハ貨幣ノ主本ニシテ他ノ準據ト爲ルモノナリ故ニ通用ノ際ニ制限ヲ立ツル
 ナ要セズ尤モ壹圓金ヲ以テ本位中ノ原貨ト定ムルトキハ就中壹圓金ヲ以テ本位ノ
 基本ヲ定メ他ノ四種ノ金貨モ凡テ標準ヲ壹圓金ニ取レバナリ
 定位ノ銀貨幣(即五拾錢、貳拾錢、拾錢、五錢)ハ都テ補助ノ貨幣ニシテ其一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ

一口ノ拂方ニ拾圓ノ高ヲ限ルベシ
定位ノ銅貨(即壹圓、半)ハ渾テ一口ノ拂方ニ壹圓ノ高ヲ限リ用ユベシ

定位トハ本位貨幣ノ補助ニシテ制度ニ依リテ其價位ヲ定メテ融通ヲ資クルモノナ
リ故ニ通用ノ際之ガ制限ヲ設ケテ交通ノ定規トス

各開港場貿易便利ノ爲メ當分ノ内外人民ノ望ミニ應ジ壹圓ノ銀貨ヲ鑄造シ之ヲ買
易銀ト爲シテ通商ノ流通ヲ資クベシ

此壹圓銀ハ全ク各開港場輸出入物品其他外國人ヨリ納ムル諸稅及ビ日本人外國人ト
通商ノ取引ニ用ユルノミニシテ内地ノ諸稅納方等公ナル拂方ニ用フベカラザルハ勿
論其他一般ノ通用ヲ得ザルベカラザレ私ノ取引ニ付相對ノ示談ヲ以テ受取渡シ致
ス分ハ何レノ地ニテモ勝手次第タルベシ

各開港場諸稅受取方ニ付壹圓銀ト本位金貨トノ價格比較ハ當分銀貨百圓ニ付本位金
貨百〇壹圓ノ割合タルベシ

右通用制限ハ元來貨幣ニ原本ト補助トノ別アル所以ノ理ニ基キテ制定セシモノナレ
バ人々取引ノ節右ノ制限ニ照準シ若シ之ニ超ユレバ誰レニテモ請取渡シ拒ムノ道
理アルベシ左レドモ私ノ取引ニ付便宜ノ爲メ對談ヲ以テ請取渡シ候義ハ全ク相互ノ

都合ニ從フ筈ナレバ右制限ニ不拘勝手次第ニ交通致シ不苦候事

右相定候事 (明治四年辛未五月)

同年同月新紙幣ヲ發行シ以テ從來ノ不完全ナル官藩兩者ヲ發行ニ係レルモノト交換セ
シメント依テ令スル處アリ

維新以來太政官并民部省發行之金札製造之粗ナルニ依リ賈造ヲ謀ルモノ間々有之且
又從來舊藩於テ發行金札錢札ハ其管轄通用之儀ニ付一般流通ノ便ヲ失ヒ其弊害

不尠依之今般御多端之折柄莫大ノ費ヲ不爲厭精工之新紙幣百圓五拾圓貳拾圓拾錢五
錢之各種ヲ製造シ來壬申年二月十五日ヨリ右各種之内差向壹圓五拾錢貳拾錢拾錢之

四種ヲ發行セシメ追々製造成功ノ都合ニ依リ從來官藩兩様之金札ト引替候條厚キ御
趣意ヲ體認シ無疑念通用可致尤一般引換ノ都合ハ猶追而相達儀モ可有之依テ各種新

紙幣相添此段相達候事

明治四年辛未十二月

太政官

尙之レト同時ニ舊藩公債證券ヲ猥リニ典賣スル事ニ附テ取締ル處アリ

舊藩公債之證券ヲ以テ典賣致候儀堅ク被差止各地方官ニ於テ取締可致旨去十月中及
布告候ニ付テハ違犯之輩ハ無之筈ニ候得ル萬一心得違ノ向有之候節ハ右證券取上ゲ

双方共屹度答可申附候間此旨更ニ相達候事

明治四年辛未十二月

太政官

同五年申正月十三日ノ令ニ依レバ新貨幣ト新銅貨トノ比準ニ就テ一ノ規定ヲ爲ス所アリタリ然レモ歸スル處ハ壹圓金貨本位ニ從ハシムルノ主旨ニ外ナラズ

舊臘廿八日御布告ニ相成候舊銅貨之品位ヲ記シ候處○印ヨリ今度改メテ御布令相成候間前條見合スベシ

右者本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニ依ツテ定ムルガ故ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ一口ノ取遣リ壹圓ノ高ヲ限リ用ユベシ

但壹圓ノ高ヲ越ユレバ之ヲ拒ムノ權可有尤相互ノ便宜ニ依テ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルモシ

右之通リ相達候事

太政官

全年壬申正月愈ヨ新紙幣ヲ發行スルニ就テ其主旨ヲ世ニ發表セリ

新製紙幣御發行ニ付別紙之通被仰出候右者方今御多端之折柄莫大之御入費ヲ不被爲厭一般流通人民之便利ヲ御聞相成リ候深キ御主意ニ付萬一新奇ノ思ヒヲ爲シ或ハ厭

忌之情ヲ生ジ流通ノ妨致候様之儀於有之ハ以テノ外不相濟事ニ付一同篤ト御主意奉

戴シ聊カ無疑念通用可致候事

右之趣管内無洩相達スル者也

明治五年壬申正月

大阪府

之レニ引續キ藩札ノ引換比準ヲ示シ以テ其向フ處ヲ指示ス

舊藩々製造之紙幣尙幸未七月十四日ノ相場ヲ以テ追而御引替可相成旨被仰出候處今般舊銅貨之品位新貨ニ比較被相達候ニ付而ハ各種紙幣之儀モ同様新貨相當之定位被

相達候ニ付大藏省ヨリ可相達候條此旨兼テ可相心得事

右之通被仰出候事

明治五年壬申正月

太政官

全月十七日令シテ近年兎角安誕ナル途説ヲ逞フシ依テ以テ此間ニ私利ヲ營ムノ徒アルヨリ乃チ一般ニ向テ諭示スル處アリタリ

頃日於東京一分札貳朱札等直段下之風評彼是申唱候族有之趣全無根之浮説ヲ以テ私利ヲ圖リ候姦民之手段ニ出候事故萬一於府下モ右様之義申觸候族有之候モ決而疑惑不致様爲念申付候條一同へ厚可申諭事

壬申正月

三百四十四
大阪府

右之通被仰出候尤過自同様之義相達置候へは猶又被仰出候義ニ付厚相心得可申事

明治五年正月十七日

大 年 寄

前ニモ既ニ述ブルが如き明治初年ヨリ劣悪ナル貨幣ハ彌々蔓延シテ其弊害益々熾ナルヲ以テ啻ニ内國一般之ニ苦ム事ナラズ我國在留外國商人等モ亦此弊害ニ苦メラレ各其國ノ公便及領事ニ向テ匡救ノ舉アラントテ訴フルニ至レリ故ニ吾政府モ爾來銳意其弊害ヲ防制スルニ勵メケルヨリ同三年ノ冬期ヨリ漸ク其積弊ハ一掃セラル、ノ機ニ到達シテ斯クテ同五年申第三十八號ノ布達ニハ

從來世間ニ流布之贋造貳分判既ニ引換相成候得庄若シ相殘居候分有之候ハ、斷裁ソ上地金トシテ致賣買候儀ハ自今可爲勝手事

壬申正月

大 阪 府 官

右之通被仰出候間管内無洩相達スル者也

壬申三月

大 阪 府

依之此ヲ觀レバ此時ハ既ニ其贋惡金貨ノ處分ハ畧ホ其終局ヲ告ゲタルモノ、如シ

以上舉示セル處ニ於テ吾國ニ於ケル貨制沿革ノ概要ハ知ルヲ得ベシ此ヲ要スルニ兩替商ノ沿革ハ即チ貨制ノ歴史ナリ故ニ貨制ヲ離レテハ兩替商ノ起因發達盛衰興亡一トシテ傳フベキモノアルナシ編者ガ貨制ニ係ル事柄ヲ經トシ特ニ兩替商ニ係レルモノヲ取テ緯ト爲シ以テ一編ノ沿革ヲ叙スルモノ即チ是レアルガ爲メナラズンバアラズ (完)

古金の種類

安永より安政年間より追々圓として鑄
造す可謂古金の種類を一目以下に瞭然
とせんか為の爰に便利に其雛形を
考へて添ふ

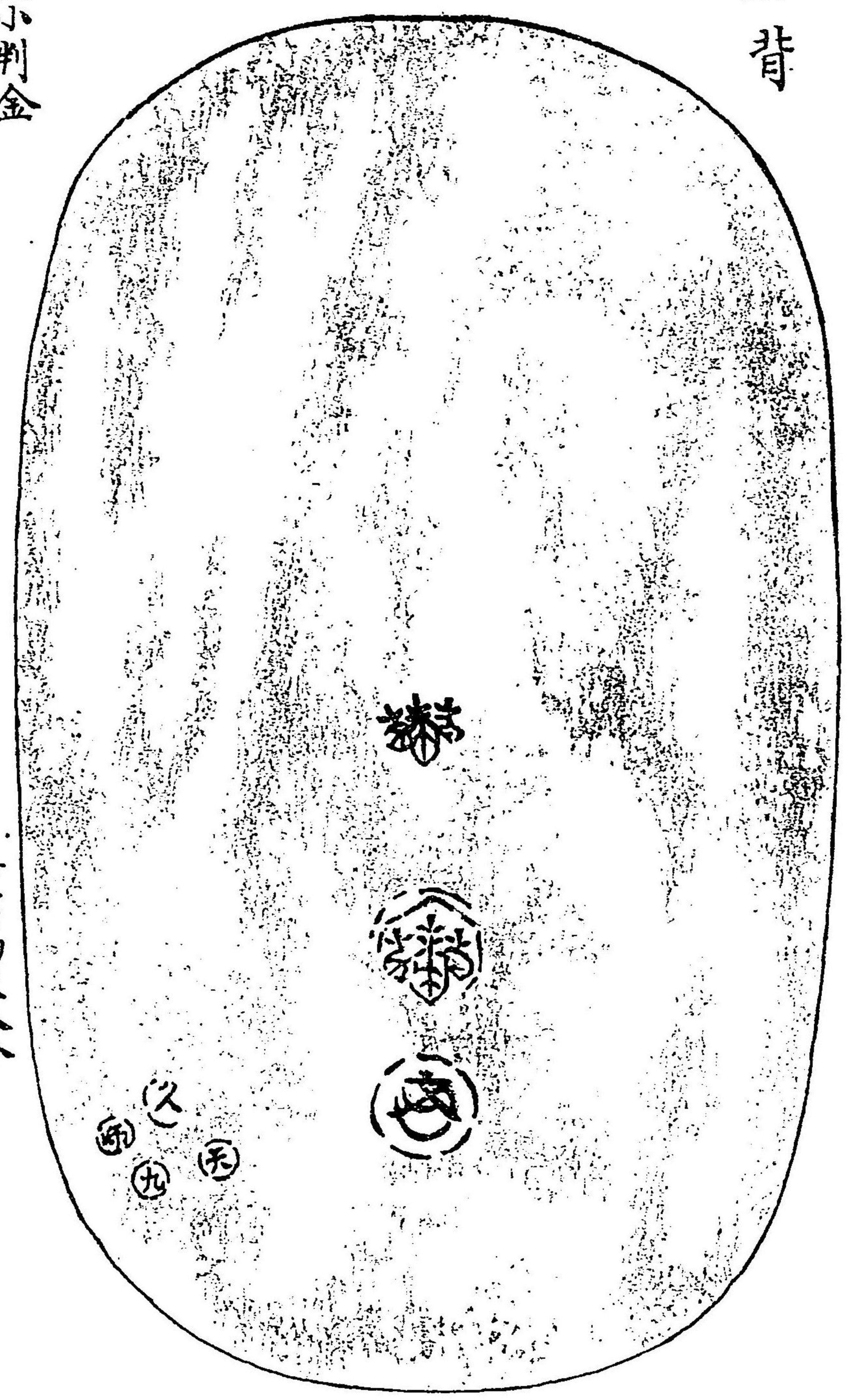
慶長大小判金

慶長大判金

重廿四拾四匁



全背

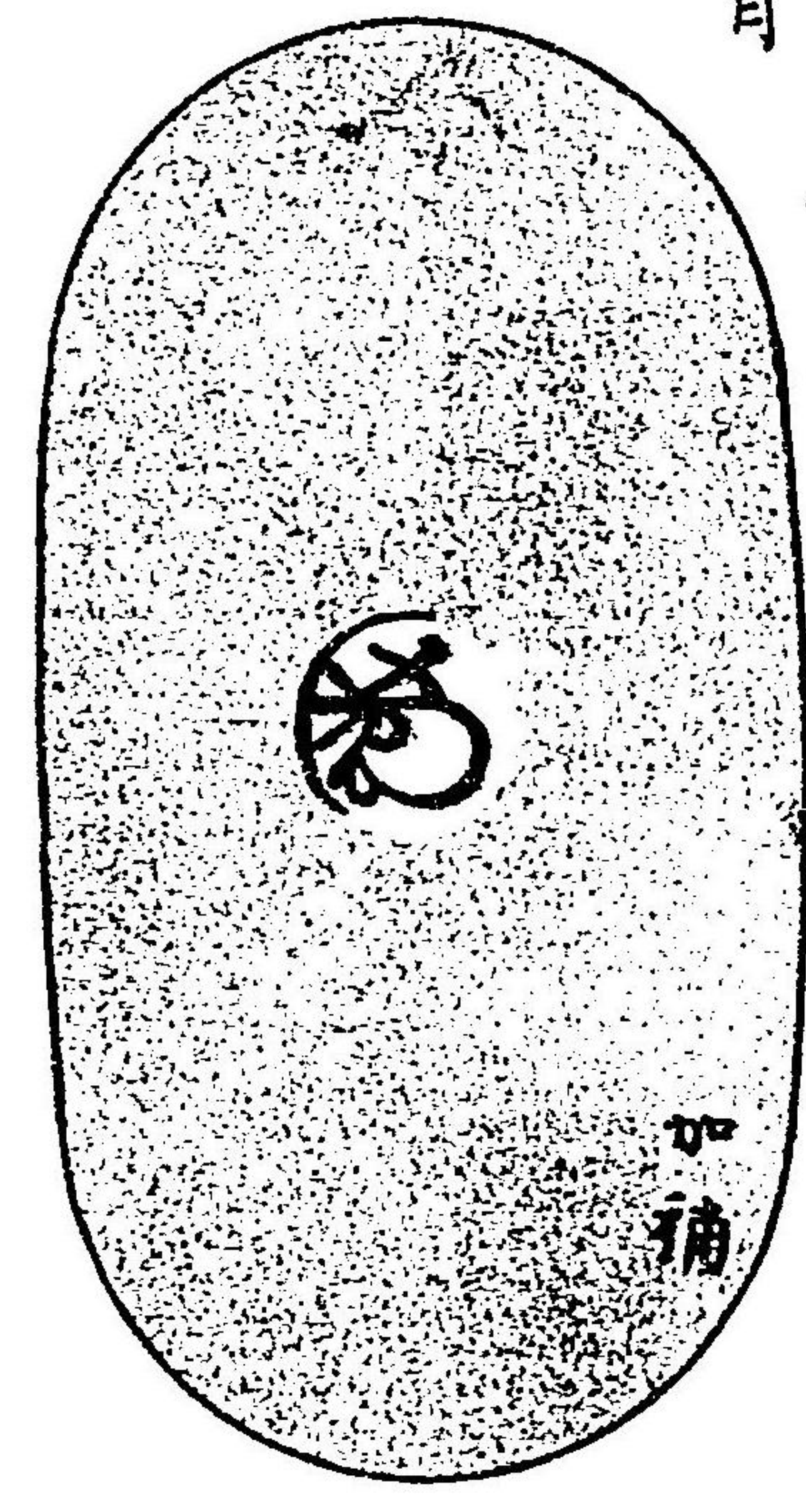


江戸産小判金



背

重廿四又八分



如前



元録大判金

元録大小判金

重廿四拾四匁二分

一分判金

重廿一匁二分



兩本字金

重廿全上

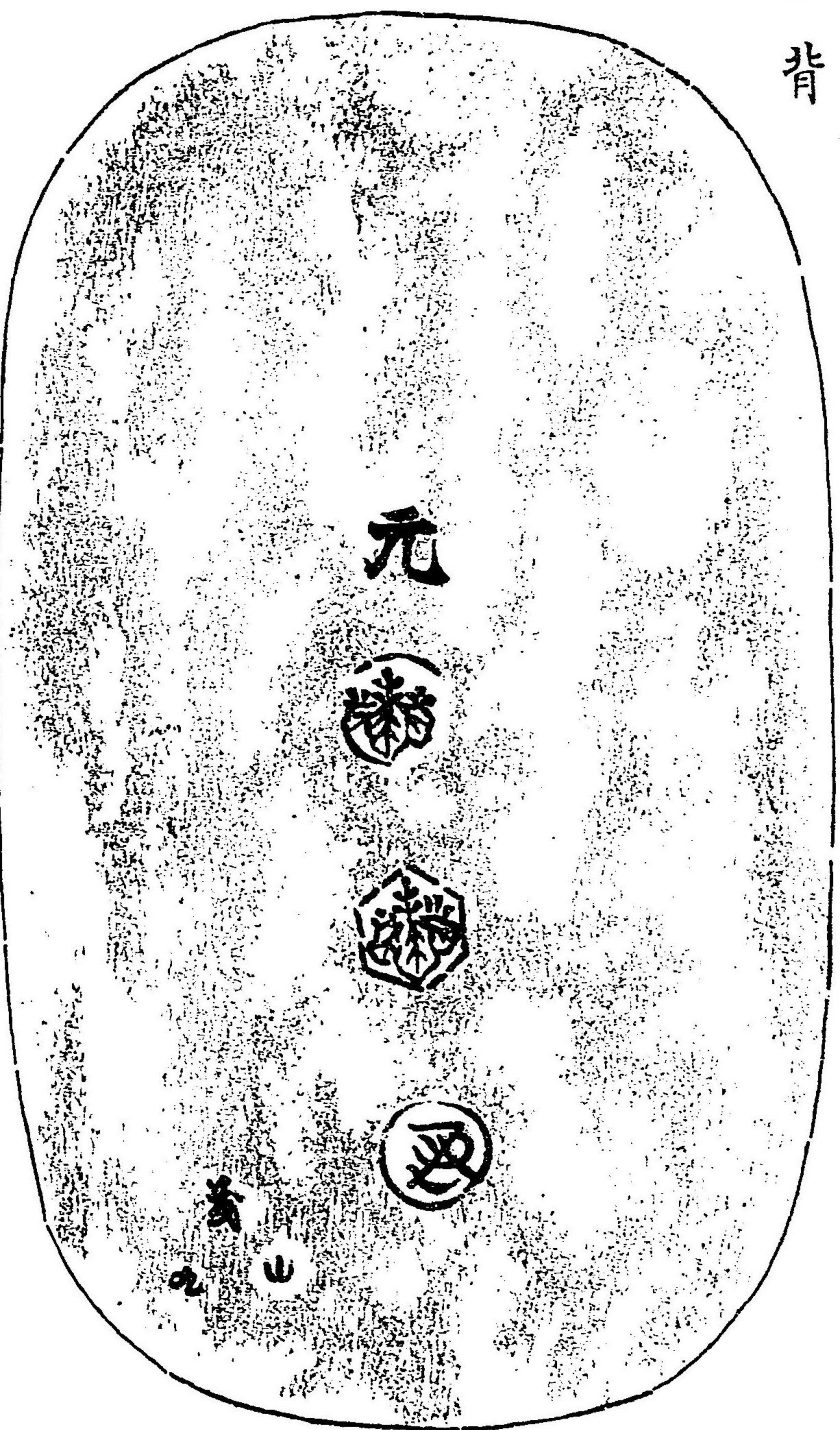


片本字金

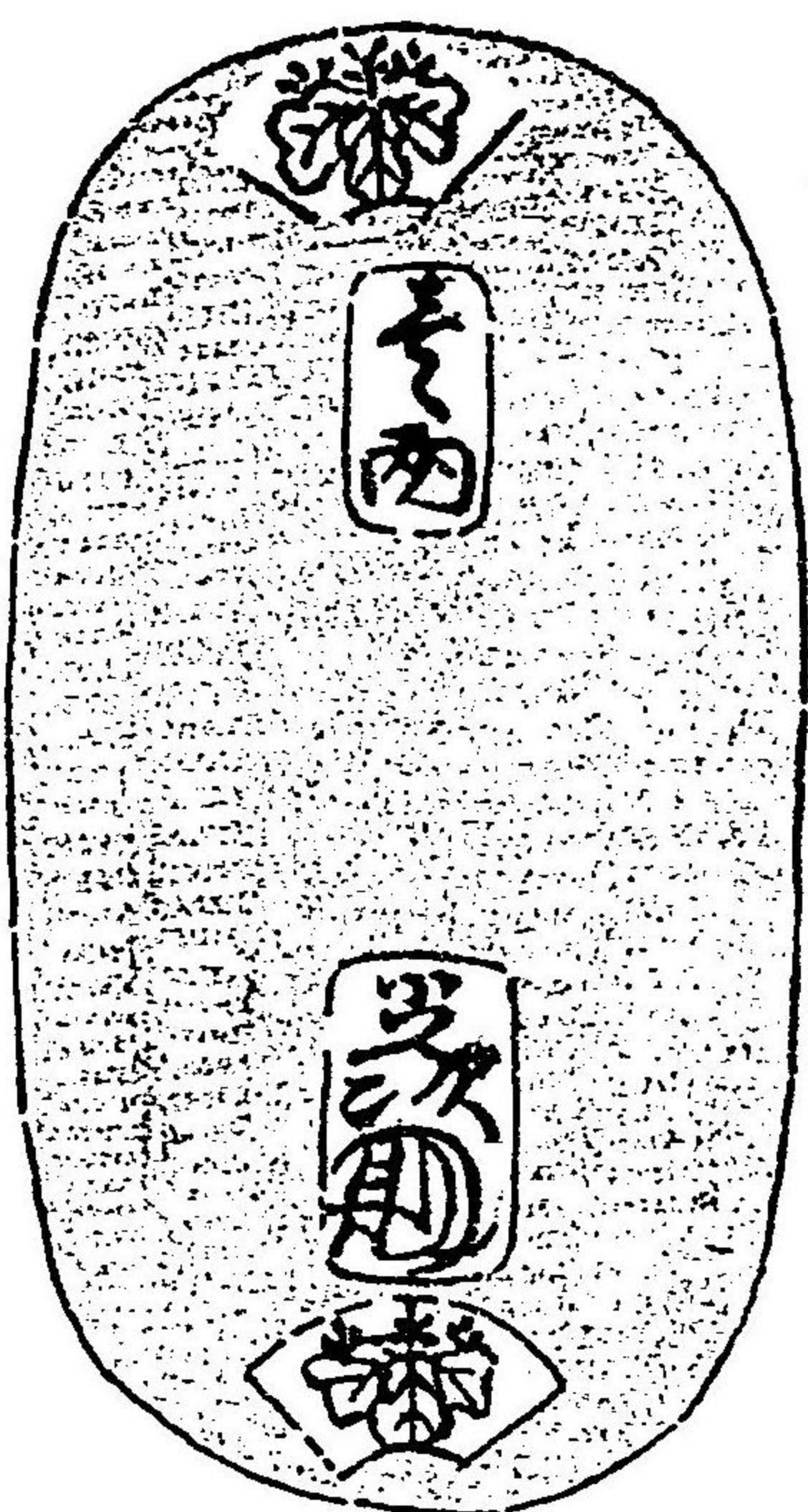
重廿全上



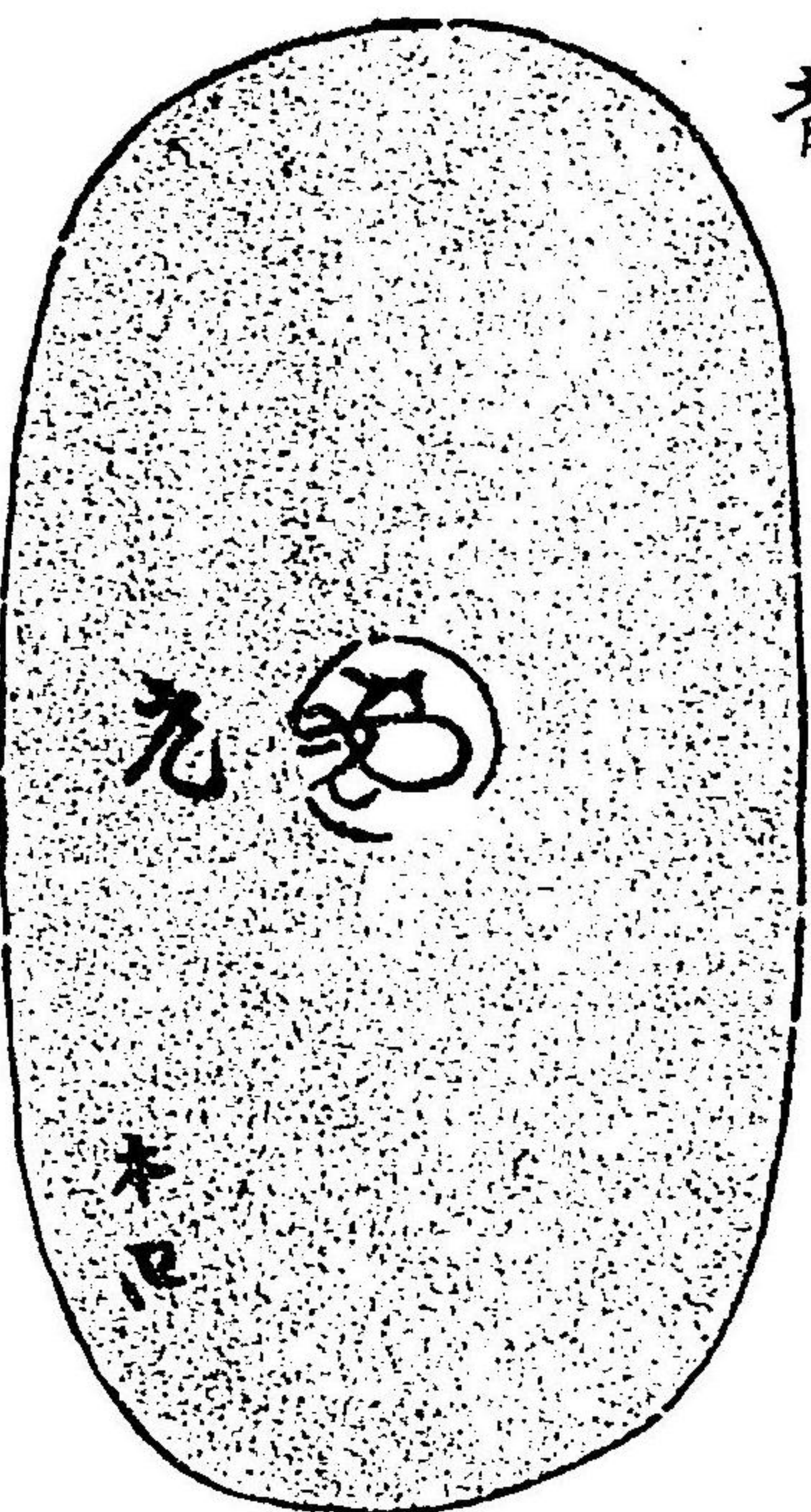
全背



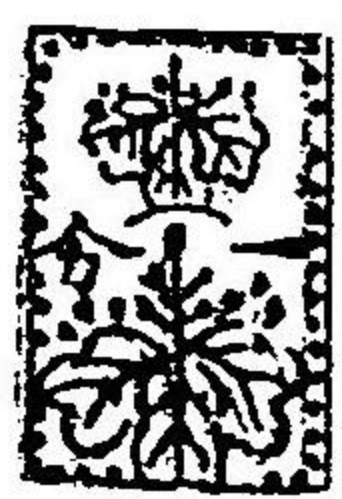
小判金 重廿四又八分



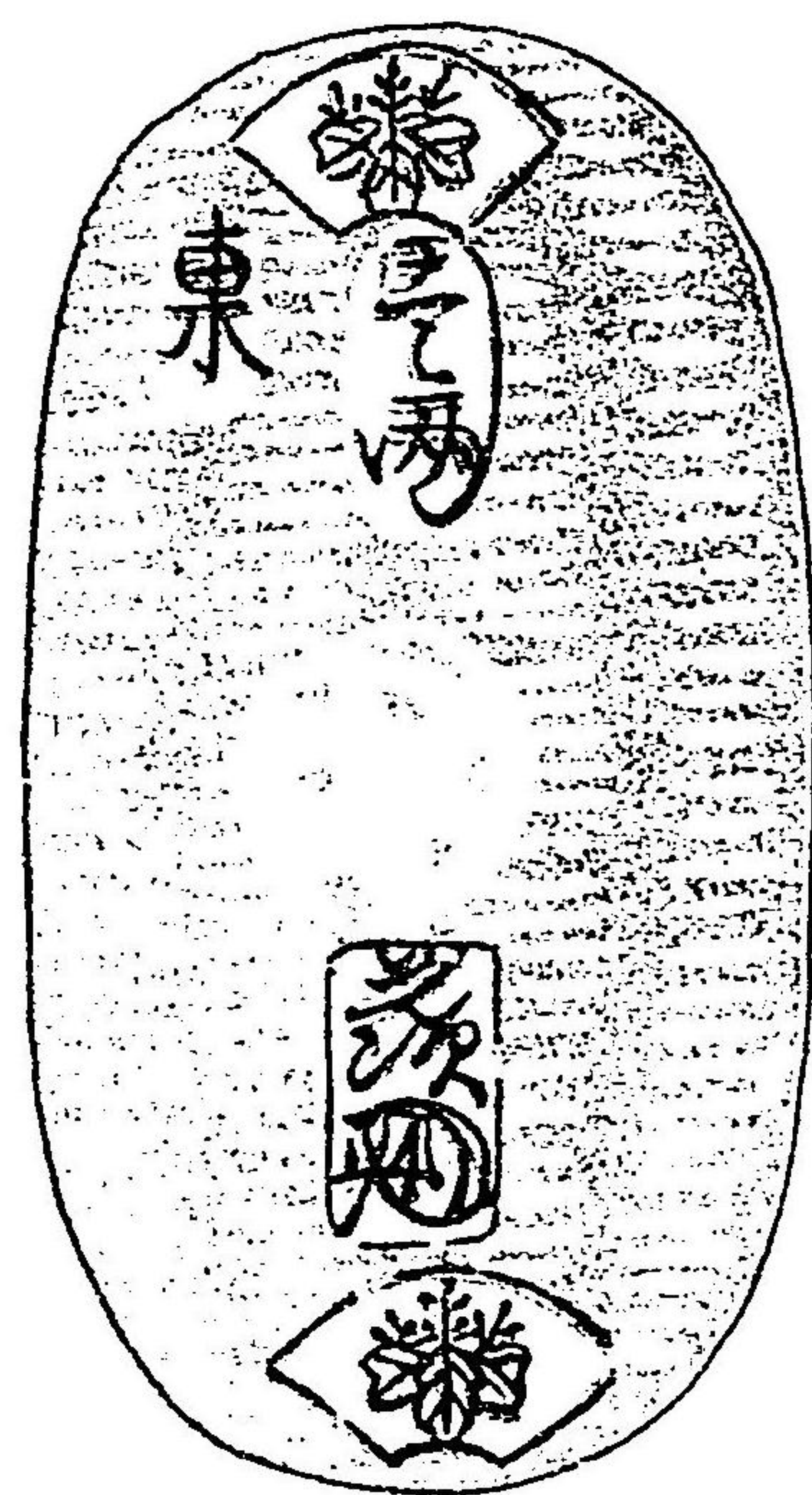
背



一分判金 各重廿一又二分



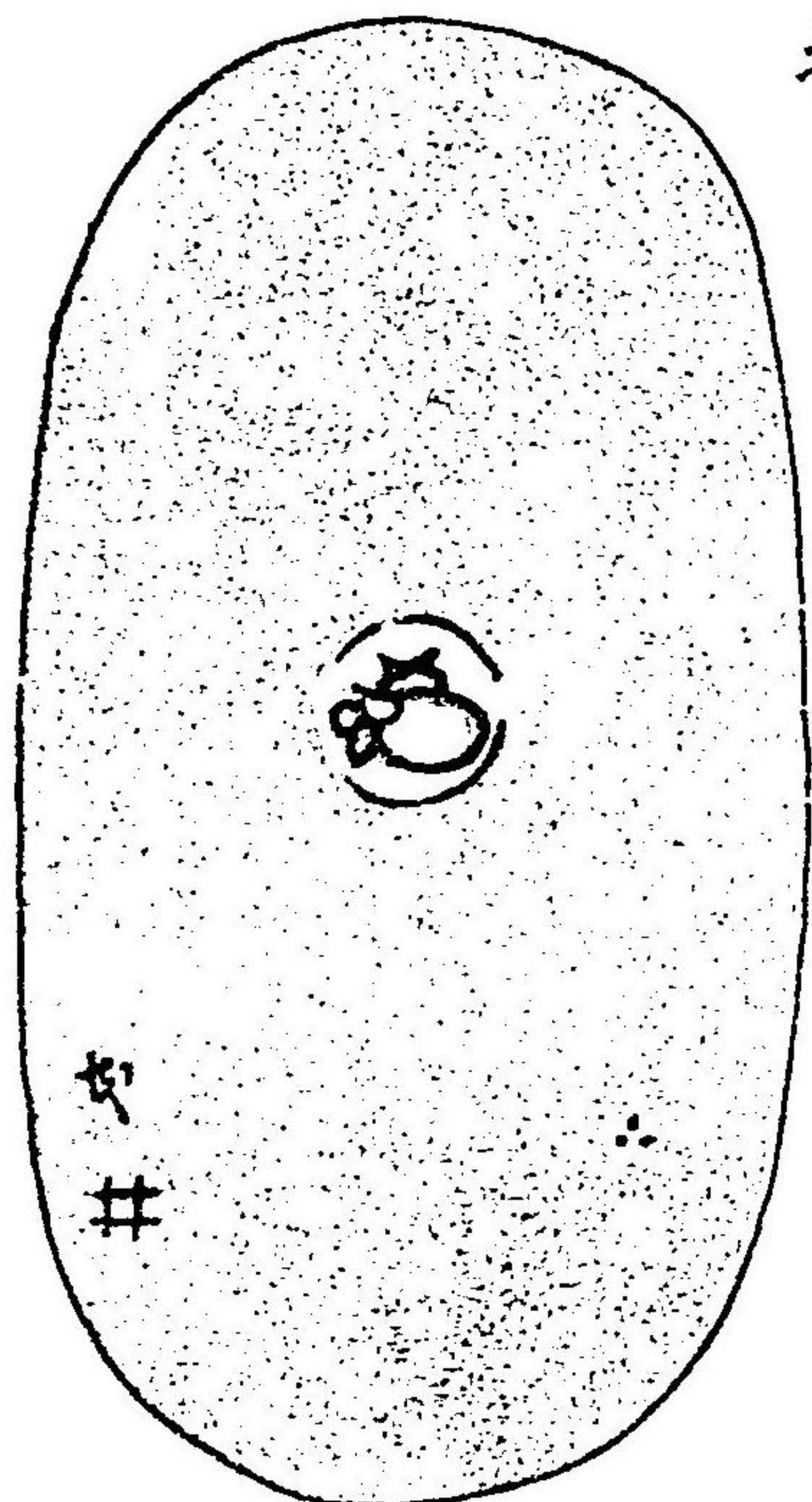
武藏東小判金 重廿四又八分



二朱判金 重廿六分



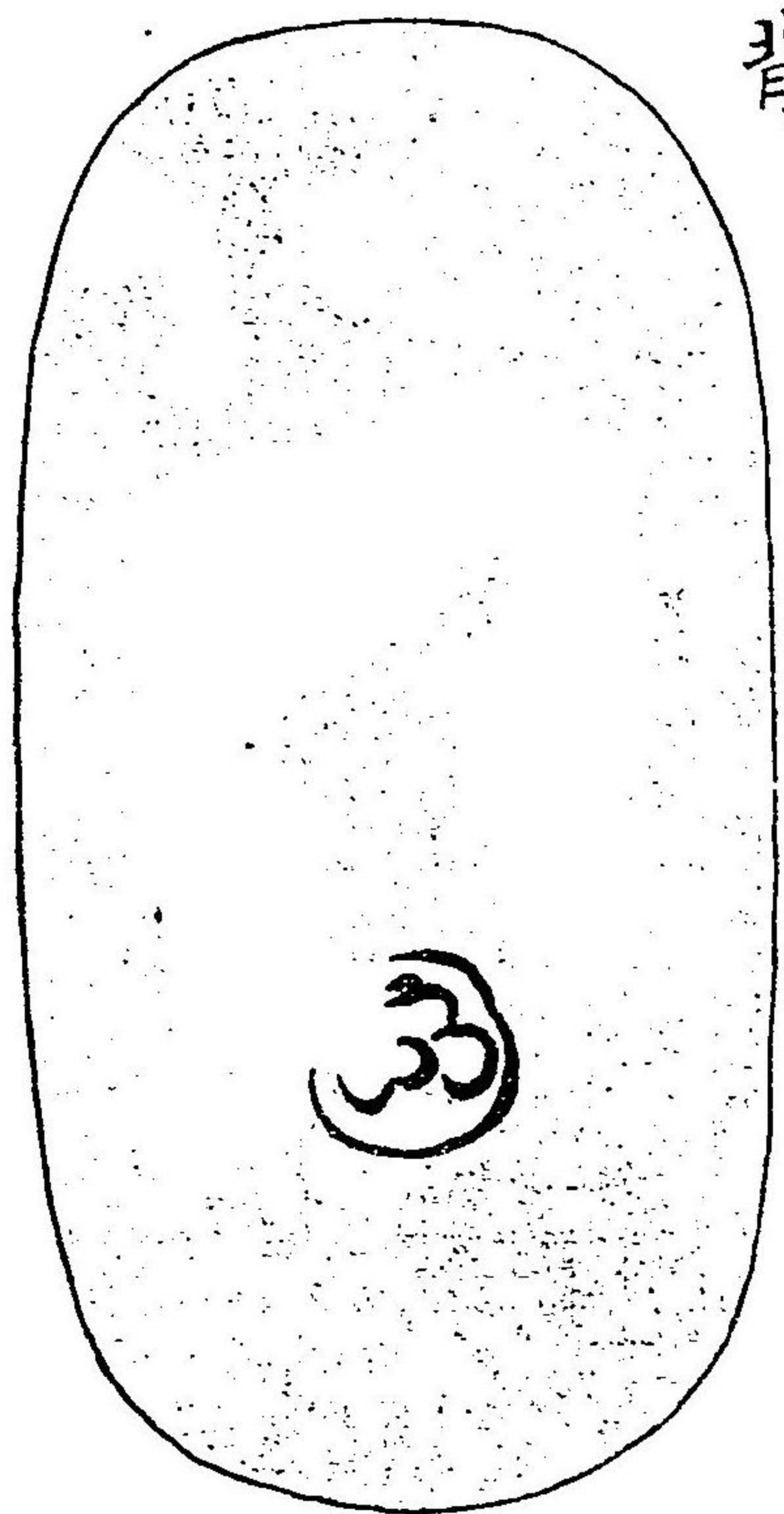
背



武藏小判金 重廿全上

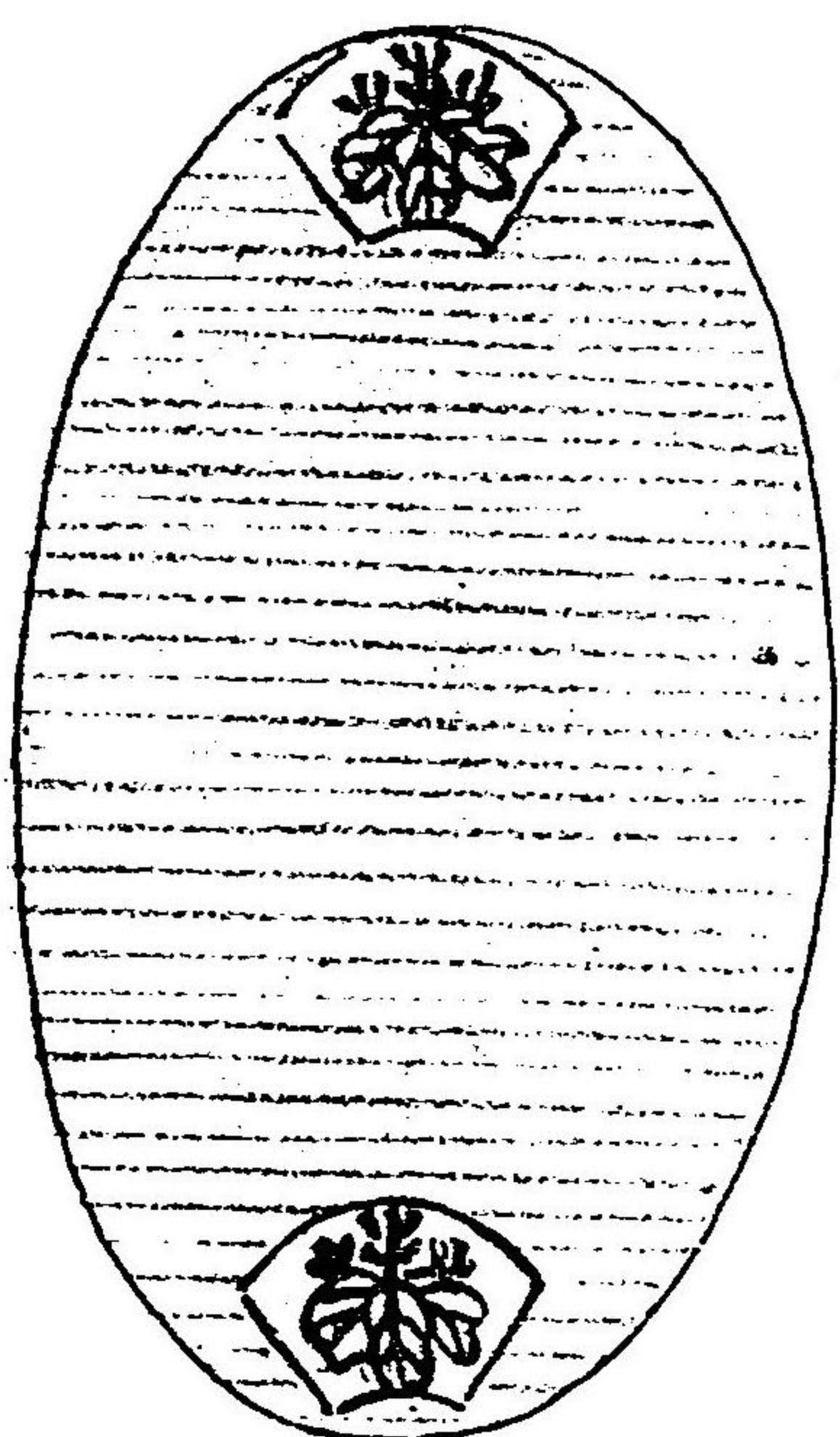


背

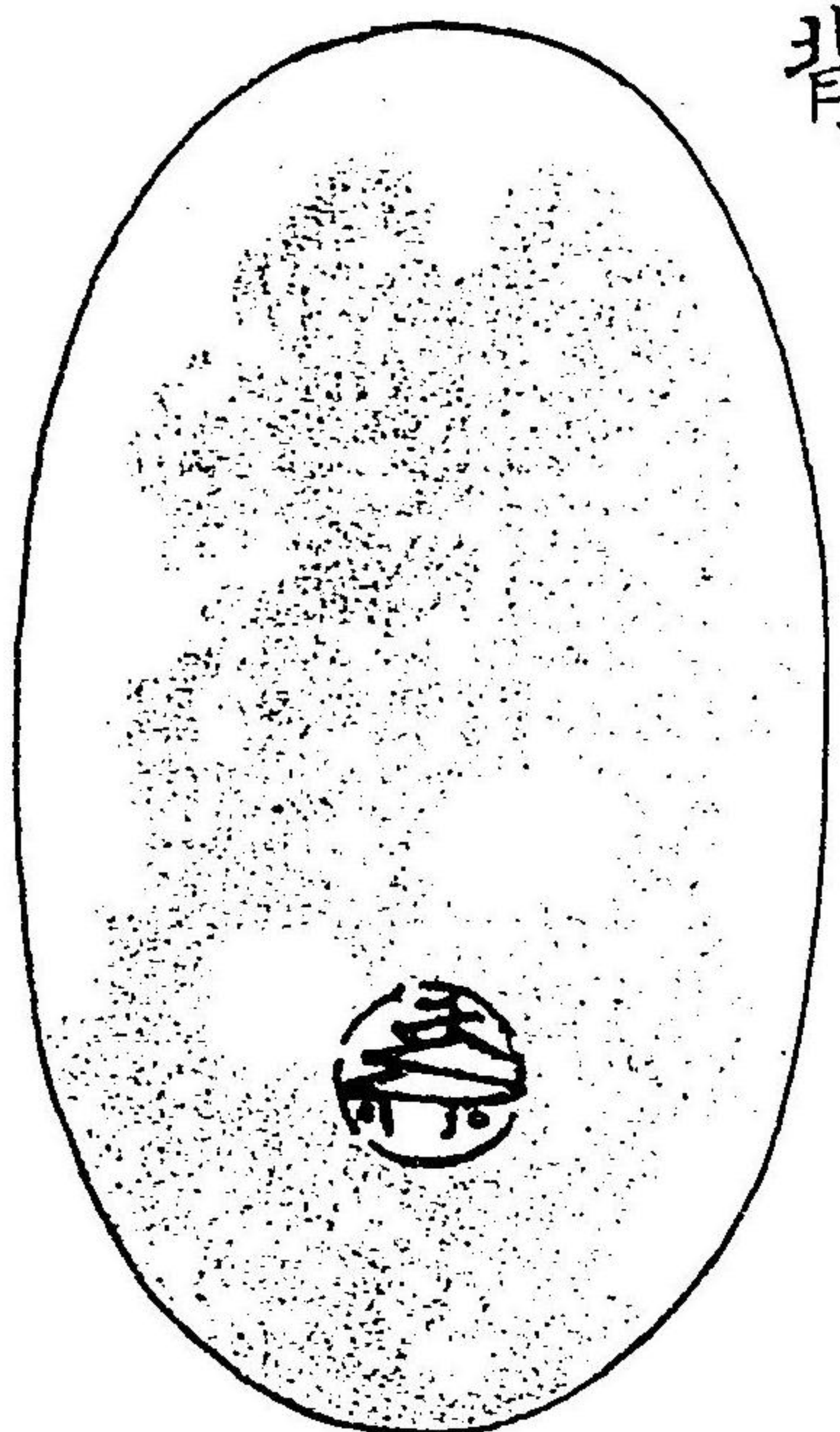


全上

重廿全上



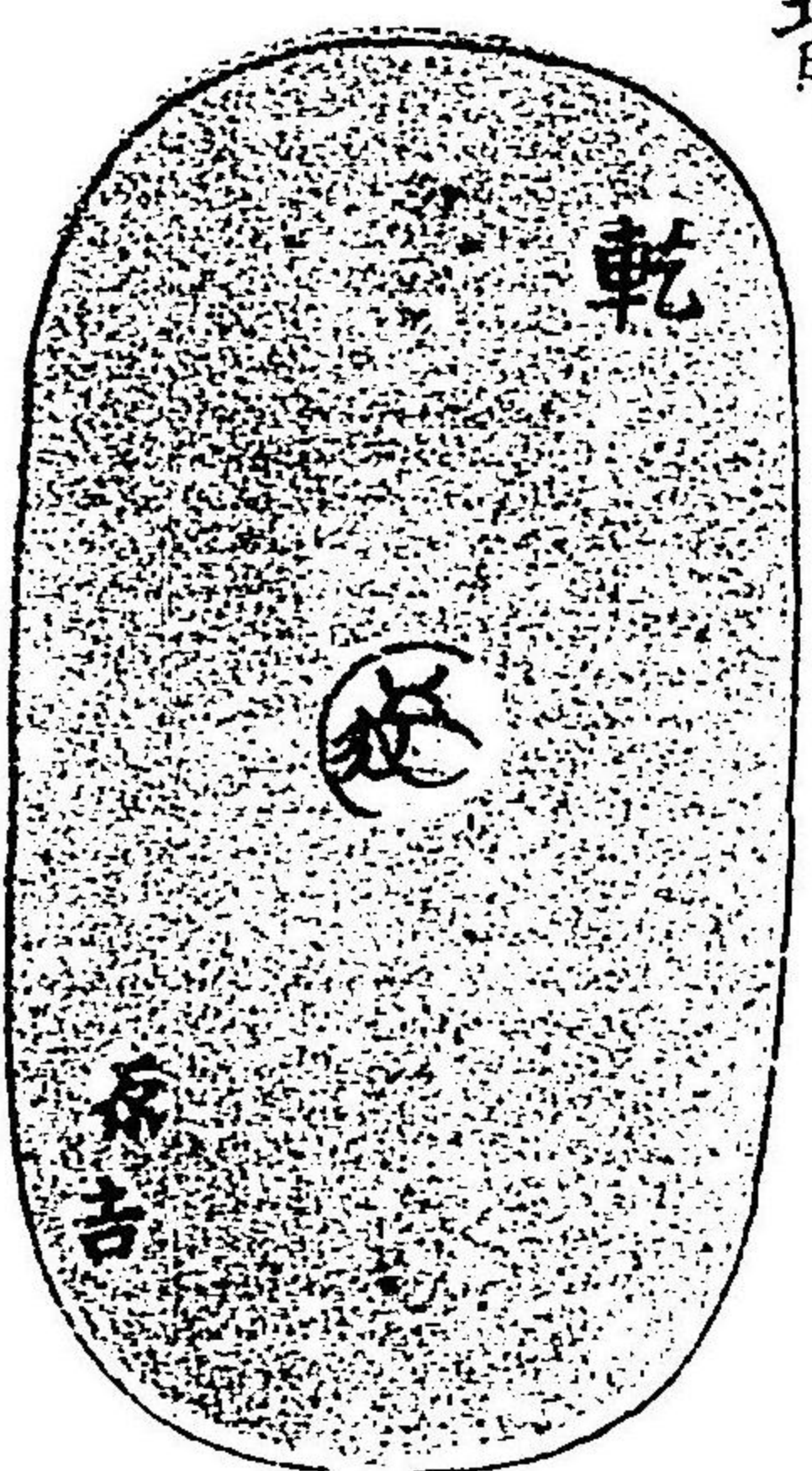
背



乾字小判 重廿各二又五分



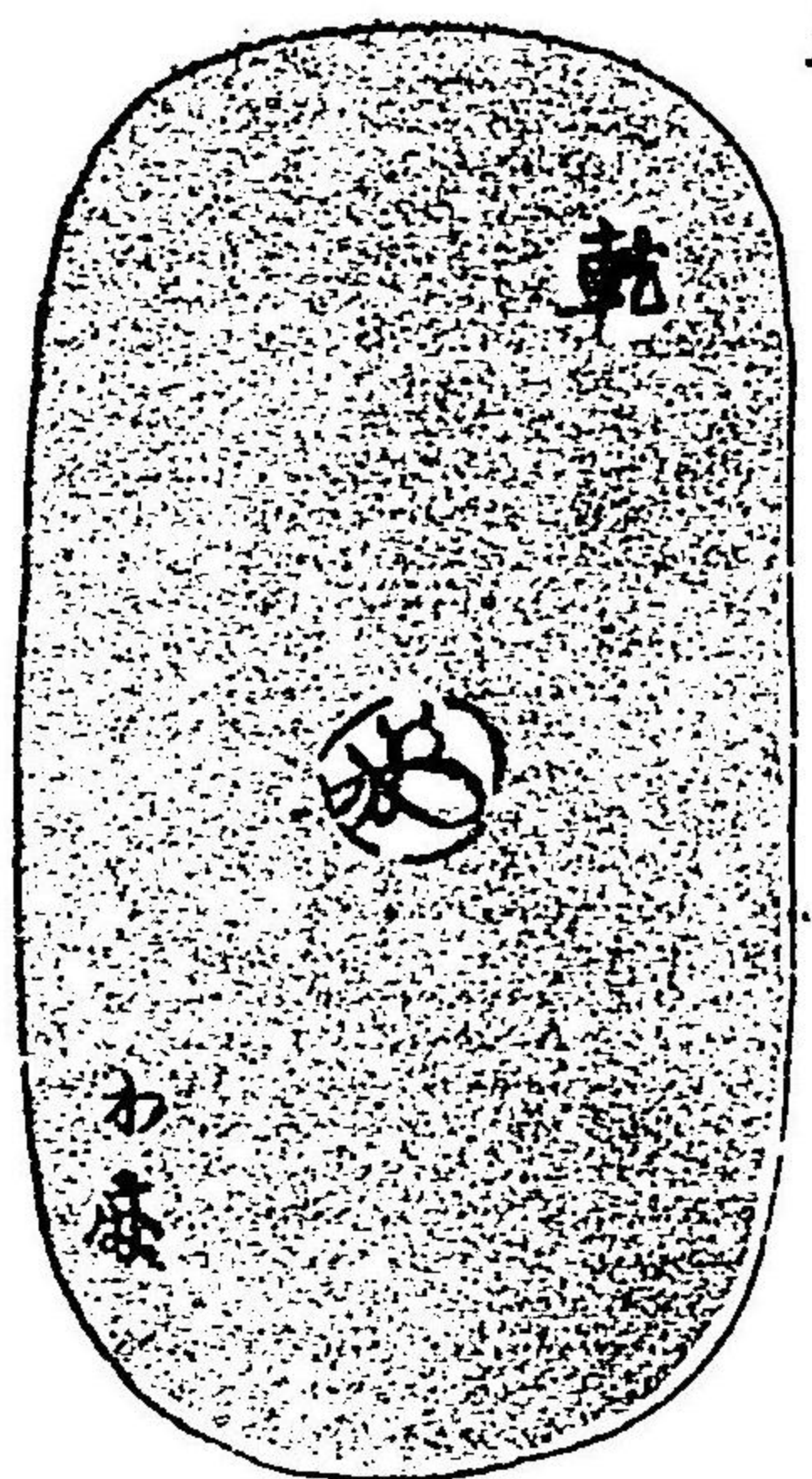
背



全上



背



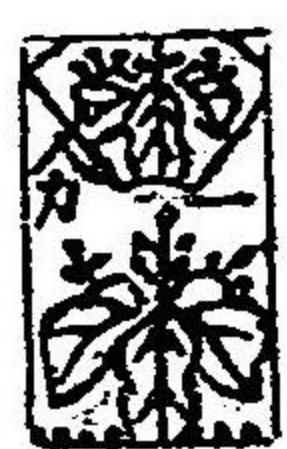


享保大判金

享保大小判金

重廿四拾四又一分

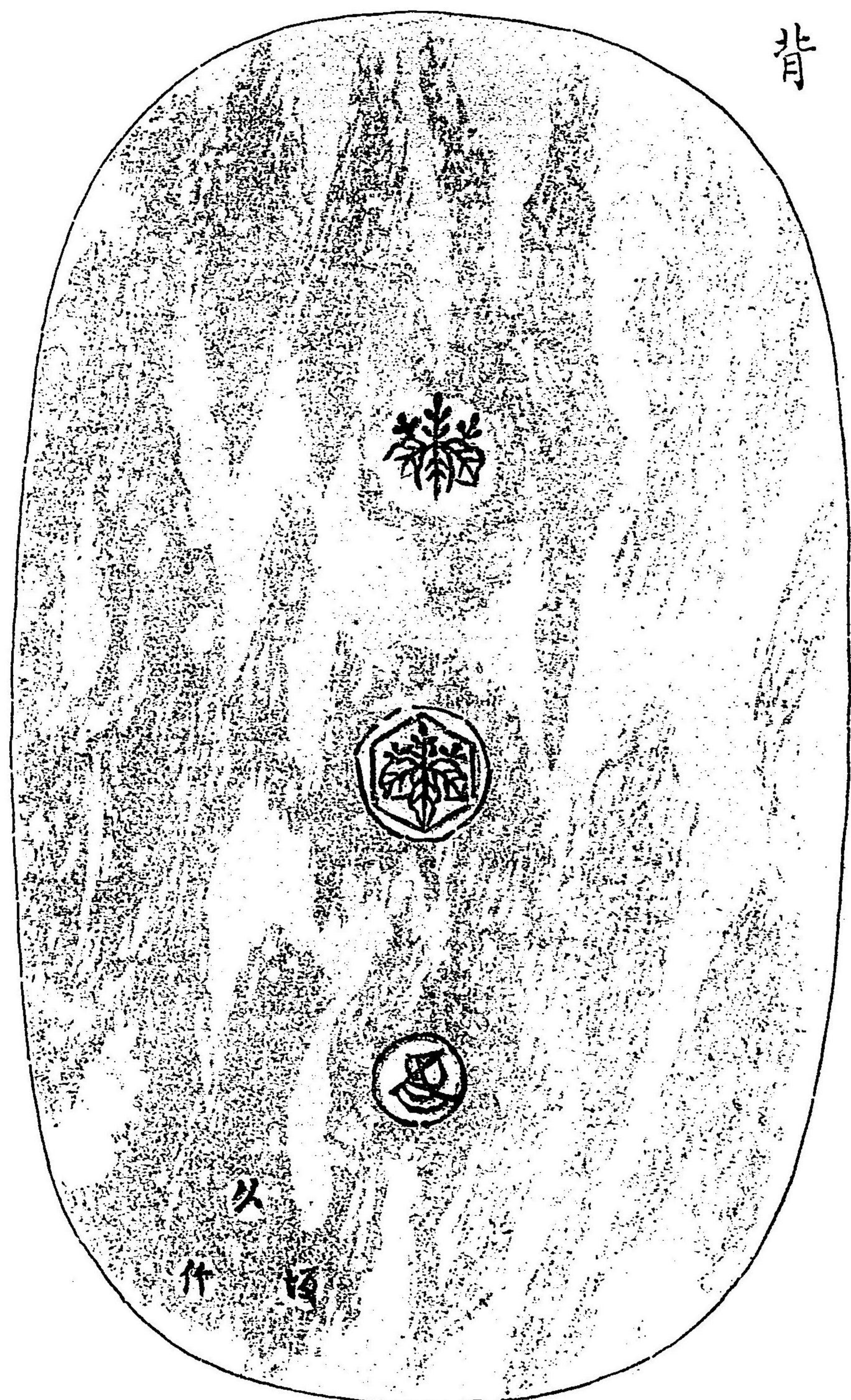
一分金 重廿各六分二厘五毛



全上
異品

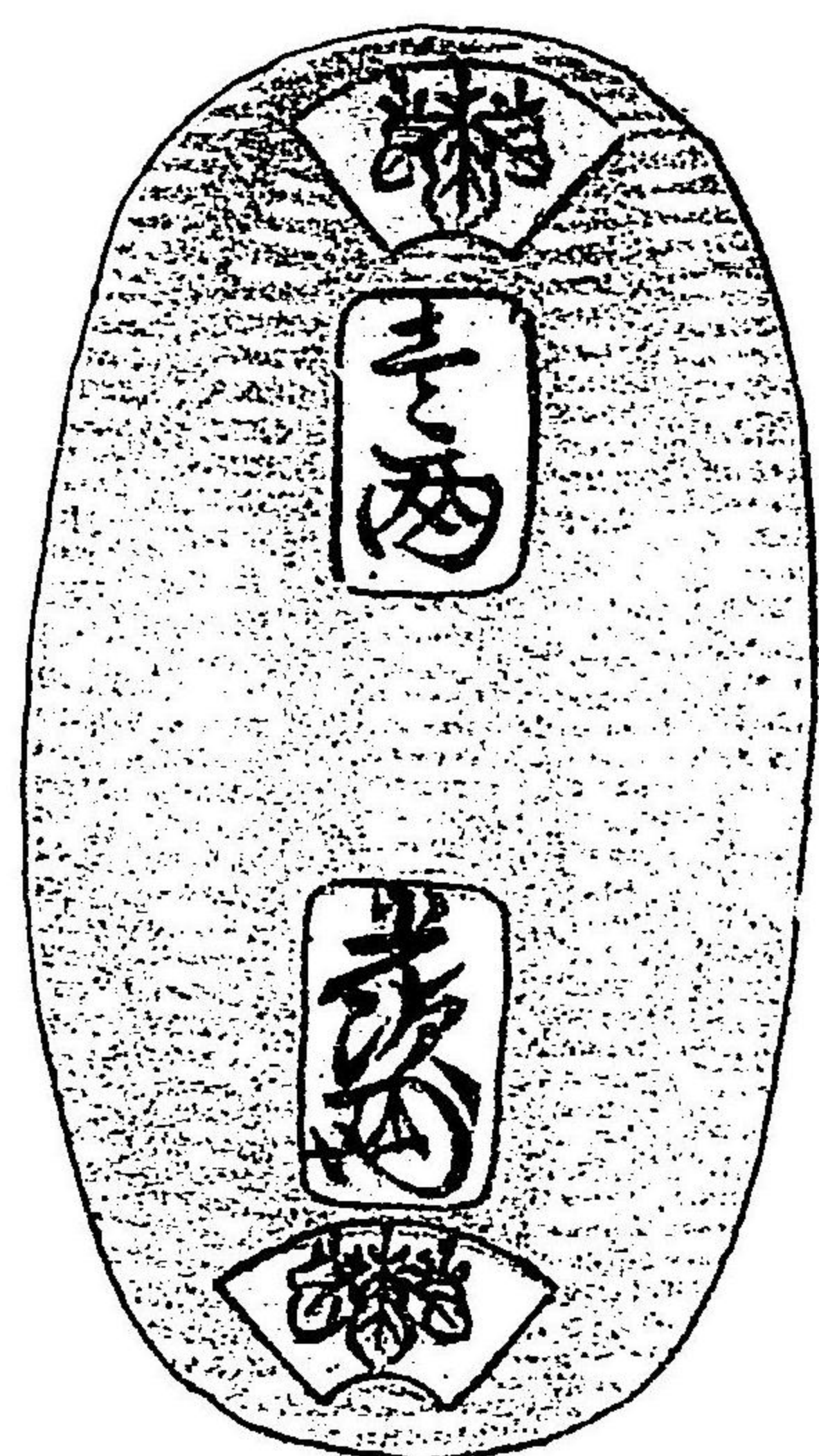


背

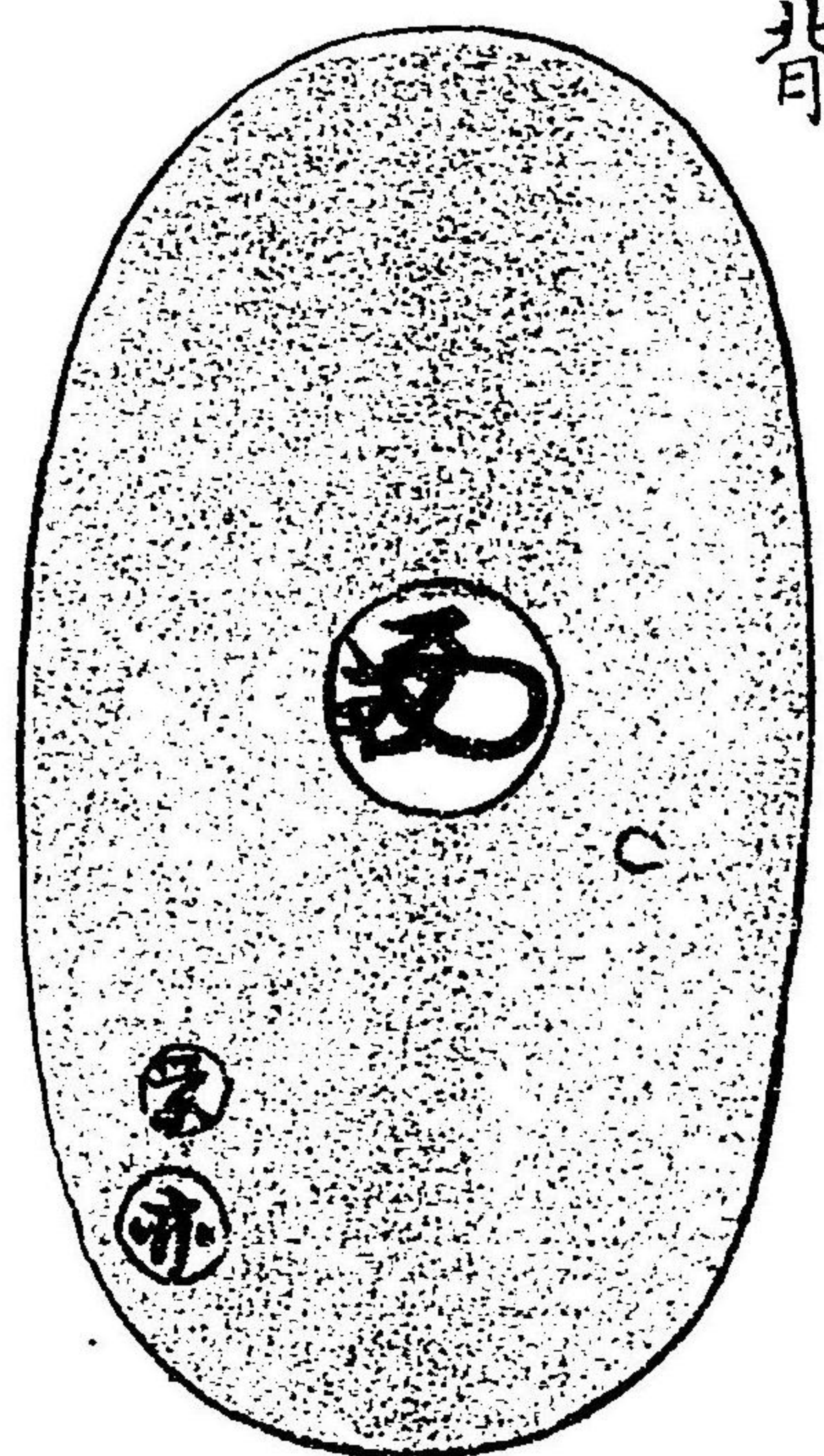


享保小判金

重廿四匁七分六厘



背



一分判金

重廿一匁二分



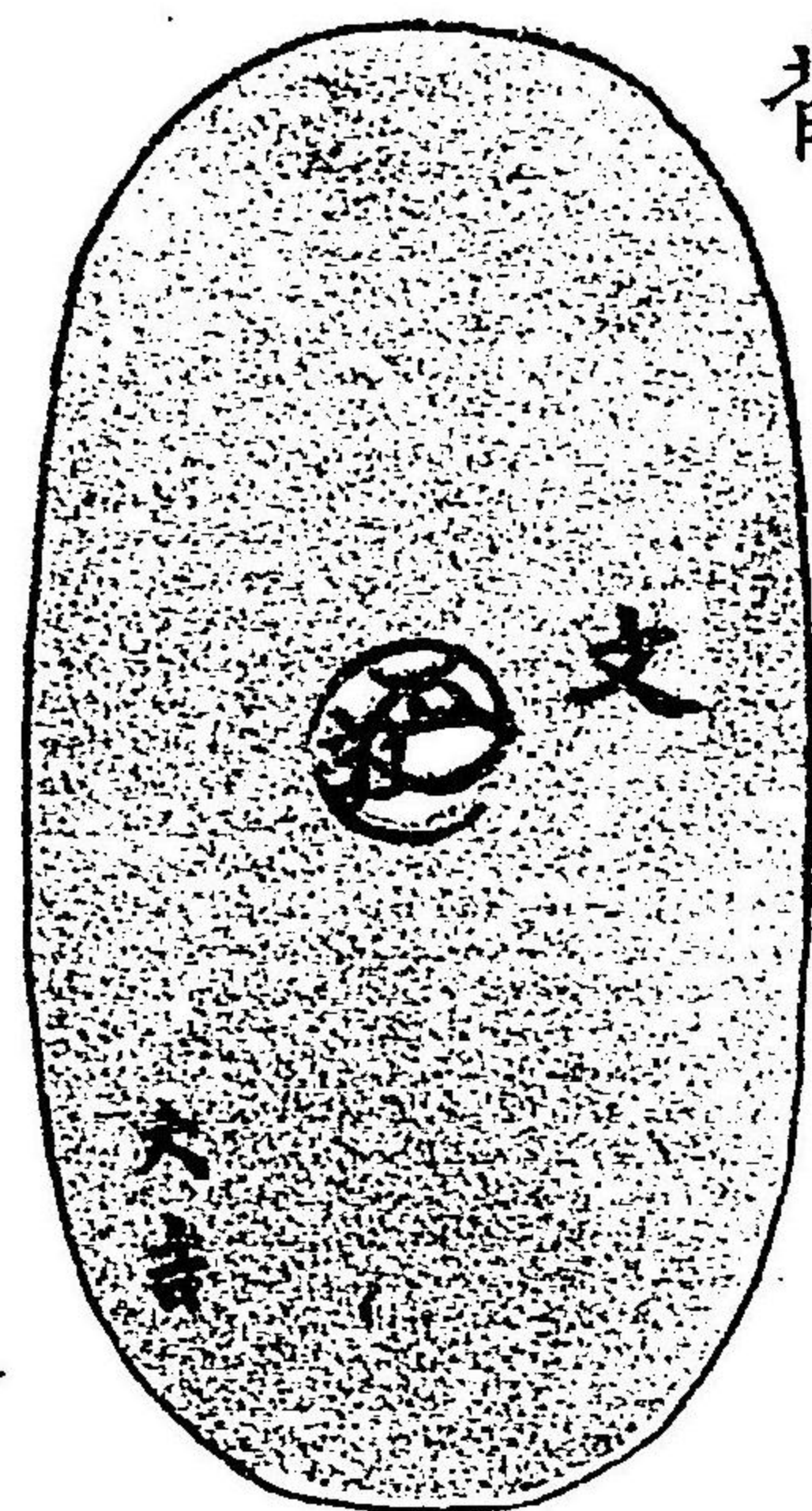
背



古文字小判金 重廿三匁五分



背



真字二分判



背 重廿一匁七分五厘



一分判金

真文



重廿六分二厘五



草文

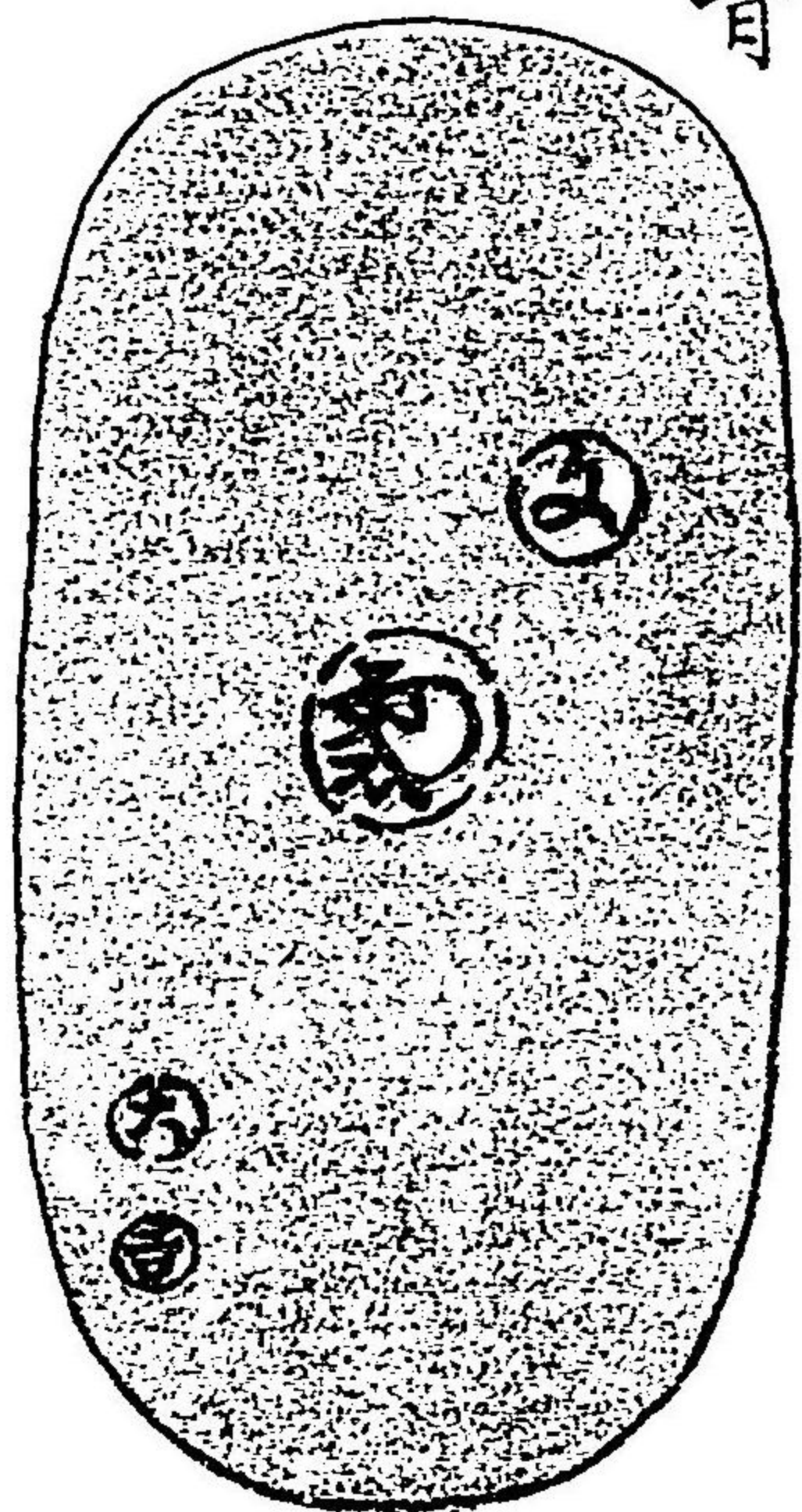


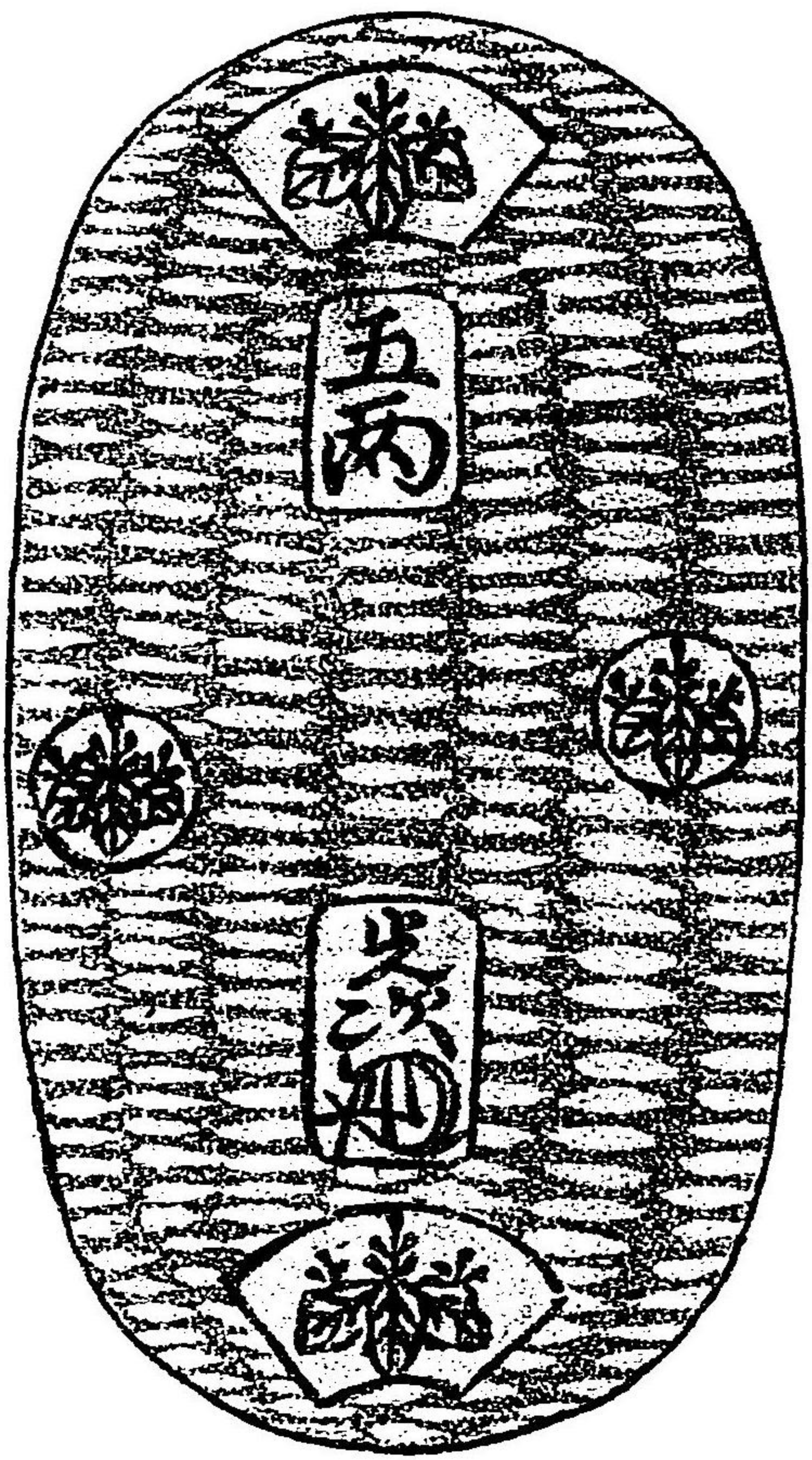
文政小判金

文政小判

重廿三匁五分

背





五兩判金



背



古二朱金



草字二分判



背

重廿四分三厘七五



背

重廿一厘七分五厘



一朱金



一分判金

重廿三分七厘五



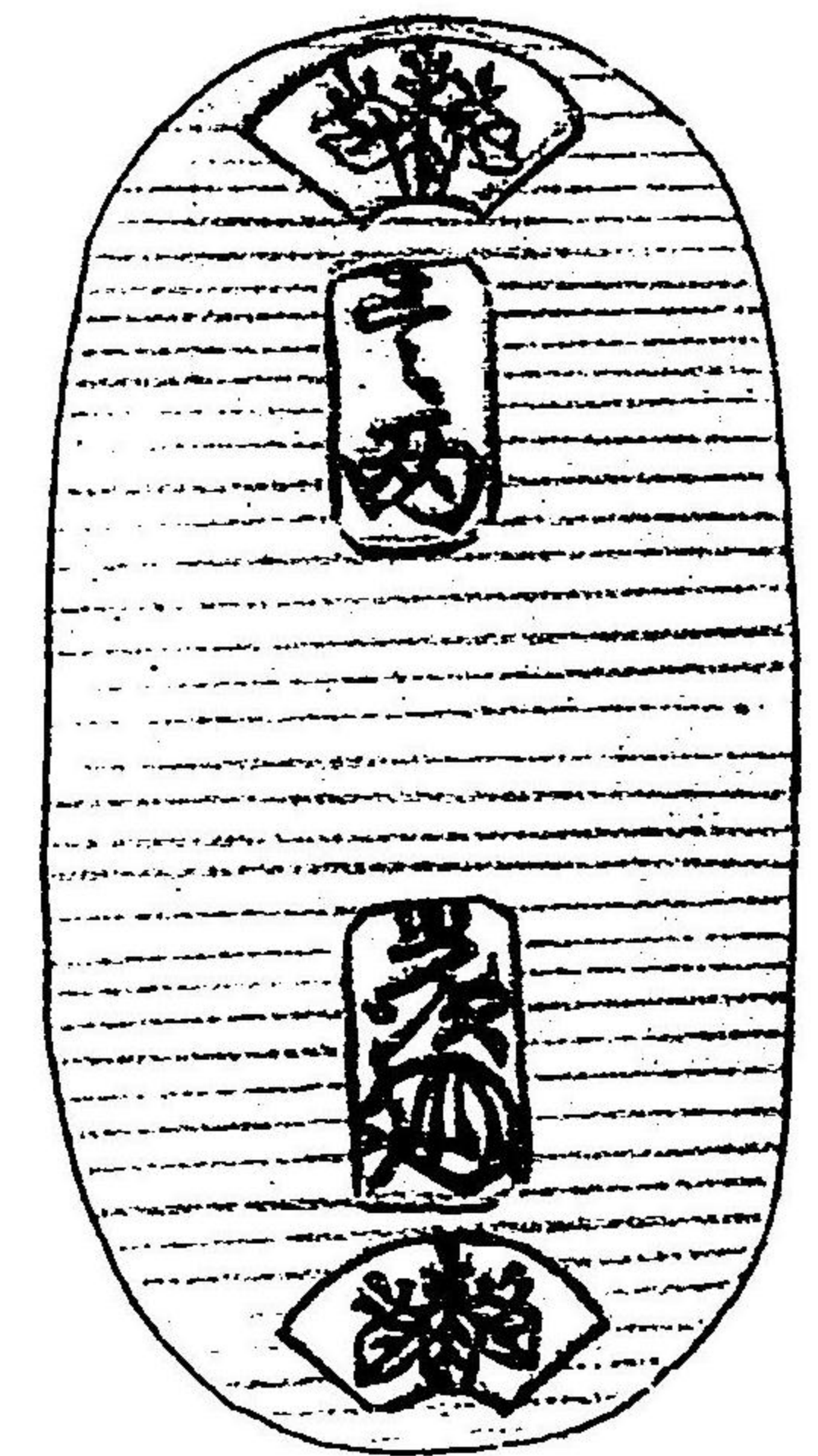
背



背

重廿八分七厘五

保字小判金 重廿三匁



一分判金 重廿七分五厘



背



背



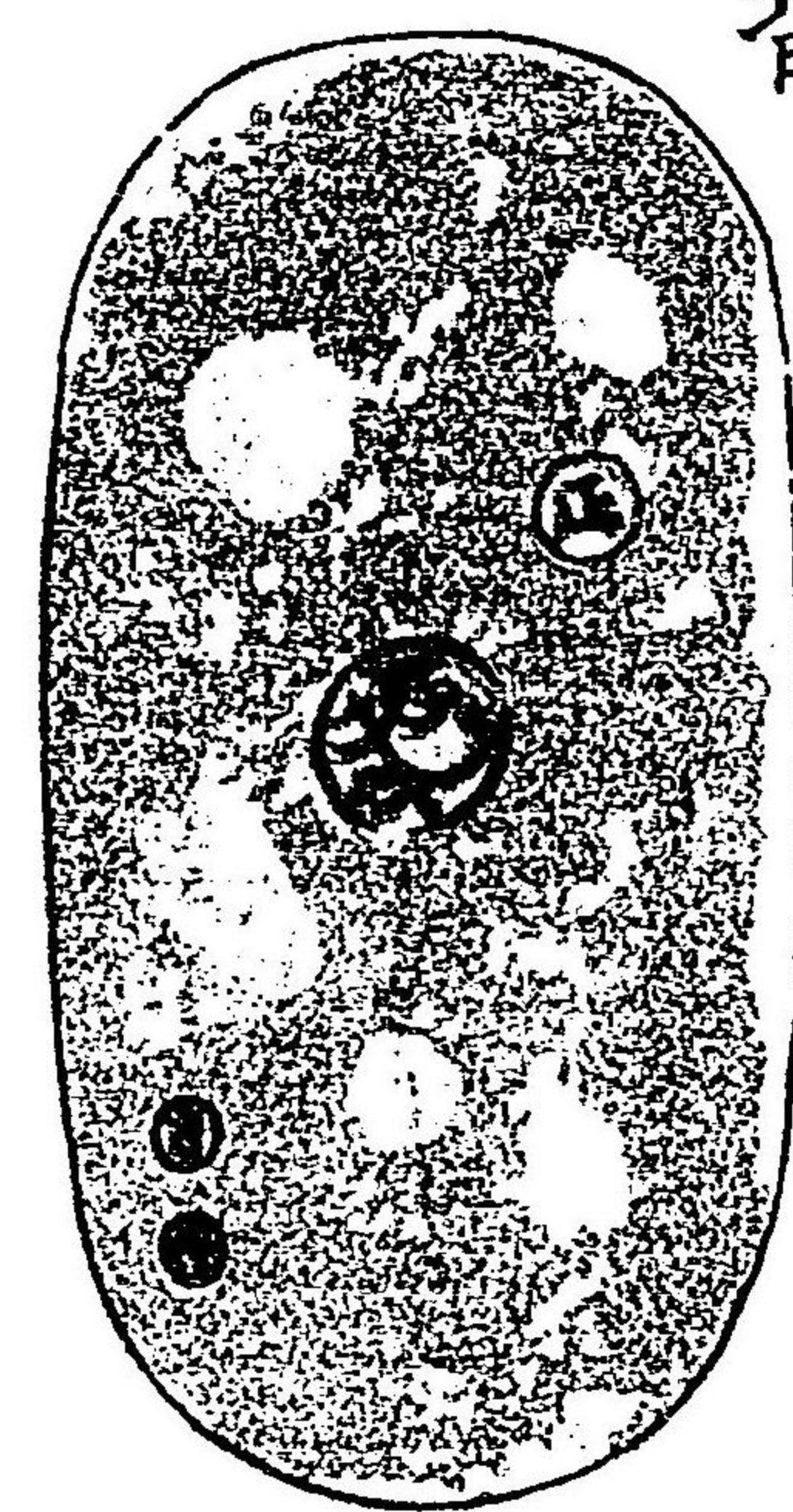
正字小判金 重廿二匁四分



一分判金 重廿六分



背



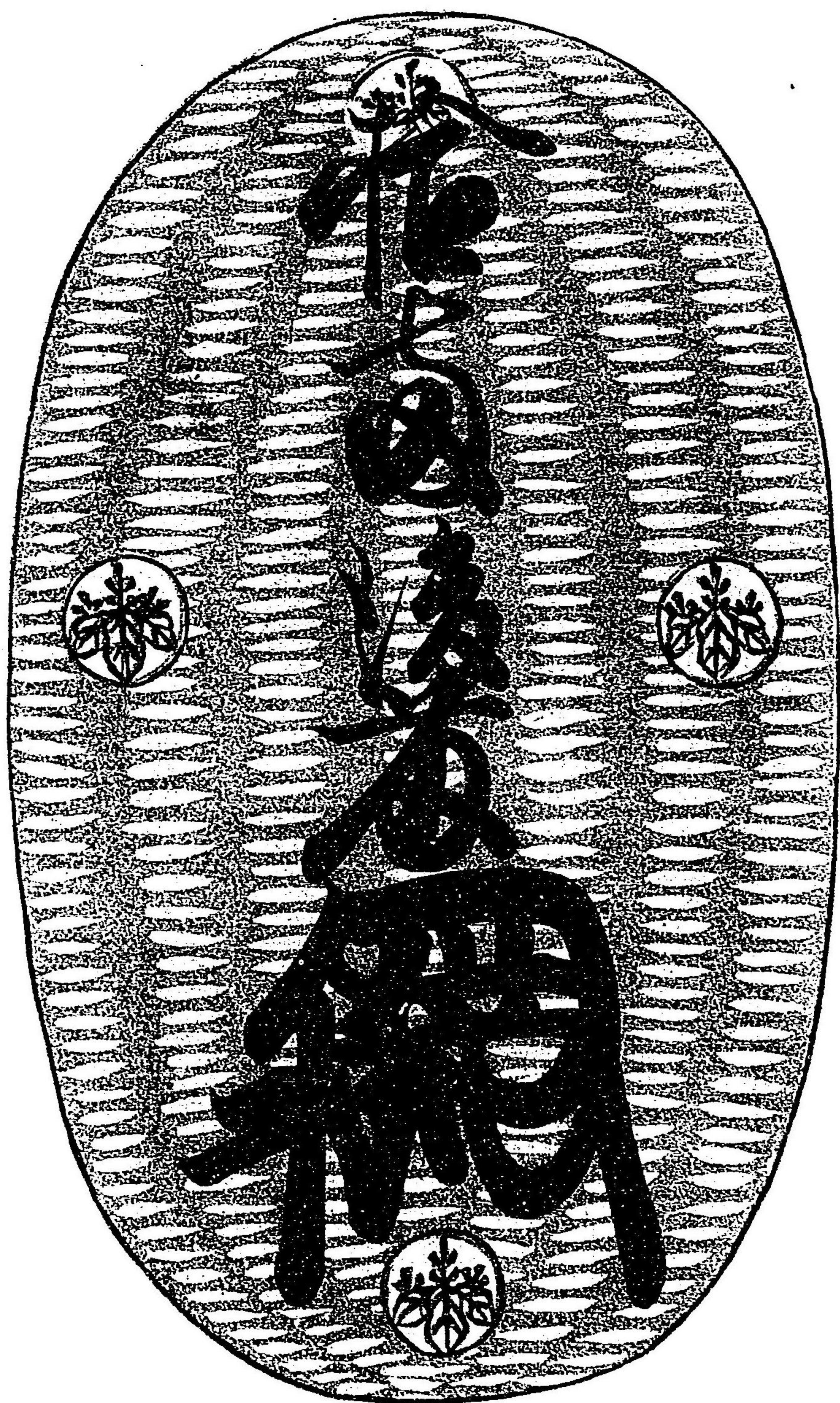
背



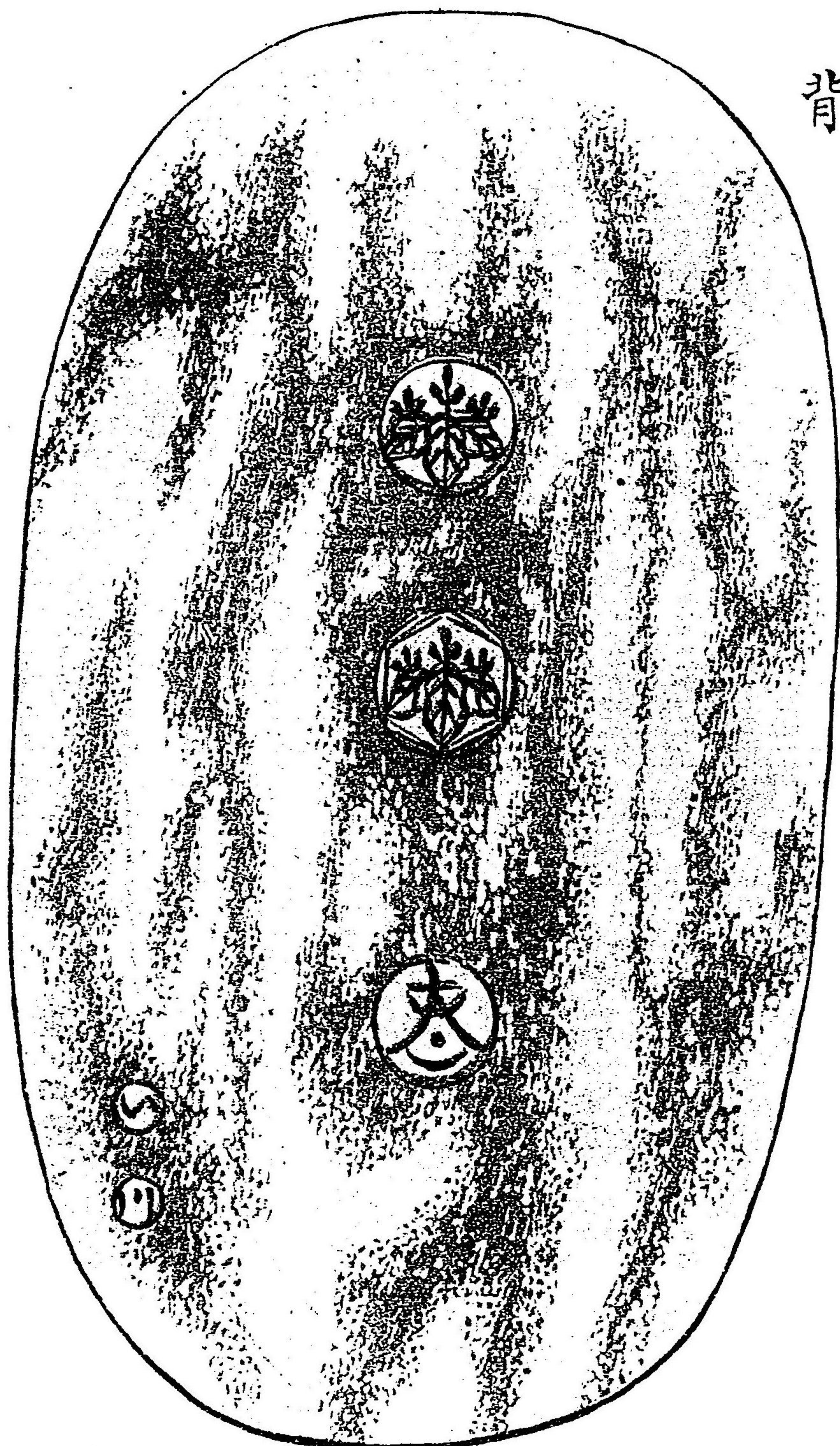
天保大判

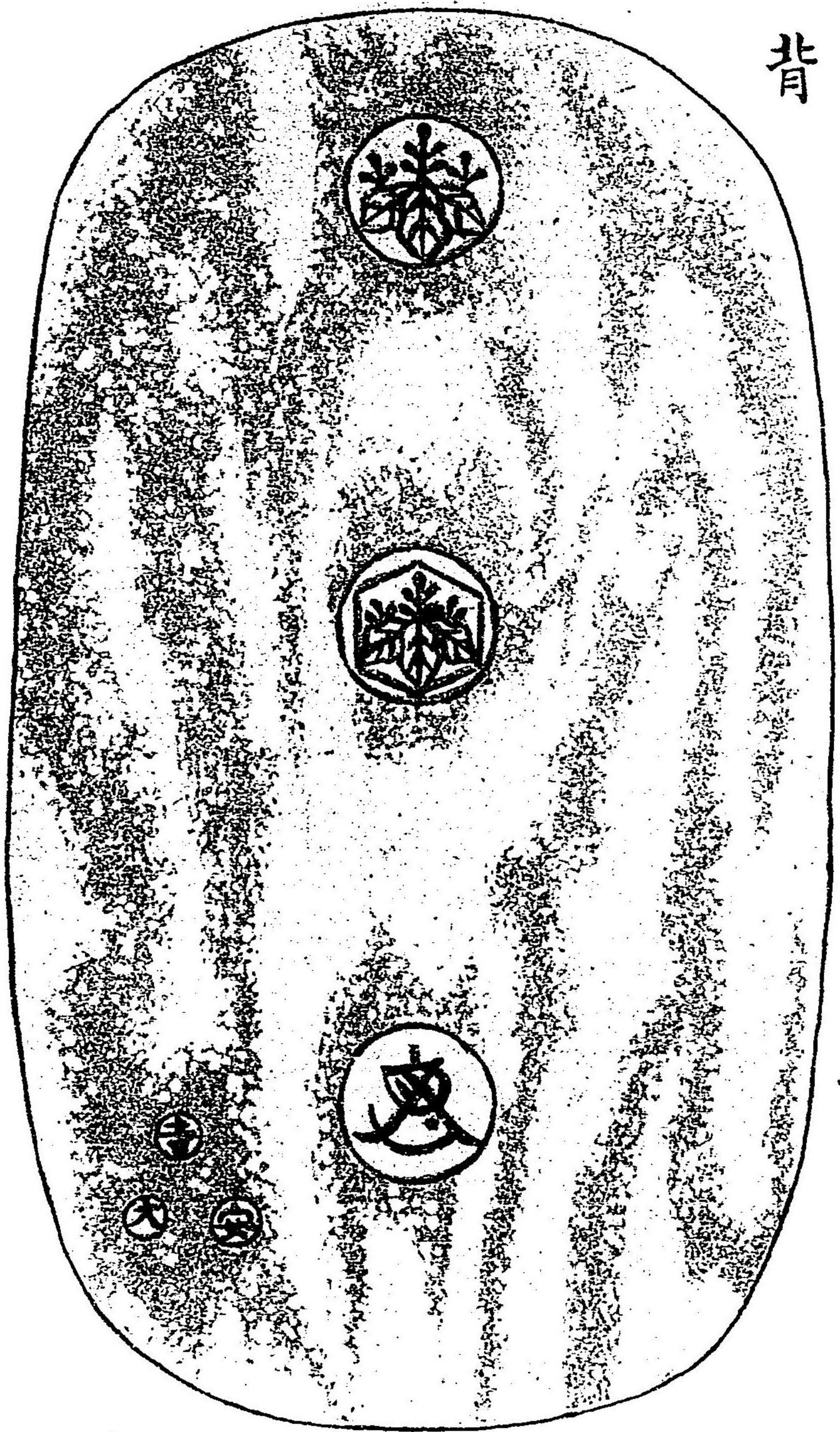
天保大判金

重廿四拾匁



背





背



安政大判金 重廿四拾四又一分

安政二分判金



安政大小判金

重廿一又五分

背



明治三十六年七月十五日印刷
明治三十六年七月廿二日發行



著者兼
發行

吉岡源七

大阪市東區北濱貳丁目百六十番屋敷

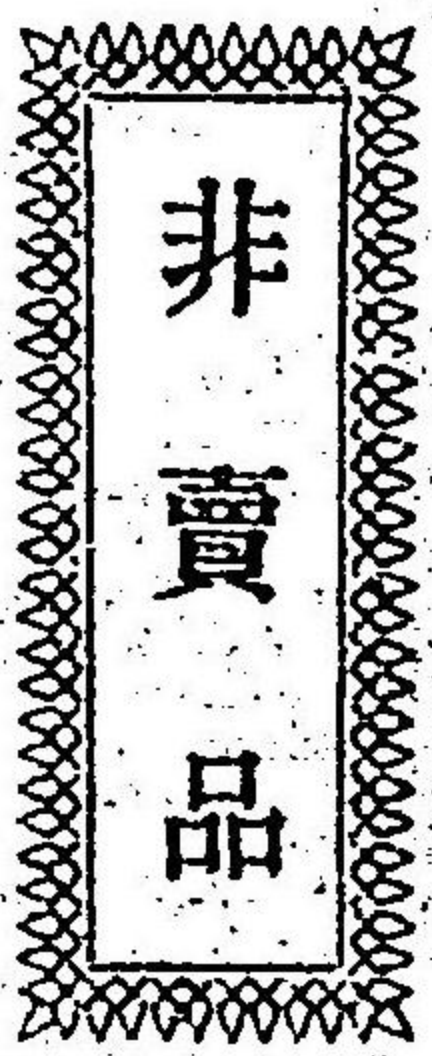
印刷者

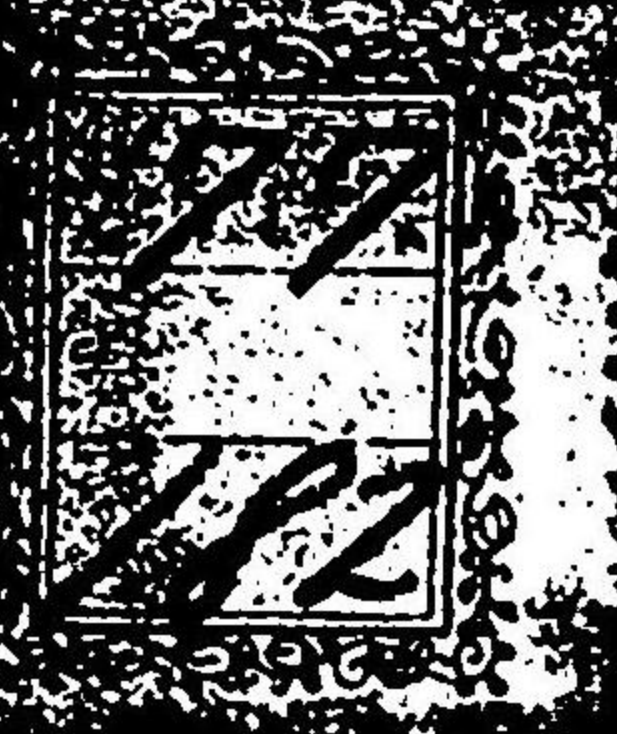
松本貞藏

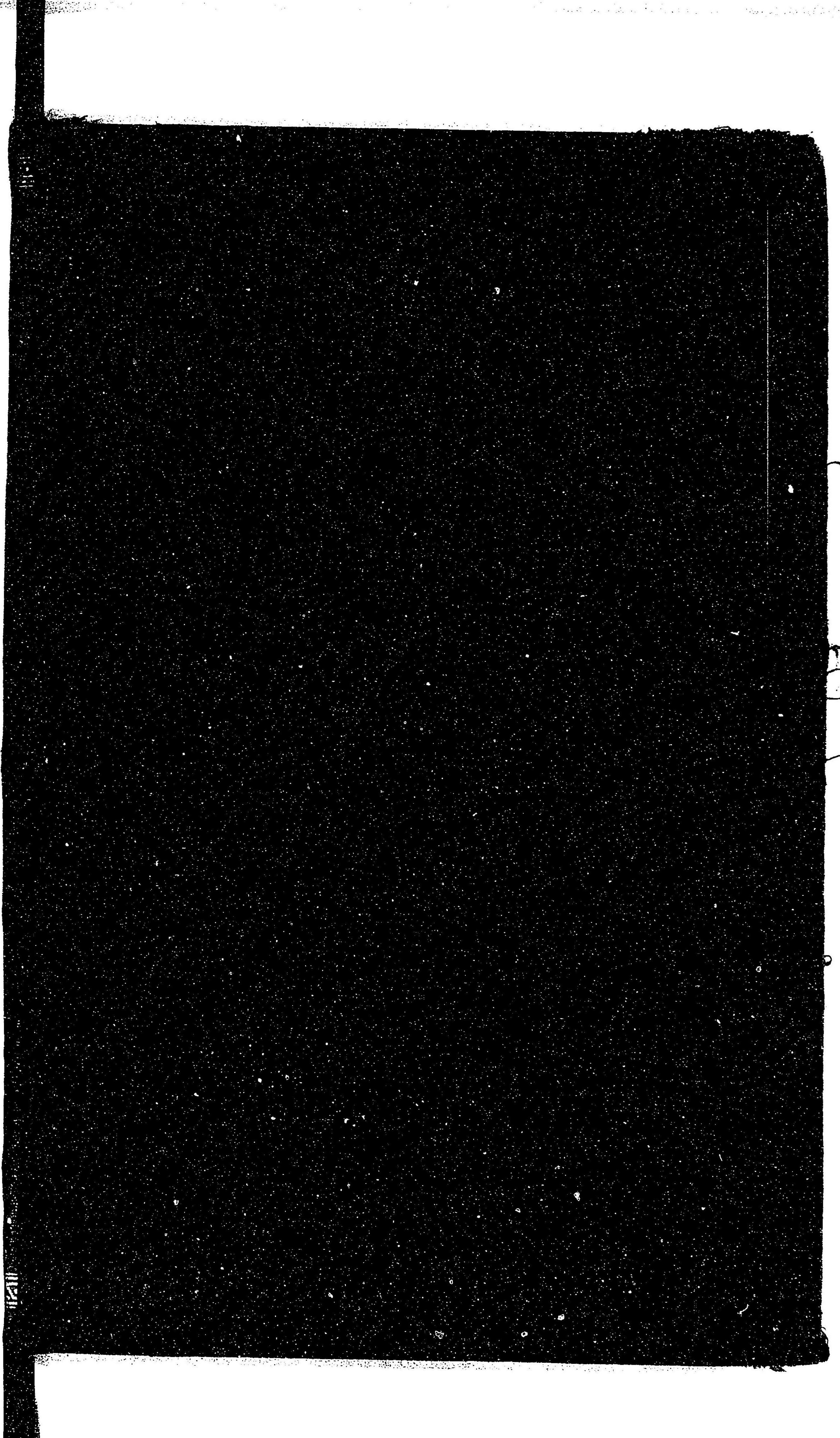
大阪市東區本町一丁目三十番屋敷
大阪國文社

印刷所

大阪市東區本町一丁目三十番屋敷
株式會社 大阪國文社







041306-000-5

337.78-0776r

兩替商沿革史

大阪兩替商組合

M36.7

BDF-0530



